

## 実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
上原 尚子	生活支援技術Ⅰ	20	医療施設にて管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士として勤務
	生活支援技術Ⅲ	10	
上本 義博	認知症の理解	30	高齢者福祉施設にて介護福祉士、介護支援専門員として勤務
	生活支援技術Ⅱ	60	
	介護総合演習Ⅱ	60	
	介護過程Ⅱ	60	
	介護過程Ⅲ	30	
内平 八重子	認知症の理解	30	町 保健師として勤務
上栗 哲男	児童福祉論	30	児童養護施設の施設長として勤務
河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
	障害の理解	60	
	医療的ケア	50	
	医療的ケア	10	
	生活支援技術Ⅲ	20	
崎井 真弓	こころとからだのしくみⅠ	30	病院にて看護師として勤務
	こころとからだのしくみⅡ	60	
	こころとからだのしくみⅡ	30	
	生活支援技術Ⅲ	20	
澤田 祥子	生活支援技術Ⅲ	20	広島県ろうあ連盟から派遣され手話通訳士として多部門で勤務
西津 和幸	情報処理演習	30	システム系企業 システム開発担当として勤務
野村 裕之	介護の基本Ⅰ	90	病院にて介護福祉士として勤務
橋本 昇	福祉事務所運営論	30	市 福祉事務所所長として勤務
藤田 玖味子	コミュニケーション技術	60	精神障害者就労促進事業所作業所にて指導員として勤務
森川 史恵	人間関係とコミュニケーション	30	高齢者福祉施設にて介護福祉士として勤務
	生活支援技術Ⅰ	6	
	生活支援技術Ⅱ	60	
	生活支援技術Ⅲ	40	
	介護総合演習Ⅰ	60	
	介護過程Ⅰ	60	
山崎 年幸	介護の基本Ⅱ	30	病院にて介護福祉士として勤務
	生活支援技術Ⅲ	10	
上本 義博 河野 ひろ子 森川 史恵 各実習施設指導者	介護実習Ⅰ	45	実習施設指導者は高齢者福祉施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要)
	介護実習Ⅱ	90	
	介護実習Ⅲ	135	
	介護実習Ⅳ	180	
森脇 浩子 各実習施設指導者	社会福祉現場実習	90	実習施設指導者は各施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、資格によって3年から8年の相談援助実務が必要)
		1736	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 講義		授業担当者 森川 史恵	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (15コマ)	配当学年・時期 介護福祉科1年 前期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>より良い人間関係を形成するために、人間関係に影響を及ぼす因子について学習する。</li> <li>より良い人間関係を形成するために、人間関係の障壁になる因子について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、コミュニケーションの構成要素について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、傾聴テクニックについて学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、言語的コミュニケーションの基本について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、非言語コミュニケーションの基本について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、電話でのコミュニケーションの基本について学習する。</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人間関係に影響を及ぼす因子について理解する。</li> <li>人間関係の障壁になる因子について理解する。</li> <li>コミュニケーションの構成要素について理解する。</li> <li>傾聴テクニックについて理解する。</li> <li>言語的コミュニケーションの基本について理解する。</li> <li>非言語コミュニケーションの基本について理解する。</li> <li>電話でのコミュニケーションの基本について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●人間関係の形成	1	人間関係の形成 1	人間関係の形成にとって必要なことについて、これまでに学んだこと及び学生自らの体験に照らし、考える	講	
	2	人間関係の形成 2		講	
	3	支援関係における人間関係の形成	支援関係における人間関係形成の必要性について	講	
	4	人間関係に影響を及ぼす因子	偏見、欲求不満、行動、人生経験	講	
	5	人間関係形成の障壁となるもの	ラベリング、感覚器障害、言語不明瞭	講	
	6	人間関係とコミュニケ	対人関係におけるコミュニケーション(準言語・非言語)について	講	
●コミュニケーションの基礎	7	コミュニケーションの構成因子	メッセージ、送り手、受け手	講	
	8	受容・共感・傾聴	これまで学んだ言語的・準言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、「受容的」、「共感」、「傾聴」を学ぶ	講	
	9	言語的コミュニケーション①	受動的、能動的、攻撃的コミュニケーション	講	

1 0	言語的 コミュニケーション②	適切な敬語の練習、質問及び言葉が利用者に及ぼす影響を考える	講
1 1	記述による コミュニケーション	模擬的記録を作成し、記録作成留意点を確認する。また、記録の活用場面を鑑みて、記録の重要性を考える	講
1 2	非言語的 コミュニケーション①	適切な表情・目線・動作・姿勢・装い等を考える	講
1 3	非言語的 コミュニケーション②	適切な対人距離・位置を考える	講
1 4	電話での コミュニケーション	電話の応対	講
1 5	模擬面談	生活・介護場面における相談場面を想定し、模擬面接を行う	ロール プレイ
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 人間の理解」(メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「コミュニケーション学入門」(松柏社) 「声かけ・応答ハンドブック」(中央法規)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 児童福祉論		授業の種類 講義		授業担当者 上栗 哲男	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(15コマ)	配当学年・時期 介護福祉科2年 前期		必修・選択 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 「児童の最善の利益」の探求 <b>【授業全体の内容の概要】</b> テキストを中心に児童の福祉の現状を現場(施設)のケースを紹介しながら概観したい。 <b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 「児童最優先」が理解できること					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●児童福祉とは	1	児童福祉の理念・発展	オリエンテーション	講	
	2		子どもと家庭の権利保障	講	
●児童を取り巻く現状	3	児童福祉の法・実施体系、 財政	現代社会と児童家庭福祉問題	講	
	4		子ども家庭支援サービス	講	
	5		社会的養護と自立支援サービス	講	
	6		児童福祉法の改正	講	
	7	健全育成	母子保健	講	
	8		障害児の福祉・保育	講	
	9	保護を要する児童の福祉	児童虐待対策	講	
	10		ビデオ教材による事例検討	講	
	11		ドメスティック・バイオレンスへの対応	講	
●支援体制	12	保育政策	ひとり親家庭の福祉・子育て支援	講	
	13	要保護児童施設	児童福祉と専門職、福祉機関	講	
	14	児童福祉施設	施設ケアと児童福祉援助活動	講	
	15	まとめ	地域援助活動・試験	講	
<b>【使用テキスト】</b> 「改訂・保育士養成講座 児童福祉」 全国社会福祉協議会 <b>【参考文献】</b> 特になし			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり		

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 情報処理演習		<b>授業の種類</b> 演習		<b>授業担当者</b> 西津 和幸	
<b>授業の回数</b> 15回	<b>時間数(単位数)</b> 30時間(15コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> コンピュータをはじめとする情報機器についての知識と技術を深める。 主に、表計算ソフトを使用した情報処理能力を身に付け、さらにワープロソフトとの互換性を理解し、パソコンを有効に活用する。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> ①コンピュータの周辺機器について ②表計算ソフト(関数・グラフ機能を使用した表計算) ③ワープロソフト(表計算データを利用する)					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> ・表計算ソフトの基本操作を習得する。 ・グラフ機能等を活用したビジネス文書を作成する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●はじめに	1	Windows・Microsoft Excel	基本操作	演	
●Excel	2	Excel使用法1	体裁・集計関数	演	
	3	検定問題練習	4級	演	
	4	Excel使用法2	順位・条件関数	演	
	5	Excel使用法3	ソート・端数処理	演	
	6	検定問題練習	3級	演	
	7	Excel使用法4	検索処理・グラフ1	演	
	8	Excel使用法5	グラフ2・3	演	
	9	検定問題練習	2級	演	
●Word	10	Word応用1	表計算ソフトからのデータ挿入	演	
	11	パソコンの基礎知識	周辺機器について	演	
	12	Word応用2	デジタルカメラからのデータ挿入	演	
	13	Word応用3	インターネットからのデータ挿入	演	
	14	情報機器を使用した教材作成		演	
	15	実技試験・筆記試験		演	
<b>【使用テキスト】</b> 30時間でマスター Word2000(実教出版)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり		
<b>【参考文献】</b>					

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護の基本Ⅰ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 45回	<b>時間数(単位数)</b> 90時間(45コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 社会福祉、介護福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について学習する。 2. 介護福祉の基本的理念について学習する。 3. 介護福祉の対象となる人について学習する。 4. 介護福祉サービスについて学習する。 5. 他職種との連携、共働について学習する。 6. 介護福祉の倫理について学習する。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 社会福祉、介護福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について理解する。 2. 介護福祉の基本的理念について理解する。 3. 介護福祉の対象となる人について理解する。 4. 介護福祉サービスについて理解する。 5. 他職種との連携、共働について理解する。 6. 介護福祉の倫理について理解する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護福祉士を取り巻く状況	1	オリエンテーションー介護福祉士のイメージ	授業の内容と進め方。介護・介護福祉士に対するイメージを膨らませる	講	
	2	介護福祉士を取り巻く状況①	世界の中の日本、少子高齢化と社会福祉、社会保障	講	
	3	介護福祉士を取り巻く状況②介護の歴史	日本の介護の歴史 養老院、寮母、家庭奉仕員、家族中心の介護措置制度	講	
	4	介護福祉士を取り巻く状況③介護問題の背景	平均寿命、合計特殊出生率、少子高齢化の推移、核家族化、女性の社会進出、家族機能の変化	講	
	5	介護福祉士を取り巻く状況④介護問題の背景	老老介護、高齢者の自殺、介護殺人・心中、高齢者虐待の実態と背景	講	
	6	介護福祉士を取り巻く状況⑤介護問題の背景	生活の価値観の変化、2015年の高齢者像、団塊の世代、介護保険制度の改正、尊厳の保持	講	
	7	介護福祉士を取り巻く状況⑥	利用者中心主義、身体拘束禁止、事故処理、苦情処理	講	
	8	介護福祉士を取り巻く状況⑦	労働環境、介護者の不足	講	
●介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法の改正、介護福祉士の定義、心身の状況に応じた介護	講	

	1 0	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ② 社会福祉士及び介護福祉士法 専門職能団体の活動	介護福祉士の専門性、名称独占・業務独占、専門職能団体の活動、日本介護福祉士会倫理綱領	講
	1 1	介護実践における連携① 多職種連携（チームアプローチ）	介護を必要とする人の持つ生活課題の理解、介護実践するための職種の理解	講
	1 2	介護実践における連携② 多職種連携（チームアプローチ）	生活課題解決のための多職種連携の必要性	講
	1 3	介護実践における連携③ 多職種連携（チームアプローチ）	介護福祉士の気づきをどのように連携につなげるか（具体的な事例をもとに）	講
	1 4	介護実践における連携④ 多職種連携（チームアプローチ）	他の職種から期待される連携のあり方と介護福祉士の役割	講
	1 5	介護実践における連携⑤ 地域連携	在宅重視、生活の場、地域連携の意義目的、利用者の生活する場・周辺のインフォーマルサービスの機能と連携	講
	1 6	介護実践における連携⑤ 地域連携	障害を持って1人で在宅生活を送っている人がどのような生活を願い実践しているか	講
	1 7	介護実践における連携⑥ 地域連携	在宅重視、地域包括支援センターとの連携、市町村・都道府県の機能と役割	講
●尊厳を支える介護	1 8	尊厳を支える介護① 介護のイメージ	「介護とは何か」、「家族とは」・「老いとは」、「生老病死」、ともに学びあう行為としての介護	講
	1 9	尊厳を支える介護② 介護とは何 QOL	人間尊重・人間の尊厳について、介護の本質・特性、QOLの考え方、自己実現の過程、潜在的可能性・発達の可能性	講
	2 0	尊厳を支える介護③ ノーマライゼーション	平等主義・機会均等の思想に立脚したノーマライゼーションの考え方、歴史的背景と概念、ノーマライゼーションの実現	講
	2 1	尊厳を支える介護④ 利用者主体	「主体性尊重の原理」、「選択意思の尊重」、利用者主体の考え方とその具体的な取り組み	講
●自立に向けた介護	2 2	自立に向けた介護① 自立支援	自立・自律の考え方、自己決定・自己選択、自立生活の概念、自立支援の考え方	講
	2 3	自立に向けた介護② 自立支援	自立支援の具体的展開、生活意欲への働きかけとエンパワメント	講

	24	自立に向けた介護③ 個別ケア	「個別化の原理」、個別ケアの考え方 とその具体的な展開	講
	25	自立に向けた介護④ ICF	ICF（国際生活機能分類）の考 え方、ICFの視点に基づく利用者の アセスメント	講
	26	自立に向けた介護⑤ リハビリテーション	リハビリテーションの考え方・概念・ 実際 ①病院・施設におけるリハビリテ ーション、 ②在宅におけるリハビリテ ーション、	講
	27	自立に向けた介護⑥ リハビリテーション	見学、	講
	28	自立に向けた介護⑦ リハビリテーション	③介護予防、リハビリテーション専 門職との連携	講
	29	介護従事者の倫理① 職業倫理	介護の持つ倫理性、介護と人権、介 護福祉士の倫理性	講
	30	介護従事者の倫理② 利用者の人権と介護	身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐 待、その他	講
	31	介護従事者の倫理③ プライバシーの保護・まとめ	個人情報保護、プライバシーの保護、 「介護」とは？	講
●介護を必要とする人の 理解	32	介護を必要とする人の 理解②高齢者の生活	人間の多様性・複雑について①	講
	33	介護を必要とする人の 理解③生活習慣と生活様式	人間の多様性・複雑について②	講
	34	介護を必要とする人の 理解④生活のリズム	高齢のくらしの理解の実際①	講
	35	介護を必要とする人の 理解⑤住まいと環境	高齢のくらしの理解の実際②	講
	36	介護を必要とする人の 理解⑥余暇活動	高齢のくらしの理解の実際③	講
	37	介護を必要とする人の 理解⑦レクリエーション	高齢のくらしの理解の実際④	講
	38	介護を必要とする人の 理解⑧障害者支援	障害のある人のくらしの理解①	講
	39	介護を必要とする人の 理解⑨各種保険年金	障害のある人のくらしの理解②	講
	40	介護を必要とする人の 理解⑩介護保険	障害のある人のくらしの理解③	講
	41	介護を必要とする人の 理解⑪生活環境	障害のある人のくらしの理解④	講
	42	介護を必要とする人の 理解⑫家族の役割	障害のある人のくらしの理解⑤	講
	43	介護を必要とする人の 理解⑬地域の結びつき ①	障害のある人のくらしの理解⑥	講

4 4	介護を必要とする人の理解④地域の結びつき②	障害のある人のくらしの理解⑦	講
4 5	まとめ	高齢者のくらしを振り返る、介護福祉士と高齢者について	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護の基本」(メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 山崎 年幸	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(15コマ)	配当学年・時期 介護福祉科2年 前期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 介護現場における事故とリスクマネジメントについて学習する。 2. 介護現場に多い事故について学習する。 3. 事故対応の基本について学習する。 4. 介護従事者の健康管理と事故防止について学習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 介護現場における事故とリスクマネジメントについて理解する。 2. 介護現場に多い事故について理解する。 3. 事故対応の基本について理解する。 4. 介護従事者の健康管理と事故防止について理解する。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	安全の確保とリスクマネジメント①ー安全の確保①	・安全の概念(生活の継続)、セーフティマネジメントの過程と評価	講	
	3	安全の確保とリスクマネジメント②ー安全の確保②	・転倒や転落防止、骨折予防、観察と多面的予測、分析	講	
	4	安全の確保とリスクマネジメント③ー安全の確保③	・正確な技術、利用者にあった生活支援技術の工夫	講	
	5	安全の確保とリスクマネジメント④ー事故防止・安全対策①	・施設内事故の特徴と対策、基本的介護の徹底、苦情解決、環境改善	講	
	6	安全の確保とリスクマネジメント⑤ー事故防止・安全対策②	・在宅での事故の特徴と対策、生活の安全(消費者被害)、緊急連絡	講	
	7	安全の確保とリスクマネジメント⑥ー医療対応時	・受療援助、服薬、医療行為へのチームアプローチ	講	
	8	安全の確保とリスクマネジメント⑦ー緊急時対応	・緊急、事故時対応、救急対応の実際	講	
	9	安全の確保とリスクマネジメント⑧ー防火・防災対策	・災害時ネットワークや日々の見守り等、GH等の事例分析	講	
	10	安全の確保とリスクマネジメント⑨ー感染対策	・感染予防の意義と介護(基礎知識と技術)、感染管理と衛生管理	講	
	11	安全の確保とリスクマネジメント⑩ーヒヤリハット	・ヒヤリハット事例の分析ー原因と対策の実際	講	
●介護従事者の安全	12	介護従事者の安全①ー心の健康管理	・ストレス、燃え尽き症候群、スーパービジョン	講	

1 3	介護従事者の安全②ー 身体の健康管理	身体の健康管理	講
1 4	介護従事者の安全③ー 腰痛予防の対策	・ボディメカニクスや新たな理論の 応用、福祉用具、環境改善	講
1 5	介護従事者の安全④ー 感染予防の対策と労働安全	・感染予防・生体リズム、リラック ス、関係法規	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護の基本」(メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「はじめて施設に働くあなたへ」(日本精神薄弱者 愛護協会) 「職場のメンタルヘルス」(逸見武光)			

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 講義		授業担当者 藤田 玖味子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護福祉科1年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種共働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          1. コミュニケーションとは何かについて学習する。          2. 言語コミュニケーションについて学習する。          3. 非言語コミュニケーションについて学習する。          4. 面接技法について学習する。          5. 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて学習する。          6. 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>          1. コミュニケーションとは何かについて理解する。          2. 言語コミュニケーションについて理解する。          3. 非言語コミュニケーションについて理解する。          4. 面接技法について理解する。          5. 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて理解する。          6. 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて理解する。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護におけるコミュニケーションの基本	1	オリエンテーション	授業概要の説明。グループ分けと関係づくり	講	
	2	介護におけるコミュニケーションの基本①	・介護におけるコミュニケーションの意義と目的 ・メッセージの共有	講	
	3	介護におけるコミュニケーションの基本②	・介護におけるコミュニケーションの役割 ・コミュニケーション効果	講	
	4	介護におけるコミュニケーションの基本③	利用者・家族との関係づくり	講	
	5	介護におけるコミュニケーションの基本④	非言語コミュニケーション	講	
	6	介護におけるコミュニケーションの基本⑤	援助者としての自己理解を深める	講	
	7	介護におけるコミュニケーションの基本⑥	価値観と他者への理解	講	
●介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①	話を聴く技法(傾聴)	講 演	
	9	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②	話を聴く技法(受容)	講 演	

	1 0	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション③	話を聴く技法（共感）	講 演
	1 1	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション④	話を聴く技法（質問の技法）	講 演
	1 2	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑤	話を聴く技法（相づち、繰り返し、明確化、要約）	講 演
	1 3	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑥	話を聴く技法（沈黙）	講 演
	1 4	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑦	利用者の感情表現を察する技法	講 演
	1 5	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑧	利用者の納得と同意を得る技法	講 演
	1 6	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑨	利用者への助言と指導	講 演
	1 7	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑩	利用者の意欲を引き出す技法	講 演
	1 8	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑪	利用者本人と家族の意向の調整を図る技法	講 演
	1 9	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑫	感覚機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 0	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑬	運動機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 1	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑭	認知・知覚機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 2	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑮	コミュニケーション再考と学習方法	講
●介護におけるチームのコミュニケーション	2 3	介護におけるチームのコミュニケーション①	対人援助職種間のコミュニケーション	講
	2 4	介護におけるチームのコミュニケーション②	介護における記録の意義・目的、記録の管理、共有化と活用	講
	2 5	介護におけるチームのコミュニケーション③	介護に関する記録の種類、方法、留意点	講
	2 6	介護におけるチームのコミュニケーション④	情報通信技術（IT）を活用した記録の意義、活用の留意点	講

27	介護におけるチームのコミュニケーション⑤	報告の意義・目的、報告・連絡・相談の方法、留意事項	講
28	介護におけるチームのコミュニケーション⑥	会議の意義・目的、会議の種類	講
29	介護におけるチームのコミュニケーション⑦	会議の方法・留意点	講
30	まとめ	これまでの授業をふまえてのまとめ。	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 コミュニケーション技術」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「コミュニケーション学入門」(松柏社) 「声かけ・応答ハンドブック」(中央法規)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森脇克樹・上原尚子 後藤和子・森川史恵	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. ICF と生活支援の関連について学習する。 2. 居住環境に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 家事に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. ICF と生活支援の関連について習得する。 2. 居住環境に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 家事に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●生活支援	1	人生と生活	人生・生活とは	講	
	2	生活環境	社会福祉の法と在宅・施設	講	
	3	生活支援	ICFにおける生活支援と多職種共働、自立とは	講	
	4	生活支援における理念、倫理と法	生活支援における理念、倫理と法	講	
	5	生活支援における対人援助技術	生活支援における対人援助技術	講	
	6	生活支援における他職種共働	多職種共働とチームケア	講	
●自立に向けた居住環境の整備	7	居住環境整備の意義と目的	生活における居住環境整備の意義と目的	講	
	8	居住環境のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	
	9	環境整備	環境整備とバリアフリー	講	
	10	事故防止	転倒・転落防止、外傷防止、火傷防止、ボディメカニクス	講 演	
	11	身体拘束の禁止と事故防止	身体拘束の禁止と事故防止、事故処理	講	
	12	火事・災害防止	火事・災害防止	講	
	13	感染防御	細菌、ウイルス、感染防御の基本	講	
	14	安全で心地よい生活の場づくり	安全で心地よい生活の場づくり、バリアフリー、住宅改修	講	
	15	居住環境整備	居住環境整備	演	
●自立に向けた家事の介護	16	家事の意義	生活における家事の意義	講	
	17	家事に関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	

18	家事の支援①	調理①	講演
19	家事の支援②	調理②	講演
20	家事の支援③	調理③	講演
21	家事の支援④	洗濯①	講演
22	家事の支援⑤	洗濯②	講演
23	家事の支援⑥	掃除・ゴミ捨て	講演
24	家事の支援⑦	掃除・ゴミ捨て	講演
25	家事の支援⑧	裁縫①	講演
26	家事の支援⑨	裁縫②	講演
27	家事の支援⑩	衣類・寝具の衛生管理	講演
28	家事の支援⑪	買い物	講演
29	家事の支援⑫	家庭経営、家計の管理	講演
30	多職種共働	家事支援における多職種共働	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 生活支援技術Ⅰ」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術Ⅱ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森川史恵・上本義博	
<b>授業の回数</b> 60回	<b>時間数(単位数)</b> 120時間(60コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1・2年 前期・後期	<b>必修・選択</b> 必修		
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を学習する。 2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 4. 終末期に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を習得する。 2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 4. 終末期に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
	<b>大テーマ</b>	<b>コマ数</b>	<b>小テーマ</b>	<b>内 容</b>	<b>授業方法</b>
●自立に向けた身じたくの介護		1	身じたくの意義と目的	生活における身じたくの意義と目的	講
		2	身じたくに関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講
		3	外皮系の解剖・生理学	外皮系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
		4	整容①	洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等	講演
		5	整容②	洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等	講演
		6	口腔、歯の解剖・生理学	口腔、歯の解剖生理学と年齢・環境による変化	講
		7	口腔ケア	口腔ケア	講演
		8	衣服着脱①	装いの意義、楽しみ、衣服着脱	講演
		9	衣服着脱②	装いの意義、楽しみ、衣服着脱	講演
		10	褥瘡予防	褥瘡のリスクファクター、褥瘡発生リスクの評価(ブレードンスケール)	講演
		11	褥瘡予防方法	褥瘡予防方法	講演
		12	褥瘡ケア	褥瘡ケア	講
		13	温罨法	温罨法の意義と方法	講演
		14	冷罨法	冷罨法の意義と方法	講演

●自立に向けた移動の介護	1 5	身じたくについての多職種共働	介護福祉士の役割と多職種共働	講
	1 6	移動の意義と目的	生活における移動の意義と目的	講
	1 7	移動に関する利用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
	1 8	骨格系の解剖・生理学	骨格系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
	1 9	筋肉系の解剖・生理学	筋肉系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
	2 0	関節の構造と関節可動域	関節の構造と関節可動域 (ROM)	講
	2 1	関節可動域訓練	自動・他動関節可動域訓練	講演
	2 2	移動に支援を要する病態①	頻度の高い骨折と骨粗鬆症 脳出血、脳梗塞	講
	2 3	移動に支援を要する病態②	パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、脳性麻痺、重症心身障害、視覚障害	講
	2 4	ボディメカニクス	ボディメカニクス	講演
	2 5	各種体位	各種体位	講演
	2 6	モビリティの支援	ベッドあるいは寝具上でのモビリティの支援	講演
	2 7	移乗の支援①	立位移乗①	講演
	2 8	移乗の支援②	立位移乗②	講演
	2 9	移乗の支援③	座位移乗①	講演
	3 0	移乗の支援④	座位移乗②	講演
	3 1	移乗の支援⑤	リフティング①	講演
	3 2	移乗の支援⑥	リフティング②	講演
	3 3	移乗のための介護機器	移乗のための介護機器	講演
	3 4	車いす→床、床→車いすへの移乗	車いす→床、床→車いすへの移乗	講演
	3 5	歩行の支援②	歩行補助具①	講演
	3 6	歩行の支援③	歩行補助具②	講演
	3 7	歩行の支援④	平行棒訓練	講演
	3 8	歩行の支援⑤	基本歩行パターン	講演
3 9	自立活動①	立位・座位の自立	講演	
4 0	自立活動②	歩行の自立	講演	
4 1	安全と事故防止に配慮した移動	安全と事故防止に配慮した移動	講演	
4 2	車いす①	車いすの種類、構造と選び方	講演	

	4 3	車いす②	車いす不適合によるリスク、車いすのメンテナンス	講 演
	4 4	車いすでの移動・移乗①	介助による車いすでの移動・移乗	講 演
	4 5	車いすでの移動・移乗②	自力による車いすでの移動・移乗	講 演
●自立に向けた睡眠の介護	4 6	睡眠の意義	生活における睡眠の意義	講
	4 7	睡眠に関する利用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
	4 8	睡眠の種類、パターン	睡眠の種類、パターン、不眠の原因	講
	4 9	不眠の原因	不眠の原因	講
	5 0	睡眠の支援	安眠のための介護	講
●終末期の介護	5 1	終末期とは	人生の意義と人生の終末	講
	5 2	終末期における利用者	ICF の視点に基づくアセスメント	講
	5 4	疾患と終末期①	呼吸器疾患、心・循環器疾患と終末期	講
	5 5	疾患と終末期③	腎・泌尿器疾患、肝疾患と終末期	講
	5 6	終末期における身体的症状と対応	呼吸・循環抑制、食欲不振、疲労、衰弱	講
	5 7	終末期における精神的症状と対応	悲哀、抑鬱、不安、恐怖、混乱	講
	5 8	終末期における栄養・水分補給	終末期における栄養・水分補給	講
	5 9	死の受容	死の受容の過程	講
	6 0	死後の処置と家族への配慮	死後の処置と家族への配慮	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 生活支援技術Ⅱ」 (メヂカルフレンド社) 「最新介護福祉全書 障害別生活支援技術」 (メヂカルフレンド社)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「介護技術指導マニュアル」(中央法規) 「生活援助のための介護手引き」(中央法規)				

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術Ⅲ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森川史恵・上原尚子 澤田祥子・河野ひろ子・崎井真弓	
<b>授業の回数</b> 60回	<b>時間数(単位数)</b> 120時間(60コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 後期 介護福祉科2年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 食事に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 2. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 入浴・清潔保持に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 食事に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 2. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 入浴・清潔保持に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	Ⅰ・Ⅱ頁 習業方法	授業方法	
●自立に向けた食事の介護	1	食事の意義	生活における食事の意義	講	
	2	食事に関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	
	3	消化器系の解剖・生理学	消化器系の解剖、消化・吸収のしくみ	講	
	4	食事に支援を要する病態①	胃炎、胃・十二指腸潰瘍	講	
	5	食事に支援を要する病態②	胆石症、肝硬変	講	
	6	食事に支援を要する病態③	糖尿病	講	
	7	食事に支援を要する病態④	消化器系手術後	講	
	8	食事に支援を要する病態⑤	脳血管障害	講	
	9	食事に支援を要する症状	食欲不振、嚥下困難、便秘、悪心、嘔吐	講	
	10	栄養ケア①	栄養素、栄養バランス、カロリー計算①	講	
	11	栄養ケア②	栄養素、栄養バランス、カロリー計算②	演	
	12	栄養ケア③	経管栄養のしくみ・種類と治療食の種類	講	
	13	栄養ケア④	輸液	講	
	14	食事の準備と提供	環境整備と食事提供手順	講	

	1 5	食事の支援①	食事の介助（一部介助の場合）①	講演
	1 6	食事の支援②	食事の介助（一部介助の場合）②	講演
	1 7	食事の支援③	食事の介助（全介助の場合）①	講演
	1 8	食事の支援④	食事の介助（全介助の場合）②	講演
	1 9	食事の支援⑤	食事の介助 （麻痺や視覚障害がある場合）	講演
	2 0	食事の自立と補助具	食事の自立と補助具	講演
●自立に向けた排泄の 介護	2 1	排泄の意義	生活における排泄の意義	講
	2 2	排泄に関する利用者のア セスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
	2 3	排泄方法の選択	アセスメントに基づく排泄方法の 選択	講
	2 4	泌尿器系の解剖・生理学	泌尿器系の解剖・生理学	講
	2 5	水・電解質バランス①	水分バランス・脱水	講
	2 6	水・電解質バランス②	浸透圧、電解質バランス	講
	2 7	便秘と便失禁①	便秘の原因と対応	講
	2 8	便秘と便失禁②	便失禁の原因と対応	講
	2 9	尿失禁①	尿失禁の分類と対応①	講
	3 0	尿失禁②	尿失禁の分類と対応②	講
	3 1	正常な排泄を維持する ための支援	生活課題解決のための多職種連携の 必要性	講
	3 2	排泄支援①	トイレの介護手順①	講演
	3 3	排泄支援②	トイレの介護手順②	講演
	3 4	排泄支援③	ポータブルトイレの介護手順①	講演
	3 5	排泄支援④	ポータブルトイレの介護手順②	講演
	3 6	排泄支援⑤	尿器・便器の介護手順	講演
	3 7	排泄支援⑥	おむつの種類、構造	講演
	3 8	排泄支援⑦	おむつの介護手順①	講演
	3 9	排泄支援⑧	おむつの介護手順②	講演
	4 0	尿留置カテーテルとスマ	尿留置カテーテルの 管理とストマの構造・管理	講演
●自立に向けた入浴・ 清潔保持の介護	4 1	入浴・清潔保持の意義と目 的排泄	生活における入浴・清潔保持の意義と 目的	講
	4 2	入浴・清潔保持に関する利 用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメントと 入浴・清潔保持方法の選択	講
	4 3	不潔になりやすい箇所と 疾病との関係	不潔になりやすい箇所と疾病との関 係	講
	4 4	入浴中の生理的変化	入浴中の生理的変化	講

45	入浴前の健康チェック	入浴前の健康チェック①	講演
46	入浴前の健康チェック	入浴前の健康チェック②	講演
47	入浴・清潔保持手段の種類①	入浴（器械浴と一般浴）、シャワー浴、全身清拭	講演
48	入浴・清潔保持手段の種類②	陰部洗浄、足浴・手浴、洗髪	講演
49	入浴・清潔保持支援時の観察と記録	入浴・清潔保持支援時に観察・記録すべき事項	講演
50	入浴・清潔保持の支援①	器械浴の手順①	講演
51	入浴・清潔保持の支援②	器械浴の手順②	講演
52	入浴・清潔保持の支援	一般浴の手順①	講演
53	入浴・清潔保持の支援④	一般浴の手順②	講演
54	入浴・清潔保持の支援⑤	シャワー浴の手順	講演
55	入浴・清潔保持の支援⑥	全身清拭の手順	講演
56	入浴・清潔保持の支援⑦	陰部洗浄の手順	講演
57	入浴・清潔保持の支援⑧	足浴・手浴の手順	講演
58	入浴・清潔保持の支援⑨	洗髪の手順	講演
59	入浴に関連して起こりやすい事故と対応①	入浴中の体調悪化に対する対応	講演
60	入浴に関連して起こりやすい事故と対応②	入浴に関連して起こりやすい事故と対応	講演

**【使用テキスト】**

「最新介護福祉全書 障害別生活支援技術」  
（メヂカルフレンド社）

**【参考文献】**

「介護技術指導マニュアル」（中央法規）  
「生活援助のための介護手引き」（中央法規）

**【単位認定の方法及び基準】**

学則に定めるとおり

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護過程 I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森川 史恵	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. ケアプラン、介護過程とは何かについて学習する。 2. 介護過程と看護過程の類似と相違について学習する。 3. ICFの視点について学習する。 4. 介護過程を展開する上での介護福祉の法と職業倫理について学習する。 5. 利用者の人権と人格の尊重について学習する。 6. 各アセスメントツールの特徴について学習する。 7. 各利用者の生活について学習する。 8. 社会資源について学習する。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. ケアプラン、介護過程とは何かについて理解する。 2. 介護過程と看護過程の類似と相違について理解する。 3. ICFの視点について理解する。 4. 介護過程を展開する上での介護福祉の法と職業倫理について理解する。 5. 利用者の人権と人格の尊重について理解する。 6. 各アセスメントツールの特徴について理解する。 7. 各利用者の生活について理解する。 8. 社会資源について理解する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程の意義	1	「介護過程」の展開を学ぶ前に	生活の過程を展開するとはどのようなことか、その理由を考える	講	
	2	「介護過程」の意義	「とりあえず何でもかんでも手伝うこと」はケアなのか？ 支援者が導くケアは利用者の能力に沿ったものであるはず	講	
	3	「介護過程」の意義	生活上における目標と目的の意義を理解する	講	
●介護過程の展開	4	アセスメントとケアプラン	ケアプラン、アセスメントの意義の理解、「介護過程の展開」という思考過程の理解	講	
	5	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方①	事実の客観的な把握と正確に記録する(他者への伝達)ことの意義を理解する	講	
	6	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方②	同上	講	
	7	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方③	同上	講	
	8	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方④	医学モデルとICFの視点で事実をえることの違いを理解する	講	

9	介護過程の中の「事実」のとらえ方①	実際に展開されている支援の根底にある介護過程の理解	講
10	介護過程の中の「事実」のとらえ方②	実際に展開されている支援の根底にある介護過程の理解	講
11	とらえた「事実」を解釈するために①	援助技術としてのコミュニケーション①	講
12	とらえた「事実」を解釈するために②	援助技術としてのコミュニケーション②	講
13	とらえた「事実」を解釈するために③	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解①	講
14	とらえた「事実」を解釈するために④	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解②	講
15	とらえた「事実」を解釈するために⑤	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解③	講
16	とらえた「事実」を解釈するために⑥	高齢者の現状の理解、高齢者像の拡大	講
17	解釈した「事実」を計画に活かす①	利用者の「現在」を切り取る	講
18	解釈した「事実」を計画に活かす②	事例を元に把握した情報を適切に解釈し、本人の希望に沿う計画を立て	講
19	解釈した「事実」を計画に活かす③	本人の希望をさらに拡大するために①	講
20	解釈した「事実」を計画に活かす④	本人の希望をさらに拡大するために②	講
21	解釈した「事実」を計画に活かす⑤	使える制度と社会資源の理解①	講
22	解釈した「事実」を計画に活かす⑥	使える制度と社会資源の理解②	講
23	解釈した「事実」を計画に活かす⑦	使える制度と社会資源の理解③	講
24	解釈した「事実」を計画に活かす⑧	家族、介護者を支える制度と社会資源の理解	講
25	事実のとらえ方（復習）	事実の客観的な把握と正確に記録する（他者への伝達）ことの再確認	講
26	事実のとらえ方（復習）	同上	講
27	事実のとらえ方（復習）	同上	講
28	事実のとらえ方（復習）	「生活支援技術」で学んだ技術を介護過程の展開に利用する	講
29	介護過程の実践的展開①	介護実習Ⅱで行う介護過程の展開の実施について確認する	PBL
30	介護過程の実践的展開②	同上	PBL
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」（メヂカルフレンド社） <b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」（日総研）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護過程Ⅱ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 上本 義博	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科2年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b>					
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b>					
介護現場で頻度の高いケースのケーススタディを問題基盤型チュートリアル(PBL)の形式で行う。学生が実際に問題点を抽出しながら、ケアプランを作成・発表し、発表内容をチューターを交えてグループディスカッションを行うことにより、介護過程展開の実践力を養う。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害ケースの介護過程について理解する。</li> <li>2. 認知症ケースの介護過程について理解する。</li> <li>3. 神経変性疾患ケースの介護過程について理解する。</li> <li>4. 脊髄損傷ケースの介護過程について理解する。</li> <li>5. 脳性麻痺ケースの介護過程について理解する。</li> <li>6. 関節リウマチケースの介護過程について理解する。</li> <li>7. がんのケースの介護過程について理解する。</li> <li>8. 心疾患のケースの介護過程について理解する。</li> <li>9. 呼吸器疾患のケースの介護過程について理解する。</li> <li>10. ストマや経管栄養のケースの介護過程について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程の実践的展開	1	脳血管障害ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	2	脳血管障害ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	3	脳血管障害ケース②	学生によるケース理解、アセスメントとケアプラン作成	PBL	
	4	脳血管障害ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	5	脳血管障害ケース③	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	6	脳血管障害ケース③	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	7	脳血管障害ケース④	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	8	脳血管障害ケース④	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	9	認知症ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	10	認知症ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	11	認知症ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	

1 2	認知症ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 3	認知症ケース③	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 4	認知症ケース③	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 5	神経変性疾患ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 6	神経変性疾患ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 7	神経変性疾患ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 8	神経変性疾患ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 9	脊髄損傷ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 0	脊髄損傷ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 1	脊髄損傷ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 2	脊髄損傷ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 3	脳性麻痺ケース	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 4	脳性麻痺ケース	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 5	関節リウマチケース	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 6	関節リウマチケース	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 7	がんのケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
2 8	心疾患のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
2 9	呼吸器疾患のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
3 0	ストマや経管栄養のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」 (メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」(日総研)			

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 講義		授業担当者 上本 義博	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(15コマ)	配当学年・時期 介護福祉科2年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 介護過程におけるチームアプローチの概要について学習する。 2. 家族に問題があるケースのチームアプローチについて学習する。 3. 終末期の介護過程とチームアプローチについて学習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 介護過程におけるチームアプローチの概要について理解する。 2. 家族に問題があるケースのチームアプローチについて理解する。 3. 終末期の介護過程とチームアプローチについて理解する。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程とチームアプローチ	1	介護過程におけるチームアプローチの実際①	ケアやサービスは複数の目や思考を経て具体化されることを理解する	PBL	
	2	介護過程におけるチームアプローチの実際②	実習での実践内容を報告し、評価を受ける、また他者の報告を聴き、評価をする	PBL	
	3	介護過程におけるチームアプローチの実際③	介護実習でカンファレンスに参加した経験を共有し、介護福祉士がケアを行うチームの中で果たすべき役割について学ぶ	PBL	
	4	介護過程におけるチームアプローチの実際④	模擬カンファレンスを、参加する専門職それぞれの立場に立って行う	PBL	
	5	介護過程における説明と同意①	介護サービスを受ける本人と家族介護者の立場を理解	講	
	6	介護過程における説明と同意②	家族介護者の立場からの貴重な体験を聴く	講	
	7	介護過程における説明と同意③	介護過程における説明と同意の重要性の理解	講	
	8	家族に問題があるケースのチームアプローチ①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	9	家族に問題があるケースのチームアプローチ①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	10	家族に問題があるケースのチームアプローチ②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	11	家族に問題があるケースのチームアプローチ②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	12	終末期の介護過程とチームアプローチ①	人が死ぬという事柄を多角的な視点で理解する	PBL	

1 3	終末期の介護過程とチームアプローチ②	自らの死生観と向き合い、気持ちを共有できる仲間存在の大切さを理解する	PBL
1 4	終末期の介護過程とチームアプローチ③	人が死んだ後、どのような事柄が待っているのか	PBL
1 5	専門職としてあるべき姿を見ずえる	利用者、家族介護者、連携する他職種から信頼される介護福祉士とはどのような人か	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」 (メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」(日総研)			

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護総合演習 I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森川 史恵	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b>					
<p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習語の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>					
<b>【授業全体の内容の概要】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意味と意義について学習する。</li> <li>2. 介護福祉士の職業倫理を学習する。</li> <li>3. 実習施設の種別、内容、特徴等について学習する。</li> <li>4. 対人援助技術、コミュニケーション技術の基本について学習する。</li> <li>5. 介護記録、実習記録の書き方について学習する。</li> <li>6. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>7. 実習後、事例について介護過程を展開する。</li> </ol>					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意味と意義について理解する。</li> <li>2. 介護福祉士の職業倫理を確認する。</li> <li>3. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。</li> <li>4. 対人援助技術、コミュニケーション技術の基本について理解する。</li> <li>5. 介護記録、実習記録の書き方について理解する。</li> <li>6. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>7. 実習後、事例について介護過程を展開できる。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●実習オリエンテーション	1	実習とは何か	実習の意義と目的	講	
	2	介護福祉士の職業倫理	求められる介護福祉士像及び関連法	講	
	3	介護活動の場と介護の特性	多様なニーズと介護サービス	講	
	4	施設理解①訪問介護	訪問介護事業と利用者の生活像	講	
	5	施設理解②通所介護	通所介護事業と利用者の生活像	講	
	6	施設理解③小規模多機能型施設	小規模多機能型事業と利用者の生活像	講	
	7	コミュニケーション・マネー・接遇	社会・組織の中で求められる人物像	講	
	8	記録①	観察記録の方法	講	
	9	記録②	プロセスレコードの説明と活用法	講	
	10	記録③	実習関連の記録	講	
	11	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演	
	12	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演	

	1 3	実習オリエンテーション①	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講
	1 4	実習オリエンテーション②	先輩の体験談・質疑応答	講
	1 5	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講 演
●実習報告・反省	1 6	実習報告会①	実習Ⅰの振り返りと学びの共有化	事例
	1 7	実習報告会②	実習Ⅰの振り返りと学びの共有化	事例
	1 8	実習報告会③	実習Ⅰの振り返りと学びの共有化	事例
	1 9	実習報告会④	実習Ⅰの振り返りと学びの共有化	事例
	2 0	実習報告会⑤	実習Ⅰの振り返りと学びの共有化	事例
	2 1	実習報告会⑥	実習Ⅰの振り返りと学びの共有化	事例
	2 2	実習事後指導①実習記録	実習記録の再検討	
	2 3	実習事後指導② プロセスレコード	プロセスレコードの再検討	
	2 4	実習事後指導③	困難事例の検討	
	2 5	実習事前指導①	障害の種類と自立支援	
	2 6	実習事前指導②	障害者施設と利用者の生活像	
	2 7	実習事前指導③ 個別介護計画	利用者の個性	
	2 8	介護過程の展開 情報収集	情報収集の目的と活用	
	2 9	記録①	収集した情報を活用する	
	3 0	記録②	実習関連の記録	
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護総合演習」 (メヂカルフレンド社) 「介護福祉用具事典」医学評論社  <b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護総合演習Ⅱ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 上本 義博	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間 (30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科2年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。</li> <li>2. 実習施設の種別、内容、特徴等について学習する。</li> <li>3. ケアプラン、介護過程の展開について学習する。</li> <li>4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について学習する。</li> <li>5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>6. 実習後、事例について介護過程を展開する。</li> <li>7. 的確な記録について学習する。</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。</li> <li>2. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。</li> <li>3. ケアプラン、介護過程の展開について理解する。</li> <li>4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について理解する。</li> <li>5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>6. 実習後、事例について介護過程を展開できる。</li> <li>7. 的確な記録を行うことができる。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●実習オリエンテーション	1	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演	
	2	共感的・受容的に接する技術	ヴァイステックの7原則	講	
	3	他職種との連携	チームケア	講	
	4	緊急時の対応	緊急時の対応に求められること	講	
	5	実習施設の施設長を招いて	施設長として実習施設が実習生に求めるもの	講	
	6	実習施設の実習指導者を招いて	実習指導者として実習施設が実習生に求めるもの	講	
	7	実習オリエンテーション①	実習施設の種別、特徴の確認	講	
	8	実習オリエンテーション②	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講	
	9	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講 演	
●実習報告・反省	10	実習報告会①	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例	
	11	実習報告会②	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例	

	1 2	実習報告会③	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 3	実習報告会④	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 4	実習報告会⑤	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 5	実習報告会⑥	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 6	実習事後指導①実習記録	実習記録の再検討	講演
	1 7	実習事後指導②プロセスレコード	プロセスレコードの再検討	講演
	1 8	実習事後指導③	困難事例の検討	講演
●実習オリエンテーション	1 9	施設と居宅のケアプラン、介護過程①	居宅のアセスメントツールとケアプラン	講演
	2 0	施設と居宅のケアプラン、介護過程②	施設のアセスメントツールとケアプラン	講演
	2 1	実習オリエンテーション①	実習施設の種別、特徴の確認	講
	2 2	実習オリエンテーション②	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講
	2 3	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講演
●実習報告・反省	2 4	実習報告会①	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 5	実習報告会②	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 6	実習報告会③	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 7	実習報告会④	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 8	実習報告会⑤	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 9	実習報告会⑥	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	3 0	実習事後指導	困難事例の検討	講演
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護総合演習」 (メヂカルフレンド社) 「介護福祉用具事典」医学評論社  <b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅰ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 森川史恵・上本義博・河野ひろ子	
<b>授業の回数</b> 6日間	<b>時間数(単位数)</b> 4.5時間	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前期		<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  訪問介護事業所、通所介護事業所、グループホームでの実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者や障害者に関わる</li> <li>2. 施設の役割を理解し、業務の流れを学ぶ</li> <li>3. 利用者の日々の変化、日内変化を知る</li> <li>4. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>5. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設・事業等を体験し、施設などの機能や基本的なケアを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特徴や支援体制を把握する。</li> <li>・利用者の疾病や障害を学習する。</li> <li>・介護職の業務の流れを理解する。</li> <li>・マナーや職務規定を理解して守る。</li> </ul> </li> <li>2. 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の程度や思いに応じた介護技術を丁寧に判断、実施し、毎日の技術を自己評価する。</li> <li>・基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。</li> </ul> </li> <li>3. 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活やそのリズムを知る。</li> <li>・利用者と一緒にコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションが心身の活性化に及ぼす影響について考察する。</li> </ul> </li> <li>4. 多様な介護サービスの中で多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や申し送り等の場面で健康や生活に関する問題について知る。</li> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> </ol>				
<p><b>【使用テキスト】</b>                  「実習のしおり」広島福祉専門学校                  「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                  「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                  「介護福祉のための記録15講」(中央法規)                  「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>		

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅱ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 森川史恵・上本義博・河野ひろ子	
<b>授業の回数</b> 12日間	<b>時間数(単位数)</b> 90時間	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 後期		<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設、原爆養護ホーム、障害者支援施設での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者や障害者に関わる</li> <li>2. 施設の役割を理解し、業務の流れを学ぶ</li> <li>3. 利用者の日々の変化、日内変化を知る</li> <li>4. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>5. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設・事業等を体験し、施設などの機能や基本的なケアを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特色や支援体制を把握する。</li> <li>・利用者の疾病や障害を学習する。</li> <li>・介護職の業務の流れを理解する。</li> <li>・マナーや職務規定を理解して守る。</li> </ul> </li> <li>2. 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の程度や思いに応じた介護技術を丁寧に判断、実施し、毎日の技術を自己評価する。</li> <li>・基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。</li> </ul> </li> <li>3. 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活やそのリズムを知る。</li> <li>・利用者と積極的にコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションが心身の活性化に及ぼす影響について考察する。</li> </ul> </li> <li>4. 多様な介護サービスの中で多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や申し送り等の場面で健康や生活に関する問題について知る。</li> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> </ol>				
<p><b>【使用テキスト】</b>                  「実習のしおり」広島福祉専門学校                  「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                  「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                  「介護福祉のための記録15講」(中央法規)                  「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>		

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅲ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 上本義博・森川史恵・河野ひろ子
<b>授業の回数</b> 18日間	<b>時間数(単位数)</b> 135時間	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科2年 前期	<b>必修・選択</b> 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設、障害者支援施設での実習			
1. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ 2. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ 3. 利用者理解をはじめ、関わり方を学び、利用者・家族とのコミュニケーション実践			
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>			
1. 施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。			
2. 人間関係を形成しながら慣れ親しんだ地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設などの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。またその生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を理解する。 ・利用者や家族の生活状況を把握して理解し、介護福祉士の関わり方について学ぶ。 ・介護保険制度における訪問介護の位置づけと機能を学ぶ。			
3. 介護過程に関する既習の知識・技術を基に、担当する利用者の情報収集・アセスメントをして、生活上の課題を抽出し、介護計画立案ができる。 ・介護計画の仕組みを理解し、受け持ち利用者の生活ニーズに基づき介護計画を作成する。 ・カンファレンスに参加して介護計画の作成過程を理解する。			
<b>【使用テキスト】</b> 「実習のしおり」広島福祉専門学校 「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価	
<b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録15講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)			

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅳ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 上本義博・森川史恵・河野ひろ子
<b>授業の回数</b> 24日間	<b>時間数(単位数)</b> 180時間(90コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科2年 後期	<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  専門職としての実践力を修得するための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設での実習                  利用者ごとの介護計画の作成、実施と評価、計画の修正を含めた一連の介護計画の実践。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の生活背景や生活リズムの理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の展開ができる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち利用者の生活ニーズに基づき介護計画を作成し、実施する。</li> <li>・利用者主体とした的確な実践により、その結果を見届け、再アセスメントや介護計画の妥当性および個別性の介護について考察する。</li> </ul> </li> <li>2. チームの一員として介護に関わり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録ができる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理や介護予防の場面、また身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の機能を知る。また一連の介護に対する評価と記録をする。</li> </ul> </li> <li>3. 介護福祉士としての自己の介護観が述べられる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業を意識した介護実習をする。</li> </ul> </li> </ol>			
<p><b>【使用テキスト】</b>                  「実習のしおり」広島福祉専門学校                  「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                  「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                  「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規)                  「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  学則に定めるとおり、評価の基準に従い                  実習指導者と教員で評価</p>	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 発達と老化の理解		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 河野 ひろ子	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間 (30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 小児・成人の発達と老化を心身両面から学習する。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の成長と発達について理解する。</li> <li>2. 先天性疾患、小児期に多い疾患について理解する。</li> <li>3. 老化に伴うこころとからだの変化について理解する。</li> <li>4. 高齢者に多い疾患について理解する。</li> <li>5. 高齢者の保健・医療・福祉施策について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●人間の成長と発達の基礎的理解	1	人間の成長と発達	総論	講	
	2	子どもの成長と発達①	総論・形態的成長	講	
	3	子どもの成長と発達②	機能的成長	講	
	4	子どもの疾病①	新生児・乳児期の疾病	講	
	5	子どもの疾病②	児童・生徒の病気	講	
	6	発達心理学①	乳児期・幼児期・児童期	講	
	7	発達心理学②	思春期から成人	講	
	8	児童福祉制度	児童福祉施策	講	
●老年期の発達と成熟 ●老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	9	老化とは何か	老化とは何か	講	
	10	老化に伴うこころの変化	老化に伴うこころの変化	講	
	11	老化に伴うからだの変化	老化に伴うからだの変化	講	
●高齢者と健康	12	高齢者に多い疾病①	がん	講	
	13	高齢者に多い疾病②	心臓病	講	
	14	高齢者に多い疾病③	脳血管障害	講	
	15	高齢者に多い疾病④	骨折、運動器疾患	講	
	16	高齢者に多い疾病⑤	内分泌・代謝疾患	講	
	17	高齢者に多い疾病⑥	老化に伴うその他の疾患	講	
	18	高齢者の精神疾患①	高齢者の精神疾患	講	
	19	高齢者の精神疾患②	高齢者の精神疾患	講	

●高齢者の保健医療	2 0	高齢者の保健・医療・福祉施策①	高齢者の保健政策	講
	2 1	高齢者の保健・医療・福祉施策②	高齢者の医療政策	講
	2 2	高齢者の保健・医療・福祉施策③	高齢者の福祉政策	講
	2 3	ケーススタディ①	小児ケーススタディ①	PBL
	2 4	ケーススタディ②	小児ケーススタディ②	PBL
	2 5	ケーススタディ③	高齢者ケーススタディ①	PBL
	2 6	ケーススタディ④	高齢者ケーススタディ②	PBL
	2 7	事例発表①	小児例①	事例
	2 8	事例発表②	小児例②	事例
	2 9	事例発表③	高齢者例②	事例
	3 0	事例発表④	高齢者例③	事例
	<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 発達と老化の理解」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「幼児期と社会」(E・H・エリクソン) 「看護のための最新医学講座第 17 巻老人の医療」 (中山書店)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 認知症の理解	<b>授業の種類</b> 講義	<b>授業担当者</b> 内平八重子・上本義博	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前・後期 介護福祉科2年 前期	<b>必修・選択</b> 必修

**【授業の目的・ねらい】**

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

**【授業全体の内容の概要】**

脳疾患である認知症を理解するために、まず神経解剖・生理学の基礎を教授する。次いで、認知症の症状を脳機能障害の観点から教授する。認知症患者への対応については、科学的根拠の有無を明確にした上で正しい対応を教授する。さらにケースマネジメント及び家族に対する制度的、心理的サポートを教授する。最後に、ケーススタディと学生自身が実習で経験した事例の発表で、知識・技術と実践を統合する。

**【授業修了時の達成課題(到達目標)】**

1. 認知症の疫学の習得
2. 神経解剖学の習得
3. 脳の機能の習得
4. 脳疾患としての認知症の習得
5. 認知症の症状の習得
6. 認知症の原因疾患（アルツハイマー病、脳血管性認知症、レビー小体型認知症その他）の習得
7. 認知症患者への対応の習得
8. 認知症に対する社会的対策の習得
9. 認知症ケースマネジメントと家族へのサポート方法の習得

**【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】**

大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法
●認知症を取り巻く状況	1	認知症を取り巻く状況	認知症の疫学、介護保険上の認知症	講
●医学的側面から見た認知症の基礎	2	神経解剖・生理学①	ニューロン、中枢神経系と末梢神経系	講
	3	神経解剖・生理学②	脳の解剖・生理学①	講
	4	神経解剖・生理学③	脳の解剖・生理学②	講
	5	神経解剖・生理学④	脳の解剖・生理学③	講
	6	神経解剖・生理学⑤	脳の解剖・生理学④	講
	7	神経解剖・生理学⑥	脳の解剖・生理学⑤	講
	8	神経解剖・生理学⑦	運動・知覚機能	講
	9	神経解剖・生理学⑧	高次脳機能①	講
	10	神経解剖・生理学⑨	高次脳機能②	講
	11	神経解剖・生理学⑩	末梢神経、自律神経	講
	12	神経解剖・生理学⑪	神経薬理学、神経伝達物質	講
	13	精神と神経	脳とこころ	講

	1 4	認知症とは何か①	認知とは、認知障害、高次脳機能障害	講
	1 5	認知症とは何か②	I C I D H、DSMの定義	講
	1 6	認知症の原因疾患①	認知症はどのような病気で起こるか	講
	1 7	認知症の原因疾患②	治癒可能な認知症	講
●認知症に伴うこと からだの変化と日常生活	1 8	認知症の症状①	記憶障害、失語、失行、失認、実行機能障害	講
	1 9	認知症の症状②	B P S D	講
	2 0	認知症の診断、評価	テスト法、行動評価法、リスク評価	講
	2 1	認知症の治療と予防	薬物、行動療法	講
	2 2	認知症の原因疾患①	アルツハイマー病、F A S T stage	講
	2 3	認知症の原因疾患②	脳血管性認知症	講
	2 4	認知症の原因疾患③	レビー小体型認知症その他の認知症	講
	2 5	認知症の鑑別診断	認知症と間違えられやすい病態	講
	2 6	認知症への対応	認知症への対応	講
●連携と協働	2 7	認知症の社会的対策	地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
●家族への支援	2 8	ケースマネジメントと家族への支援	介護力の評価、家族への教育、レスパイト	講
	2 9	ケーススタディ	ケーススタディ	PBI
	3 0	事例発表	事例発表	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 認知症の理解と介護」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「中枢神経系の理解」(医歯薬出版) 「痴呆症のすべて」(永井書店) 「脳研究の最前線上・下」(講談社)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) 障害の理解		授業の種類 講義		授業担当者 河野 ひろ子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護福祉科1年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            障害の概念と施策について理解した上で、心身の障害について、その原因疾患それぞれの概要と、それぞれのリハビリテーションについて学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICIDH、ICFについて理解する。</li> <li>2. わが国の障害者施策について理解する。</li> <li>3. 視覚障害、聴覚・平衡覚障害、音声・言語・咀嚼機能障害について理解する。</li> <li>4. 肢体不自由について理解する。</li> <li>5. 内部障害について理解する。</li> <li>6. 脳血管障害とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>7. 神経疾患とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>8. 脳性麻痺とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>9. 精神障害とそのリハビリテーションについて理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●障害の基礎的理解	1	障害とは	ICIDH、ICF、障害者基本法、障害者統計	講	
	2	障害者福祉の歴史と基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション	講	
	3	障害の受容の過程	障害の受容の過程	講	
	4	リハビリテーションの基礎	障害の評価、理学療法、作業療法等	講	
●障害の医学的側面の基礎的知識	5	身体障害を理解する①	身体障害者認定基準	講	
	6	身体障害を理解する②	視覚のしくみと疾病・障害	講	
	7	身体障害を理解する③	聴覚・平衡覚のしくみと疾病・障害	講	
	8	身体障害を理解する④	音声・言語・咀嚼機能のしくみと疾病・障害	講	
	9	身体障害を理解する⑤	肢体不自由	講	
	10	身体障害を理解する⑥	内部障害①	講	
	11	身体障害を理解する⑦	内部障害②	講	
	12	知的障害を理解する	知的障害とは	講	
	13	発達障害を理解する	発達障害とは	講	
	14	疾病から障害を理解する①	脳血管障害①	講	
	15	疾病から障害を理解する②	脳血管障害②	講	

	16	疾病から障害を理解する③	脊髄損傷	講
	17	疾病から障害を理解する④	神経変性疾患・筋疾患	講
	18	疾病から障害を理解する⑤	関節リウマチその他	講
	19	疾病から障害を理解する⑥	先天性疾患	講
	20	疾病から障害を理解する⑧	脳性麻痺、重症心身障害児	講
	21	精神障害を理解する①	精神疾患①	講
	22	精神障害を理解する②	精神疾患②	講
	23	精神障害を理解する③	精神疾患③	講
	24	精神障害を理解する④	精神疾患④	講
	25	精神障害を理解する⑤	精神疾患の治療法・リハビリテーション	講
●連携と協働	26	障害者の福祉施策①	身体障害児・者の福祉施策、地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
	27	障害者の福祉施策②	知的障害者、精神障害者の福祉施策、地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
●家族への支援	28	家族への支援	家族への教育、介護力の評価、レスパイト	講
	29	ケーススタディ	ケーススタディ	PBL
	30	事例発表	事例発表	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「介護福祉学4 障害の理解」中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社  「からだのしくみ事典」成美堂			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> こころとからだのしくみI		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 15回	<b>時間数(単位数)</b> 30時間(15コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> こころのしくみについて、心理学的理解と脳科学的理解を深める。それによって、こころについての既知と未知の知識を整理できるようにする。さらに介護で自己や他者のこころを考慮する上において、既知の部分については知識を応用できる能力を養い、未知の部分については誤用を避けることができる能力を養う。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こころ」の心理学的、精神医学的、脳科学的理解の相違を理解する。</li> <li>2. 精神分析学の歴史と理論を理解する。</li> <li>3. 行動主義心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>4. 認知心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>5. 人間性心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>6. 発達心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>7. 脳機能からみたこころを理解する。</li> <li>8. 精神医学的にみたこころを理解する。</li> <li>9. 死の受容について学ぶ。</li> <li>10. 介護業務上での知識の応用を学ぶ。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●こころのしくみの理解	1	こころとは何か	こころの心理学的、精神医学的、脳科学的理解	講	
	2	心理学の歴史	心理学の歴史	講	
	3	精神分析学①	精神分析学の歴史と精神分析的心理学モデル①	講	
	4	精神分析学②	精神分析学の歴史と精神分析的心理学モデル②	講	
	5	行動主義心理学①	行動主義心理学の歴史と行動理論的心理学モデル①	講	
	6	行動主義心理学②	行動主義心理学の歴史と行動理論的心理学モデル②	講	
	7	認知心理学①	認知心理学の歴史と認知心理モデル①	講	
	8	認知心理学②	認知心理学の歴史と認知心理モデル②	講	
	9	人間性心理学	人間性心理学の歴史と理論	講	
	10	発達心理学①	発達心理学①	講	

	1 1	発達心理学②	発達心理学②	講
	1 2	ストレスとコーピング	ストレスとコーピング	講
	1 3	脳とこころ①	大脳皮質の機能局在	講
	1 4	脳とこころ②	脳と精神症状	講
●死にゆく人のこころと からだのしくみ	1 5	死の受容	死の受容過程	講
<b>【使用テキスト】</b> 「介護福祉学5 こころとからだのしくみ」中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社 「からだのしくみ事典」成美堂			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅡ	講義	崎井 真弓		
<b>授業の回数</b> 45回	<b>時間数(単位数)</b> 90時間(45コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年 前・後期 介護福祉科2年 前期	<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 人体の解剖・生理学を体系的に学習する。 ADLの介護に必要な解剖・生理学を学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の解剖・生理学が体系的に理解できる。</li> <li>2. 心身の異常について、医学的に考えることができる思考力を身につける。</li> <li>3. 解剖・生理学の理解を通じて、安全、快適な介護ができるようになる。</li> </ol>				
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●からだのしくみの理解	1	人間とは何か	宇宙、生命、進化	講
	2	人体の構造と機能①	人体の構造と機能総論	講
	3	人体の構造と機能②	細胞、組織、器官、器官系	講
●移動に関連したこころとからだのしくみ	4	筋・骨格系①	筋・骨格系の解剖・生理学①	講
	5	筋・骨格系②	筋・骨格系の解剖・生理学②	講
	6	筋・骨格系③	筋・骨格系症状と疾患・障害①	講
	7	筋・骨格系④	筋・骨格系症状と疾患・障害②	講
	8	筋・骨格系⑤	体位、関節可動域 (ROM)	講
	9	筋・骨格系⑥	ボディメカニクス、補装具	講
●身じたくに関連したこころとからだのしくみ ●入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	10	上皮系①	上皮系の解剖・生理学	講
	11	上皮系②	上皮系症状と疾患・障害	講
	12	上皮系③	褥瘡	講
	13	循環器系①	循環器系の解剖・生理学①	講
	14	循環器系②	循環器系の解剖・生理学②	講
	15	循環器系③	循環器系症状と疾患・障害	講
	16	呼吸器系①	呼吸器系の解剖・生理学	講
	17	呼吸器系②	呼吸器系症状と疾患・障害	講
	18	ヴァイタルサイン	ヴァイタルサインの測定と異常の解釈	講
●食事に関連したこころ	19	消化器系①	消化器系の解剖・生理学	講

とからだのしくみ ●排泄に関連したところ とからだのしくみ	2 0	消化器系②	歯科・口腔学	講
	2 1	消化器系③	栄養学、経管栄養	講
	2 2	消化器系④	消化器系症状と疾患・障害①	講
	2 3	消化器系⑤	消化器系症状と疾患・障害②	講
	2 4	消化器系⑥	口腔、排便等の観察と記録	講
	2 5	泌尿器系①	泌尿器系の解剖・生理学	講
	2 6	泌尿器系②	泌尿器系症状と疾患・障害①	講
	2 7	泌尿器系③	泌尿器系症状と疾患・障害②	講
	2 8	泌尿器系④	体液バランス、水分摂取と排尿及びその計量と記録	講
●睡眠に関連したところ とからだのしくみ	2 9	内分泌系①	内分泌系の解剖・生理学	講
	3 0	内分泌系②	内分泌系症状と疾患・障害	講
	3 1	内分泌系③	糖尿病の理解	講
	3 2	生殖器系①	生殖器系の解剖・生理学	講
	3 3	生殖器系②	生殖器系症状と疾患・障害	講
	3 4	生活習慣病とメタボリックシンドローム①	生活習慣病とメタボリックシンドロームの概念	講
	3 5	生活習慣病とメタボリックシンドローム②	生活習慣病に属する疾患	講
	3 6	悪性腫瘍	がんの疫学、病態、治療	講
	3 7	救急対応①	ショック、心肺停止、窒息、誤嚥等	講
	3 8	救急対応②	ファーストエイド、心肺蘇生	講
3 9	救急対応③	脳卒中、心原性ショック、けいれん発作、熱傷、中毒等	講	
●死にゆく人のところ とからだのしくみ	4 0	疾患と終末期	呼吸器疾患、心・循環器疾患、腎・泌尿器疾患、肝疾患と終末期	講
	4 1	終末期における身体的症状と対応	呼吸・循環抑制、食欲不振、疲労、衰弱	講
	4 2	ケーススタディ	ケーススタディ①	PBL
	4 3	ケーススタディ	ケーススタディ②	PBL
	4 4	事例発表	事例発表①	事例
	4 5	事例発表	事例発表②	事例

**【使用テキスト】**

「介護福祉学5こころとからだのしくみ」  
中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社  
「からだのしくみ事典」成美堂

**【単位認定の方法及び基準】**

学則に定めるとおり

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア I・II		授業の種類 講義・演習		授業担当者 河野ひろ子・内平八重子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護福祉科2年 前期・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケア実施の基礎</li> <li>2. 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</li> <li>3. 経管栄養(基礎的知識・実施手順)</li> <li>4. 演習</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●医療的ケア実施の基礎	1	尊厳と倫理	個人の尊厳、医療倫理、利用者家族の気持ちの理解	講	
	2	保健医療制度とチーム医療	保健医療と介護保険に関する制度 医療行為とは	講	
	3		チーム医療とその実際 喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職の連携	講	
	4	安全な療養生活	安全に喀痰吸引、経管栄養を提供する重要性	演	
	5		リスクマネジメントとヒヤリハット報告	講	
	6	清潔保持と感染予防	感染予防、消毒法、滅菌	講	
	7	健康状態の把握	平常状態、バイタルサイン、急変状態、急変時の対応と事前準備	演	
●医療的ケア実施	8	喀痰吸引	呼吸の仕組みとはたらき	講	
	9		いつもと違う呼吸状態 呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害	講	
	10		喀痰吸引とは	講	
	11		人工呼吸器と吸引	講	
	12		子どもの吸引について	講	
	13		吸引を受ける利用者や家族の気持ちと、その対応・説明と同意	講	
	14		呼吸器系の感染と予防(吸引に関して)	講	
	15		喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	講	
	16		急変・自己発生時の対応と事前対策	講	

17		喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）演習	演	
18		喀痰吸引（気管カニューレ内部）演習	演	
19	経管栄養	消化器系器官の仕組みと役割・機能	講	
20		消化・吸収とよくある消化器の症状	講	
21		経管栄養とは	講	
22		注入する内容に関する知識	講	
23		子どもの経管栄養について	講	
24		経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと、その対応・説明と同意	講	
25		経管栄養に関する感染と予防	講	
26		経管栄養により生じる危険、事後の安全確認	演	
27		経管栄養（胃ろう・腸ろう） 演習	演	
28		経管栄養（経鼻） 演習	演	
29		救急蘇生法	救急蘇生法について理解し、説明できるようになる	講
30			救急蘇生法 演習	演
<b>【使用テキスト】</b> 介護福祉士養成テキスト4 医療的ケア 日本介護福祉士養成施設協会編 法律文化社		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり		

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 福祉事務所運営論		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 橋本 昇	
<b>授業の回数</b> 15回	<b>時間数(単位数)</b> 30時間 (15コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科2年 前期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 福祉事務所の運営について、地方行政環境の変転や近年の地方分権、基礎構造改革による所管業務の地方重視等についての基礎理論を実務経験を通して解説する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 基本的には所管事務の理解と実践活動（相談援助等）の学識の充実を図る。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 修得者としての実務判断、活動力を身につける。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●福祉事務所制度	1	福祉事務所の成立	福祉事務所の発足	講	
	2	福祉事務所の歴史的展開 (1)	社会福祉事業法（現、社会福祉法）	講	
	3	福祉事務所の歴史的展開 (2)	福祉六法体制確立、福祉関連八法改正、地方分権一括法	講	
	4	福祉事務所に関する法	社会福祉法、その他各法	講	
●福祉事務所の組織と業務内容	5	福祉事務所の業務（1）	福祉事務所運営指針	講	
	6	福祉事務所の業務（2）	福祉事務所の機能と役割	講	
	7	福祉事務所の組織	社会福祉主事	講	
●福祉事務所と関係各機関との連携	8	関係機関（1）	児童相談所、更生相談所	講	
	9	関係機関（2）	保健所、婦人相談所 他	講	
	10	社会福祉主事（1）	役割と倫理	講	
	11	社会福祉主事（2）	業務と社会福祉援助技術の活用	講	
	12	査察指導	意義と方法	講	
	13	現任訓練	意義と方法	講	
	14	福祉事務所をめぐる動向	福祉事務所を取り巻く環境の変化	講	
	15	まとめ		講	
<p><b>【使用テキスト】</b> 「三訂 社会福祉概論」光生館</p> <p><b>【参考文献】</b> 「同上書」（宇山勝儀著）（ミネルヴァ書房） 「社会福祉概論」（中央法規）</p>			<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験と受講態度及び出欠状況によるものとする。</p>		

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 社会福祉現場実習		<b>授業の種類</b> 実習		<b>授業担当者</b> 森脇 浩子	
<b>授業の回数</b>	<b>時間数(単位数)</b> 90時間 (4.5コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護福祉科1年・2年 後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場体験を通じて社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術の内容の理解を深める。</li> <li>2. 講義、演習、学校内実習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。</li> <li>3. 社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助業務に必要な資質・能力・技術を取得する。</li> <li>4. 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。</li> <li>5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</li> </ol> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>実習は下記の機関・施設（事業を含む）で実施することとし、①または②の機関のいずれかでの実習を、1箇所以上含んで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①福祉事務所</li> <li>②児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所・婦人相談所</li> <li>③社会福祉施設</li> <li>④市町村福祉保健関係機関</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導者の指導を受けながら、業務の進め方や記録の方法等について学び、実習機関・施設等においてチームの一員として活動する能力を養う。</li> <li>2. 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや、人との付き合いなどの円滑な人間関係を形成する能力を強める。</li> <li>3. 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。</li> <li>4. 利用者やその関係者への援助の実際を学び、援助の能力を強める。</li> <li>5. 福祉専門職としての職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業に関する規定等を学び、組織の一員として業務を計画し、責任を果たす能力を強める。</li> </ol>					
<b>【使用テキスト】</b> レジュメ対応  <b>【参考文献】</b>			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり		

## 実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
池田 淑子	乳児保育Ⅰ	30	市立保育園にて保育士として奉職
	乳児保育Ⅱ	30	
	保育実習事前指導Ⅰ	16	
	保育実習事後指導Ⅰ	16	
	保育・教職実践演習	30	
上原 尚子	生活支援技術Ⅰ	20	医療施設にて管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士として勤務
	生活支援技術Ⅲ	10	
奥田 和子	こどもの食と栄養	30	小学校にて栄養士として勤務
鏡原 崇史	障害児保育	30	市立幼稚園特別支援教育スーパーバイザーとして勤務
上栗 明男	児童家庭福祉	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
	社会的養護	30	
	社会的養護内容	30	
木嶋 眞之祐	健康・スポーツ	30	高等学校にて体育教員として勤務
	健康科学	30	
白石 智枝	音楽基礎Ⅰ	30	アートスクール音楽科講師として勤務
	音楽基礎Ⅱ	30	
	こどもの音楽Ⅰ	30	
	こどもの音楽Ⅱ	30	
	保育表現技術演習	30	
	保育内容(表現)	30	
中村 孝	発達心理学Ⅰ	30	児童自立支援施設にて奉職
	発達心理学Ⅱ	30	
砂橋 昌義	レクリエーション理論	20	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表 NPO法人ひろしまレクリエーション協会 理事長
	レクリエーションワーク(実技・演習)	40	
富田 雅子	保育士・教師論	30	幼稚園にて教諭として勤務
	保育内容総論	30	
	保育相談支援演習	30	
	専門演習Ⅰ	30	
	専門演習Ⅱ	30	
吉田 八千代	こどもの保健Ⅰa	30	病院にて看護師として勤務
	こどもの保健Ⅰb	30	
	こどもの保健Ⅱ	30	
渡辺 博文	教育原理	30	広島県教育委員会障害児教育室指導主事として勤務
奥野 治子	文章表現	30	中学校にて国語教員として勤務
上本 義博	認知症の理解	30	高齢者福祉施設にて介護福祉士、介護支援専門員として勤務
内平 八重子	認知症の理解	30	町 保健師として勤務
河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
	障害の理解	60	
崎井 真弓	こころとからだのしくみⅠ	30	病院にて看護師として勤務
	こころとからだのしくみⅡ	90	
	医療的ケア	60	
	生活支援技術Ⅲ	50	
	介護過程Ⅱ	30	
	介護過程Ⅲ	30	
	介護総合演習Ⅱ	30	

西津 和幸	情報機器の操作 I	30	システム系企業 システム開発担当として勤務
野村 裕之	介護の基本 I	90	病院にて介護福祉士として勤務
	生活支援技術 I	6	
	生活支援技術 II	40	
	介護過程 I	30	
	介護総合演習 I	30	
森川 史恵	人間関係とコミュニケーション	30	高齢者福祉施設にて介護福祉士として勤務
山崎 年幸	介護の基本 II	30	病院にて介護福祉士として勤務
	コミュニケーション技術	60	
	生活支援技術 II	80	
	生活支援技術 III	60	
	介護過程 I	30	
	介護過程 II	30	
	介護総合演習 I	30	
	介護総合演習 II	30	
池田 淑子 各実習施設指導者	保育実習 I	180	実習指導者は保育所・施設にて、実務経験を含めた指導者要件のある人が担当
	保育実習 II	90	
崎井 真弓 野村 裕之 山崎 年幸 各実習施設指導者	介護実習 I	45	実習施設指導者は高齢者福祉施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要)
	介護実習 II	90	
	介護実習 III	135	
	介護実習 IV	180	
		2788	

# 平成31年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">教育原理</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義・演習・実習)</p>	授業担当者 <p style="text-align: center;">渡辺 博文</p>
授業の回数 <p style="text-align: center;">15回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護保育科1年 前期</p>
[授業の目的・ねらい] 教育に対する熱意や倫理、子ども理解、授業指導力、保護者連携など教員・保育士(以下教員等)に求められる資質・能力の基本となる教育の原理に関する理論と実際について学び、教員等に必要となる基本的資質を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 教育という営みの歴史的・思想的変遷、我が国の学校教育制度や今後の教育改革、今日の教育事情や保護者の教育及び学校に対する意識などを学び、教育等としての資質及び専門性の向上に資する内容を履修する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 成長・発達期にある子どもに関わる責任の重い、喜びの大きい職務の基本的な視座となる教育の原理を知り、教員等を志すための自己研鑽に努めることができるようになる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 実態調査からみる教育の現状 2 教育の意義と目的 ～教育とは何か①～ 3 諸外国における教育の歴史と思想 ～教育とは何か②～ 4 日本の教育(保育)の歴史と思想 ～学校とは何か①～ 5 学校の成立と学校教育制度の変遷 ～学校とは何か②～ 6 改正教育基本法の背景と要点 ～これから学校教育～ 7 幼稚園教育要領(保育所保育指針)と学習指導要領 8 発達の原理・法則と発達のとらえ方 ～こころとからだを育てる～ 9 子ども理解の視座と方法 ～いじめ・不登校問題を考える～ 10 学習理論と教育活動 ～よりよい授業の在り方を考える～ 11 教師の資質と仕事・役割 12 教育の原点とされる特別支援教育とは 13 学校教育と児童福祉の在り方 ～子どもの権利条約・児童虐待から考える～ 14 現代社会とこれからの教育の諸課題 ～社会教育・生涯教育とは～ 15 まとめ		
[使用テキスト] ・田嶋 一 他編著 やさしい教育原理 有斐閣アルマ	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  広島福祉専門学校学則第26条による。(出席状況・考査・学習態度)	
[参考文献] ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領 ほか		

# 平成31年度 授業概要

科目名 児童家庭福祉		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 後期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもしっかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 テキストを中心に進めるが、単元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』)</li> <li>2 現代社会と子ども家庭の問題</li> <li>3 子どものための福祉の原理</li> <li>4 日本の児童福祉の歴史</li> <li>5 戦後の児童福祉の歩み</li> <li>6 児童福祉法</li> <li>7 児童相談所と関連機関</li> <li>8 児童福祉施設</li> <li>9 児童の社会的養護サービス</li> <li>10 児童虐待の定義</li> <li>11 児童虐待の実態</li> <li>12 子どもを虐待から保護する仕組み</li> <li>13 子ども家庭への相談援助活動</li> <li>14 施設ケアの内容</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>			
<p>〔使用テキスト〕 社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(中央法規出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕</p>			

## 平成31年度 授業概要

科目名 情報機器の操作 I		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 西津 和幸
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 後期	
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーソナルコンピュータの基本操作と実践的な文書作成</li> <li>・ワープロソフト・表計算ソフトを効率的に操作する技術の修得</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>①Windows 基本操作(マイコンピュータ・フォルダの管理)</li> <li>②ワープロソフト(ビジネス文書の作成・図形)</li> <li>③表計算ソフトの活用</li> </ul>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロソフト及び表計算ソフトの基本操作を習得する。</li> <li>・ビジネス文書の基本構成を理解する。</li> </ul>			
[授業終了時の日程と各階のテーマ・内容・授業方法] <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・Windows の起動・タイピングソフトの使い方</li> <li>2. Microsoft Word の基本操作・文字入力</li> <li>3. 文章入力</li> <li>4. 編集機能(ボールド体・囲み線・イタリック体・フォントの種類等)</li> <li>5. 編集機能(右寄せ・センタリング・倍角文字等)</li> <li>6. 簡単なビジネス文書の作成</li> <li>7. 表の挿入</li> <li>8. 実技試験(Word)</li> <li>9. Microsoft Excel の基本操作</li> <li>10. 関数1(合計・平均)体裁</li> <li>11. 表示・絶対番地 4級</li> <li>12. 関数2(最大・最小・件数)</li> <li>13. 関数3(条件分岐)</li> <li>14. 関数4(並べ替え・順位付け) 3級</li> <li>15. 実技試験(Excel)・筆記試験</li> </ol>			
[使用テキスト] <ul style="list-style-type: none"> <li>・30時間でマスター Word・Excel2016(実教出版)</li> </ul>		[単位認定の方法及び基準] <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験・実技試験・出席点・FD・課題ファイル提出・検定受験を考慮し、総合的に評価する。</li> </ul>	
[参考文献]			

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 人間関係とコミュニケーション		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森川 史恵	
<b>授業の回数</b> 15回	<b>時間数(単位数)</b> 30時間 (15コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. より良い人間関係を形成するために、人間関係に影響を及ぼす因子について学習する。</li> <li>2. より良い人間関係を形成するために、人間関係の障壁になる因子について学習する。</li> <li>3. 円滑なコミュニケーションを行うために、コミュニケーションの構成要素について学習する。</li> <li>4. 円滑なコミュニケーションを行うために、傾聴テクニックについて学習する。</li> <li>5. 円滑なコミュニケーションを行うために、言語的コミュニケーションの基本について学習する。</li> <li>6. 円滑なコミュニケーションを行うために、非言語コミュニケーションの基本について学習する。</li> <li>7. 円滑なコミュニケーションを行うために、電話でのコミュニケーションの基本について学習する。</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係に影響を及ぼす因子について理解する。</li> <li>2. 人間関係の障壁になる因子について理解する。</li> <li>3. コミュニケーションの構成要素について理解する。</li> <li>4. 傾聴テクニックについて理解する。</li> <li>5. 言語的コミュニケーションの基本について理解する。</li> <li>6. 非言語コミュニケーションの基本について理解する。</li> <li>7. 電話でのコミュニケーションの基本について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
<b>大テーマ</b>	<b>コマ数</b>	<b>小テーマ</b>	<b>内 容</b>	<b>授業方法</b>	
●人間関係の形成	1	人間関係の形成 1	人間関係の形成にとって必要なことについて、これまでに学んだこと及び学生自らの体験に照らし、考える	講	
	2	人間関係の形成 2		講	
	3	支援関係における人間関係の形成	支援関係における人間関係形成の必要性について	講	
	4	人間関係に影響を及ぼす因子	偏見、欲求不満、行動、人生経験	講	
	5	人間関係形成の障壁となるもの	ラベリング、感覚器障害、言語不明瞭	講	
	6	人間関係とコミュニケ	対人関係におけるコミュニケーション(準言語・非言語)について	講	
●コミュニケーションの基礎	7	コミュニケーションの構成因子	メッセージ、送り手、受け手	講	
	8	受容・共感・傾聴	これまで学んだ言語的・準言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、「受容的」、「共感」、「傾聴」を学ぶ	講	
	9	言語的コミュニケーション①	受動的、能動的、攻撃的コミュニケーション	講	

10	言語的 コミュニケーション②	適切な敬語の練習、質問及び言葉が利用者に及ぼす影響を考える	講
11	記述による コミュニケーション	模擬的記録を作成し、記録作成留意点を確認する。また、記録の活用場面を鑑みて、記録の重要性を考える	講
12	非言語的 コミュニケーション①	適切な表情・目線・動作・姿勢・装い等を考える	講
13	非言語的 コミュニケーション②	適切な対人距離・位置を考える	講
14	電話での コミュニケーション	電話の応対	講
15	模擬面談	生活・介護場面における相談場面を想定し、模擬面接を行う	ロール プレイ
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 人間の理解」(メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「コミュニケーション学入門」(松柏社) 「声かけ・応答ハンドブック」(中央法規)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護の基本 I-2		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 45回	<b>時間数(単位数)</b> 90時間(45コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 社会福祉、介護福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について学習する。 2. 介護福祉の基本的理念について学習する。 3. 介護福祉の対象となる人について学習する。 4. 介護福祉サービスについて学習する。 5. 他職種との連携、共働について学習する。 6. 介護福祉の倫理について学習する。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 社会福祉、介護福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について理解する。 2. 介護福祉の基本的理念について理解する。 3. 介護福祉の対象となる人について理解する。 4. 介護福祉サービスについて理解する。 5. 他職種との連携、共働について理解する。 6. 介護福祉の倫理について理解する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護福祉士を取り巻く状況	1	オリエンテーションー 介護福祉士のイメージ	授業の内容と進め方。介護・介護福祉士に対するイメージを膨らませる	講	
	2	介護福祉士を取り巻く状況①	世界の中の日本、少子高齢化と社会福祉、社会保障	講	
	3	介護福祉士を取り巻く状況②介護の歴史	日本の介護の歴史 養老院、寮母、家庭奉仕員、家族中心の介護措置制度	講	
	4	介護福祉士を取り巻く状況③介護問題の背景	平均寿命、合計特殊出生率、少子高齢化の推移、核家族化、女性の社会進出、家族機能の変化	講	
	5	介護福祉士を取り巻く状況④介護問題の背景	老老介護、高齢者の自殺、介護殺人・心中、高齢者虐待の実態と背景	講	
	6	介護福祉士を取り巻く状況⑤介護問題の背景	生活の価値観の変化、2015年の高齢者像、団塊の世代、介護保険制度の改正、尊厳の保持	講	
	7	介護福祉士を取り巻く状況⑥	利用者中心主義、身体拘束禁止、事故処理、苦情処理	講	
	8	介護福祉士を取り巻く状況⑦	労働環境、介護者の不足	講	
●介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法の改正、介護福祉士の定義、心身の状況に応じた介護	講	

	1 0	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ② 社会福祉士及び介護福祉士法 専門職能団体の活動	介護福祉士の専門性、名称独占・業務独占、専門職能団体の活動、日本介護福祉士会倫理綱領	講
	1 1	介護実践における連携① 多職種連携（チームアプローチ）	介護を必要とする人の持つ生活課題の理解、介護実践するための職種の理解	講
	1 2	介護実践における連携② 多職種連携（チームアプローチ）	生活課題解決のための多職種連携の必要性	講
	1 3	介護実践における連携③ 多職種連携（チームアプローチ）	介護福祉士の気づきをどのように連携につなげるか（具体的な事例をもとに）	講
	1 4	介護実践における連携④ 多職種連携（チームアプローチ）	他の職種から期待される連携のあり方と介護福祉士の役割	講
	1 5	介護実践における連携⑤ 地域連携	在宅重視、生活の場、地域連携の意義目的、利用者の生活する場・周辺のインフォーマルサービスの機能と連携	講
	1 6	介護実践における連携⑤ 地域連携	障害を持って1人で在宅生活を送っている人がどのような生活を願い実践しているか	講
	1 7	介護実践における連携⑥ 地域連携	在宅重視、地域包括支援センターとの連携、市町村・都道府県の機能と役割	講
●尊厳を支える介護	1 8	尊厳を支える介護① 介護のイメージ	「介護とは何か」、「家族とは」、「老いとは」、「生老病死」、ともに学びあう行為としての介護	講
	1 9	尊厳を支える介護② 介護とは何 QOL	人間尊重・人間の尊厳について、介護の本質・特性、QOLの考え方、自己実現の過程、潜在的可能性・発達の可能性	講
	2 0	尊厳を支える介護③ ノーマライゼーション	平等主義・機会均等の思想に立脚したノーマライゼーションの考え方、歴史的背景と概念、ノーマライゼーションの実現	講
	2 1	尊厳を支える介護④ 利用者主体	「主体性尊重の原理」、「選択意思の尊重」、利用者主体の考え方とその具体的な取り組み	講
●自立に向けた介護	2 2	自立に向けた介護① 自立支援	自立・自律の考え方、自己決定・自己選択、自立生活の概念、自立支援の考え方	講
	2 3	自立に向けた介護② 自立支援	自立支援の具体的展開、生活意欲への働きかけとエンパワメント	講

	24	自立に向けた介護③ 個別ケア	「個別化の原理」、個別ケアの考え方 とその具体的な展開	講
	25	自立に向けた介護④ ICF	ICF（国際生活機能分類）の考 え方、ICFの視点に基づく利用者の アセスメント	講
	26	自立に向けた介護⑤ リハビリテーション	リハビリテーションの考え方・概念・ 実際 ①病院・施設におけるリハビリテ ーション、。 ②在宅におけるリハビリテ ーション、。	講
	27	自立に向けた介護⑥ リハビリテーション	見学、。	講
	28	自立に向けた介護⑦ リハビリテーション	③介護予防、リハビリテーション専 門職との連携	講
	29	介護従事者の倫理① 職業倫理	介護の持つ倫理性、介護と人権、介 護福祉士の倫理性	講
	30	介護従事者の倫理② 利用者の人権と介護	身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐 待、その他	講
	31	介護従事者の倫理③ プライバシーの保護・まとめ	個人情報保護、プライバシーの保護、 「介護」とは？	講
●介護を必要とする人の 理解	32	介護を必要とする人の 理解②高齢者の生活	人間の多様性・複雑について①	講
	33	介護を必要とする人の 理解③生活習慣と生活様式	人間の多様性・複雑について②	講
	34	介護を必要とする人の 理解④生活のリズム	高齢のくらしの理解の実際①	講
	35	介護を必要とする人の 理解⑤住まいと環境	高齢のくらしの理解の実際②	講
	36	介護を必要とする人の 理解⑥余暇活動	高齢のくらしの理解の実際③	講
	37	介護を必要とする人の 理解⑦レクリエーション	高齢のくらしの理解の実際④	講
	38	介護を必要とする人の 理解⑧障害者支援	障害のある人のくらしの理解①	講
	39	介護を必要とする人の 理解⑨各種保険年金	障害のある人のくらしの理解②	講
	40	介護を必要とする人の 理解⑩介護保険	障害のある人のくらしの理解③	講
	41	介護を必要とする人の 理解⑪生活環境	障害のある人のくらしの理解④	講
	42	介護を必要とする人の 理解⑫家族の役割	障害のある人のくらしの理解⑤	講
	43	介護を必要とする人の 理解⑬地域の結びつき ①	障害のある人のくらしの理解⑥	講

4 4	介護を必要とする人の理解④地域の結びつき②	障害のある人のくらしの理解⑦	講
4 5	まとめ	高齢者のくらしを振り返る、介護福祉士と高齢者について	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護の基本」(メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> コミュニケーション技術		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種共働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは何かについて学習する。</li> <li>2. 言語コミュニケーションについて学習する。</li> <li>3. 非言語コミュニケーションについて学習する。</li> <li>4. 面接技法について学習する。</li> <li>5. 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて学習する。</li> <li>6. 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて学習する。</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは何かについて理解する。</li> <li>2. 言語コミュニケーションについて理解する。</li> <li>3. 非言語コミュニケーションについて理解する。</li> <li>4. 面接技法について理解する。</li> <li>5. 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて理解する。</li> <li>6. 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護におけるコミュニケーションの基本	1	オリエンテーション	授業概要の説明。グループ分けと関係づくり	講	
	2	介護におけるコミュニケーションの基本①	・介護におけるコミュニケーションの意義と目的 ・メッセージの共有	講	
	3	介護におけるコミュニケーションの基本②	・介護におけるコミュニケーションの役割 ・コミュニケーション効果	講	
	4	介護におけるコミュニケーションの基本③	利用者・家族との関係づくり	講	
	5	介護におけるコミュニケーションの基本④	非言語コミュニケーション	講	
	6	介護におけるコミュニケーションの基本⑤	援助者としての自己理解を深める	講	
	7	介護におけるコミュニケーションの基本⑥	価値観と他者への理解	講	
●介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①	話を聴く技法(傾聴)	講 演	
	9	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②	話を聴く技法(受容)	講 演	

	1 0	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③	話を聴く技法（共感）	講 演
	1 1	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④	話を聴く技法（質問の技法）	講 演
	1 2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑤	話を聴く技法（相づち、繰り返し、明確化、要約）	講 演
	1 3	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑥	話を聴く技法（沈黙）	講 演
	1 4	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑦	利用者の感情表現を察する技法	講 演
	1 5	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑧	利用者の納得と同意を得る技法	講 演
	1 6	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑨	利用者への助言と指導	講 演
	1 7	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑩	利用者の意欲を引き出す技法	講 演
	1 8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑪	利用者本人と家族の意向の調整を図る技法	講 演
	1 9	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑫	感覚機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 0	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑬	運動機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 1	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑭	認知・知覚機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑮	コミュニケーション再考と学習方法	講
●介護におけるチームのコミュニケーション	2 3	介護におけるチームのコミュニケーション①	対人援助職種間のコミュニケーション	講
	2 4	介護におけるチームのコミュニケーション②	介護における記録の意義・目的、記録の管理、共有化と活用	講
	2 5	介護におけるチームのコミュニケーション③	介護に関する記録の種類、方法、留意点	講
	2 6	介護におけるチームのコミュニケーション④	情報通信技術（IT）を活用した記録の意義、活用の留意点	講

27	介護におけるチームのコミュニケーション⑤	報告の意義・目的、報告・連絡・相談の方法、留意事項	講
28	介護におけるチームのコミュニケーション⑥	会議の意義・目的、会議の種類	講
29	介護におけるチームのコミュニケーション⑦	会議の方法・留意点	講
30	まとめ	これまでの授業をふまえてのまとめ。	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 コミュニケーション技術」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「コミュニケーション学入門」(松柏社) 「声かけ・応答ハンドブック」(中央法規)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術 I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森脇 克樹 上原 尚子 後藤 和子 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間 (30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. ICF と生活支援の関連について学習する。 2. 居住環境に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 家事に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. ICF と生活支援の関連について習得する。 2. 居住環境に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 家事に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●生活支援	1	人生と生活	人生・生活とは	講	
	2	生活環境	社会福祉の法と在宅・施設	講	
	3	生活支援	ICF における生活支援と多職種共働、自立とは	講	
	4	生活支援における理念、倫理と法	生活支援における理念、倫理と法	講	
	5	生活支援における対人援助技術	生活支援における対人援助技術	講	
	6	生活支援における他職種共働	多職種共働とチームケア	講	
●自立に向けた居住環境の整備	7	居住環境整備の意義と目的	生活における居住環境整備の意義と目的	講	
	8	居住環境のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講	
	9	環境整備	環境整備とバリアフリー	講	
	10	事故防止	転倒・転落防止、外傷防止、火傷防止、ボディメカニクス	講 演	
	11	身体拘束の禁止と事故防止	身体拘束の禁止と事故防止、事故処理	講	
	12	火事・災害防止	火事・災害防止	講	
	13	感染防御	細菌、ウイルス、感染防御の基本	講	
	14	安全で心地よい生活の場づくり	安全で心地よい生活の場づくり、バリアフリー、住宅改修	講	
	15	居住環境整備	居住環境整備	演	
●自立に向けた家事の介護	16	家事の意義	生活における家事の意義	講	
	17	家事に関する利用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講	

18	家事の支援①	調理①	講演
19	家事の支援②	調理②	講演
20	家事の支援③	調理③	講演
21	家事の支援④	洗濯①	講演
22	家事の支援⑤	洗濯②	講演
23	家事の支援⑥	掃除・ゴミ捨て	講演
24	家事の支援⑦	掃除・ゴミ捨て	講演
25	家事の支援⑧	裁縫①	講演
26	家事の支援⑨	裁縫②	講演
27	家事の支援⑩	衣類・寝具の衛生管理	講演
28	家事の支援⑪	買い物	講演
29	家事の支援⑫	家庭経営、家計の管理	講演
30	多職種共働	家事支援における多職種共働	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 生活支援技術Ⅰ」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習 I		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 6日間	<b>時間数(単位数)</b> 4.5時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 後期		<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 訪問介護事業所、通所介護事業所、グループホームでの実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者や障害者に関わる</li> <li>2. 施設の役割を理解し、業務の流れを学ぶ</li> <li>3. 利用者の日々の変化、日内変化を知る</li> <li>4. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>5. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設・事業等を体験し、施設などの機能や基本的なケアを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特徴や支援体制を把握する。</li> <li>・利用者の疾病や障害を学習する。</li> <li>・介護職の業務の流れを理解する。</li> <li>・マナーや職務規定を理解して守る。</li> </ul> </li> <li>2. 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の程度や思いに応じた介護技術を丁寧に判断、実施し、毎日の技術を自己評価する。</li> <li>・基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。</li> </ul> </li> <li>3. 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活やそのリズムを知る。</li> <li>・利用者と一緒に積極的にコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションが心身の活性化に及ぼす影響について考察する。</li> </ul> </li> <li>4. 多様な介護サービスの中で多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や申し送り等の場面で健康や生活に関する問題について知る。</li> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> </ol>				
<p><b>【使用テキスト】</b> 「実習のしおり」 広島福祉専門学校 「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>			<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>	

# シラバス

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者	
こころとからだのしくみI		講義	崎井 真弓	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
15回	30時間 (15コマ)	介護保育科1年 前期	必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            こころのしくみについて、心理学的理解と脳科学的理解を深める。それによって、こころについての既知と未知の知識を整理できるようにする。さらに介護で自己や他者のこころを考慮する上において、既知の部分については知識を応用できる能力を養い、未知の部分については誤用を避けることができる能力を養う。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こころ」の心理学的、精神医学的、脳科学的理解の相違を理解する。</li> <li>2. 精神分析学の歴史と理論を理解する。</li> <li>3. 行動主義心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>4. 認知心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>5. 人間性心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>6. 発達心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>7. 脳機能からみたこころを理解する。</li> <li>8. 精神医学的にみたこころを理解する。</li> <li>9. 死の受容について学ぶ。</li> <li>10. 介護業務上での知識の応用を学ぶ。</li> </ol>				
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●こころのしくみの理解	1	こころとは何か	こころの心理学的、精神医学的、脳科学的理解	講
	2	心理学の歴史	心理学の歴史	講
	3	精神分析学①	精神分析学の歴史と精神分析的心理学モデル①	講
	4	精神分析学②	精神分析学の歴史と精神分析的心理学モデル②	講
	5	行動主義心理学①	行動主義心理学の歴史と行動理論的心理モデル①	講
	6	行動主義心理学②	行動主義心理学の歴史と行動理論的心理モデル②	講
	7	認知心理学①	認知心理学の歴史と認知心理モデル①	講
	8	認知心理学②	認知心理学の歴史と認知心理モデル②	講
	9	人間性心理学	人間性心理学の歴史と理論	講
	10	発達心理学①	発達心理学①	講

	1 1	発達心理学②	発達心理学②	講
	1 2	ストレスとコーピング	ストレスとコーピング	講
	1 3	脳とこころ①	大脳皮質の機能局在	講
	1 4	脳とこころ②	脳と精神症状	講
●死にゆく人のこころと からだのしくみ	1 5	死の受容	死の受容過程	講
<b>【使用テキスト】</b> 「介護福祉学5こころとからだのしくみ」中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社 「からだのしくみ事典」成美堂			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# 平成31年度 授業概要

<b>科目名</b> 健康・スポーツ		<b>授業の種類</b> (講義・演習・実習)	<b>授業担当者</b> 木嶋 眞之祐
<b>授業の回数</b> 15回	<b>時間数</b> 30時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 I年 前期	
<b>[授業の目的・ねらい]</b> 健康と身体活動の関係について、基本的な生活習慣・発育段階における運動の量と質・目的に応じたトレーニング内容等それぞれの視点から考え、人生におけるスポーツ活動の役割を理解する。また、実技においてはバドミントン・バレーボール及び体力づくり運動などを実践し、各種競技の公式なルールを学ぶとともに、それを行う人の年齢や体力によってどのような特別ルールが必要かを考える。			
<b>[授業全体の内容の概要]</b> 歩く、走る、跳ぶ、投げる、掴むなどの基礎的な動作を各種の運動やスポーツに発展させることの必要性を知り、発育段階やその場の環境に適応した身体活動を効率的に展開していく方法を理解させる。さらに、そのようにして得た体力や適応力を現代社会の中でどのように発揮し、よりよい健康的な生活に結びつけていくかを考察する。			
<b>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</b> 運動スポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。			
<b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]コマ数</b>  1 健康であるとは1 2 健康であるとは2 3 生活習慣病について 4 こころの健康について 5 福祉社会と健康 6 人生と基本的な生活習慣とスポーツ 7 発育段階に応じた運動とトレーニング方法 8 バドミントン 9 バドミントン 10 バレーボール 11 バレーボール 12 ソフトボール 13 ソフトボール 14 体力づくり運動 15 体力づくり運動			
<b>[使用テキスト]</b> 大学生の健康・スポーツ科学研究会 「大学生の健康・スポーツ科学 第5版」道和書院		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> (試験やレポートの評価基準など)  試験、レポートの成績だけでなく、授業への取り組み態度や意欲等も評価の対象とする。	
<b>[参考文献]</b>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 レクリエーション理論		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当 砂橋 昌義
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 前期	
【授業の目的・ねらい】 レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。			
【授業全体の内容の概要】 介護福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につける			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。			
【授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法】 コマ数 1.レクリエーションの意義 2.レクリエーション・インストラクターの役割 3.楽しさを通じた心の元気づくり 4.ライフステージと対象にあわせた心の元気づくり 5.心の元気と地域のきずな 6.人間交流のための交流分析(TA) 7.コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 8.良好な集団作りの理論 9.自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 10.レクリエーション活動の安全管理			
【使用テキスト】 楽しさをとoshita心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 公益財団法人日本レクリエーション協会編		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)  出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
【参考文献】			

# 平成31年度 授業概要

科目名 レクリエーション・ワーク(実技・実習)		授業の種類 (実技・演習)	授業担当者 砂橋 昌義
授業の回数 25駒	時間数 50時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 通年	
【授業の目的・ねらい】 レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける			
【授業全体の内容の概要】 福祉支援者として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。 また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を通して支援技術を身につける。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 福祉現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。			
【授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法】 コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.レクリエーション事業とは</li> <li>2.事業計画Ⅰ(個人にアプローチする事業のつくり方)</li> <li>3.事業計画Ⅱ(市民を対象にした事業のつくり方)</li> <li>4.事業計画の作成と発表</li> <li>5.コミュニケーションワーク ～ホスピタリティとは～</li> <li>6.コミュニケーションに必要な態度等</li> <li>7.ホスピタリティの示し方</li> <li>8.アイスブレイキングの意義と基本技術</li> <li>9.アイスブレイキングのプログラミング</li> <li>10.アイスブレイキングのプログラムの立案</li> <li>11.レクリエーションワークの理解</li> <li>12.目的に合わせたレクリエーションワーク</li> <li>13.素材アクティビティの選択</li> <li>14.素材アクティビティの提供と相互作用の活用</li> <li>15.対象にあわせたレクリエーションワークの基本技術</li> <li>16.段階的アレンジ法の応用</li> <li>17.歌を活かすレクリエーションワークの応用</li> <li>18.ゲーム等を活かすレクリエーションワークの応用</li> <li>19.テキストで使われている素材アクティビティ</li> <li>20.総合演習の進め方(イベントプログラムの作成)</li> <li>21.イベントプログラムの試行(対人交流技術)</li> <li>22.レクリエーション支援技術のクリニック</li> <li>23.人間開発トレーニングⅠ(情報管理・的あてゲーム)</li> <li>24.人間開発トレーニングⅡ(リーダーシップ・スリーテン)</li> <li>25.レクリエーション技術研修のまとめ</li> </ol>			
【使用テキスト】 楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 公益財団法人日本レクリエーション協会編		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
【参考文献】			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育内容総論	授業の種類 演習	授業担当者 富田 雅子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 後期
[授業の目的・ねらい] 教科目の教授内容<目的> 1 保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。 2 保育内容の歴史的な変遷について学び、保育内容について理解する。 3 子どもや子ども集団の、発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容や子どもとのかかわりについて学ぶ。 4 子どもの生活全体を通して、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(領域:健康・人間関係・環境・言葉・表現)が一体的に展開することを具体的に保育の実践につなげて理解する。 5 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。		
[授業全体の内容の概要] 1 保育の基本と保育内容 2 保育内容の歴史的変遷 3 保育内容と子ども理解 4 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5 多様な保育等		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保育内容の5つの領域(「養護」的内容が加わる)は保育実践で分断されて行われるのではなく一体的に行なわれるものであると理解する。具体的な生活や学びの中に、それらが丸ごと含まれていることを理解していき、実践の中で総合的に捉えていく視点を持って保育を進めて行く事ができる様になる。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] 1 保育内容総論とはなにか ・保育の基本 科目全体の内容の確認をする。 2 保育内容の意味 保育所保育指針に基づく保育内容の領域について確認する。 3 保育内容の変容とその背景 保育内容の歴史的な内容について確認する。 4 保育方法と保育内容 多様な保育形態、保育方法、内容を確認する。 多様な保育ニーズと、地域と家庭との相互関係について身近なものを挙げて考察をする。 5 子どもの育ちをどのように見るか 子どもの育ち・発達・遊び・環境について事例や映像等から考える。 保育場面等をグループで話し合う。 6 3歳児未満時の保育内容と指導計画のポイント 3歳児未満児の保育内容と保育所保育指針との関係を見る。 保育指導計画の作成のポイントを整理確認。 7 3・4・5歳児の保育内容と指導計画のポイント 3・4・5歳児の保育内容を整理し、保育所保育指針との関係を見る。 3・4・5歳児の指導計画の作成のポイントを整理・確認をする。 8 1・2歳児の保育の展開について 1・2歳児の保育の展開についてポイントを整理していく。 9 年少児の保育展開について 年少児の保育の展開について事例などからポイントを整理する。 10 年中児の保育展開について 年中児の保育展開について事例などからポイントを整理する。 11 年長児の保育展開 について 年長児の保育展開について事例などからポイントを整理する。 12 学校教育の基本としての保育 13 多様な保育 14 保育内容の振り返り 15 ノート整理及び、内容振り返り		
[使用テキスト] 関口はつえ・岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価規準など) ・復習等の振り返り、考察ができていないか、最終時に全プリントへの記入、整理内容を確認。(総点のうちの40点満点、紛失・記入無し・書き方の不備等を減点対象とする) ・最終講義に試験を行う。 ・設題数20問(60点満点) ・内容については、教科書・配布物・講義中に重要としたことより出題。	
[参考文献] 厚生労働省『保育所保育指針』 倉橋惣三『倉橋惣三選集』フレーベル他		

# 平成31年度 授業概要

<b>科目名</b> 保育実習指導 I (事後)(保育所)		<b>授業の種類</b> (講義・演習)	<b>授業担当者</b> 池田 淑子
<b>授業の回数</b> 8コマ	<b>時間数</b> 16時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 2年 後期	
<b>[授業の目的・ねらい]</b>  保育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
<b>[授業全体の内容の概要]</b> ・保育実習の振り返りと自己評価。 ・実習報告レポートの作成。 ・次の実習課題の作成。			
<b>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</b>  保育実習の総括を行う。			
<b>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</b> コマ数 1 自己の実習を振り返り、自習記録の整理。 2 実習レポートの作成。 3 自己課題の振り返りと振り返りレポートの作成。 4 " " 5 実習事後報告会。 6 実習事後報告会。 7 自己評価と次の実習課題の作成。 8 「評価表」による個別面接指導。			
<b>[使用テキスト]</b> 関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書  福本俊『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> (試験やレポートの評価基準など)  出席状況 授業態度	
<b>[参考文献]</b> 汐見稔幸監修『保育所保育指針ハンドブック』2017告示版 学研  子櫃智子他著『幼稚園・保育所・認定子ども園パーフェクトガイド』わかば社			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育実習指導 I (事前)(保育所)		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 池田 淑子
授業の回数 8 駒	時間数 16時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解する。保育現場の保育を体験的かつ実践的に学ぶことができるように、必要な準備について、講義や資料請求を通して具体的に知り、実践する実際に保育の記録・指導計画を書いてみる。また、保育に必要な教材について調べ、活用方法を理解し実践してみる。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義・目的について理解し、自らの課題を明確にする。</li> <li>・観察や記録の仕方・内容について理解する。</li> <li>・実習の心構えや意欲的に学ぶ姿勢を身につける。</li> </ul>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>保育実習 I に臨むための基礎的な理解を図る。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の意義(実習目的・実習概要・留意事項)を理解する。(関係書類作成)</li> <li>2 保育所の機能と役割・事前訪問について。自己課題を明確にする。</li> <li>3 保育所保育の実際、保育の一日の流れを知り理解する。</li> <li>4 実習日誌の意義と記録方法、保育士の職務と子ども観察のポイントを学ぶ。</li> <li>5 教材と保育において教材を生かす方法を知る。</li> <li>6 保育の記録の書き方及び指導計画作成の考え方と立案手順について学ぶ。</li> <li>7 保育記録を書いてみる。</li> <li>8 部分指導案、一日指導案の作成。実習直前指導(心構えと準備の確認)。</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書</p> <p>福本俊『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席状況 授業態度</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>汐見稔幸監修『保育所保育指針ハンドブック』2017告示版 学研</p> <p>子櫃智子他著『幼稚園・保育所・認定子ども園パーフェクトガイド』わかば社</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">社会的養護</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">講義</p>	授業担当者 <p style="text-align: center;">上栗 明男</p>
授業の回数 <p style="text-align: center;">15回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護保育科 2年 後期</p>
【授業の目的・ねらい】 児童養護における家庭養育と社会的養護の関係および役割を理解しながら、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について理解する。殊に児童福祉施設が持つ「集団生活の利点」についての積極的意義についても、実践例を紹介しながら学ぶ。		
【授業全体の内容の概要】 テキストを中心に授業を進めるが、入所児童の作文集を紹介したり、映画を視聴する。		
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。		
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』)</li> <li>2 児童養護と施設養護</li> <li>3 社会的養護の変遷</li> <li>4 映画「石井のおとうさんありがとう」(前編)</li> <li>5 映画「石井のおとうさんありがとう」(後編)</li> <li>6 現代の社会的環境と児童の問題</li> <li>7 児童養護の原理</li> <li>8 施設集団のもつ利点</li> <li>9 援助技術の実践的スキル</li> <li>10 日常生活の援助「衣食住」</li> <li>11 インケアとアフターケア</li> <li>12 児童相談所及び関係機関との連携</li> <li>13 保育者としての資質</li> <li>14 望ましい保育者像</li> <li>15 まとめとレポート作成</li> </ol>		
【使用テキスト】 小野澤昇他 子どもの生活を支える社会的養護 <p style="text-align: center;">ミネルヴァ書房</p>	【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 科目終了試験ポイント①～⑤を試験として実施し、その結果を基準とするが、授業中の質疑応答の内容も加味する。	
【参考文献】 山縣文治他 よくわかる社会福祉 ミネルヴァ書房 新社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度 中央法規出版 片山義弘 相談援助 北大路書房		

# 平成31年度 授業概要

科目名 社会的養護内容		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 後期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 各事例から養護問題の実際を正しく認識し、施設入所児童の入所に至った経緯を体験的に理解して、より実践的なケアワーカーとしての感覚を養う。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 要養護児童・被虐待児童・情緒的問題を抱える児童について、事例研究や事例問題を通してその社会的背景や家庭的背景をさぐり、そして子ども役と援助者役を演ずる模擬面接により子どもが抱える問題とその対応方法について学ぶ。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接技法とコミュニケーション技法</li> <li>2 模擬面接 事例1「家出・非行をもった女兒のケース」</li> <li>3 " 事例2「不登校・非行をもった男児のケース」</li> <li>4 " 事例3「家庭内暴力・非行をもった女兒のケース」</li> <li>5 " 事例4「性的虐待を受けた女兒のケース」</li> <li>6 虐待が与える子どもへの影響</li> <li>7 タイムアウト法(ビデオ視聴)</li> <li>8 セラピューティックホールド法(ビデオ視聴)</li> <li>9 ビデオ視聴による記録の取り方</li> <li>10 子ども虐待のサインとチェックポイント</li> <li>11 作詩療法 事例5「被虐待児童の詩」</li> <li>12 児童自立支援計画表作成 事例6「児童自立支援施設における援助」</li> <li>13 事例研究 事例7「息子を好きになれない母親」</li> <li>14 児童福祉施設接遇マニュアル</li> <li>15 まとめとレポート作成</li> </ol>			
<p>〔使用テキスト〕 小田兼三他 養護内容の理論と実際 ミネルヴァ書房</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) レポートを基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー・質問に対する応答等10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕 「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会 こどもが語る施設の暮らし 明石書店 長谷川真人 児童養護施設の子どもたちはいま—過去・現在・未来を語る— 三学出版</p>			

## 平成31年度 授業概要

科目名 こどもの食と栄養		授業の種類 (講義・演習(実習))	授業担当者 奥田 和子
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい] 小児期における食物の内容が、小児の発育の健康を左右する要因であることを学ぶ。 また保育指導者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深める。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要] 1、小児の心身の健やかな成長に対する、栄養の重要性と、学問的基礎について理解する。 2、食生活全般の知識と調理技術も理解する。 3、小児の成長は著しく発育、発達をとげる、乳児期の栄養「母乳」が「こころ」と「からだ」のバランスのとれた最も優れた栄養であることを理解する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保育指導者として必要な、小児の栄養を中心とした実践力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 こどもの食と栄養概論</li> <li>2 小児の健康な生活と食生活の意義</li> <li>3 小児の発育、発達と栄養、食生活</li> <li>4 五大栄養素と食生活の基礎知識</li> <li>5 ビタミンと無機質の働き</li> <li>6 妊娠、授乳期の栄養と食生活</li> <li>7 乳児期の栄養と食生活</li> <li>8 離乳の意義と進め方、注意事項</li> <li>9 幼児期の栄養と食生活</li> <li>10 学童期、思春期の栄養と食生活</li> <li>11 小児の病気と食生活と食育について</li> <li>12 障害がある小児の食生活</li> <li>13 児童福祉施設における食生活</li> <li>14 離乳食実習</li> <li>15 試験・こどもの食と栄養まとめ</li> </ol>			
<p>[使用テキスト] 保育士養成講座 第8巻 こどもの食と栄養</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況、レポート、ノート提出、期末試験により総合評価します。</p>	
<p>[参考文献] 「新小児栄養実習書」 医歯薬出版 「小児栄養」 近畿大学豊岡短大 「食品成分表」 教育図書</p>			

# 令和1年度 授業概要

科目名 障害児保育		授業の種類 (講義)	授業担当者 鏡原 崇史
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>近年、個のニーズに合わせた保育への関心が高まってきている。本科目では、人間発達の理論と保育実践の方法論をふまえた講義を行う。まず講義前半では、発達理論及びさまざまな障害の特性、また、障害・保育に関わる法律・制度を学ぶ。そして、後半では、障害の特性や個のニーズに合わせた保育・支援方法を学ぶ。また、授業の中では、単に講義を聞くだけでなく、事例を使った課題やグループ・ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れ、汎用性の高い実践力を養うことをねらいとする。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①障害に関わる法律・制度 障害や保育に深く関わる法律・制度、またそれらの変遷について理解を深める。</p> <p>②障害の種類と特性 さまざまな障害に関する基本的な特性や生じる可能性のある2次障害について理解を深める。</p> <p>③障害特性と個のニーズに合わせた保育・支援 学んだ発達理論や障害の特性をふまえ、個のニーズに合わせた保育実践について理解を深める。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>1.障害やそれにかかわる法律・制度の基本的な理解ができるようになる。 2.障害特性や個のニーズに合わせた保育・支援計画が作れるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 障害の理解 テーマ: 障害とは、障害の種類、ICFの理念、障害のある子どもの保育を保障する法律等</p> <p>2 障害のある子どもの生活を支える福祉や医療の制度 テーマ: 福祉の制度と医療の制度</p> <p>3 障害のある子どもの発達 テーマ: 発達の偏り、言語・運動・情緒・社会性の発達、将来を見通した関わり教育における家庭への子育て支援 テーマ: ライフステージ、障害受容、療育の意義、障害児療育のねらい、早期療育の意義と内容、障害児と家族と地域支援</p> <p>4 教育の種類と支援・専門家との連携 テーマ: インクルーシブ保育、分離保育、交流保育/並行通園、居宅訪問型保育</p> <p>5 地域における専門家との連携 テーマ: 児童発達支援センター、保育所・幼稚園、今後の専門機関との連携</p> <p>6 就学への移行と特別支援教育 テーマ: 就学までの支援、特別支援教育</p> <p>7 よりよい療育実践のために テーマ: 療育実践の留意点、障害を理解する諸側面、療育プログラムの構築</p> <p>8 肢体不自由児への支援 テーマ: 肢体不自由の種類と原因、健康特性と支援の配慮点、日常生活における援助と配慮点</p> <p>9 知的障害児への支援 テーマ: 知的障害の特性、知的障害児の認知、記憶</p> <p>10 自閉症を伴う子どもへの支援 テーマ: 自閉症とその周辺の障害、ASDに合併しやすい他の障害、ASDに気付くきっかけ、ASDと保護者、ASDを伴う幼児とのコミュニケーション</p> <p>「気になる子ども」への支援 テーマ: 落ち着きがない子ども、虐待を受けている疑いのある子ども</p> <p>「問題」行動の分析 テーマ: 応用行動分析を用いた「個のニーズ」に応じた支援</p> <p>教材・教具と発達支援 テーマ: 「教材・教具」とは、療育における実践、個別学習における基本的留意点、教材・教具の手に入れ方、作り方</p> <p>運動遊びと発達支援 テーマ: 運動の重要性、運動機能の発達、ムーブメント教育・療法、実践例</p> <p>まとめ テーマ: 振り返り</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>小林保子・立松英子『保育者のための障害児療育一理論と実践をつなぐー』改訂2版、学術出版会。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>○レポート 総合点の50%</p> <p>・事例問題についてA4用紙2~3枚程度</p> <p>○授業中の態度、積極性 総合点の30%</p> <p>○修了試験 総合点の20%</p> <p>・キーワード理解確認テスト</p> <p>総合点 100点</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>七木田敦「キーワードで学ぶ障害児保育入門」保育出版社。</p> <p>七木田敦・松井剛太「つながる・つなげる障害児保育ーかわりあうクラスづくりのためにー」保育出版社。</p> <p>七木田敦「特別支援教育のプロが通常学級の気になる子の「困った」を解決します！」学研教育出版。</p> <p>P.A.アルバート・A.C.トルートマン著、佐久間徹・谷晋二・大野裕史訳「はじめての応用行動分析」二瓶社。</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育士・教師論		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 富田 雅子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]                      人格形成において重要な時期とされる乳幼児期の保育を携わる専門家としての自覚と責任を持つ。                      保育・養育・教育に対する社会的要請を認識し、子育て文化を担う人材を育成することをねらいとする。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]                      保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。また、乳幼児保育の基礎知識・技能・保護者支援の方法など、具体的な保育方法の学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つ人材を育成する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]                       日本の保育制度を理解する。保育者としての専門的な知識を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]                      コマ数                      1 オリエンテーション                      2 現代社会の保育の現状                      3 保育観・子ども観の重要性①(日本)                      4 保育観・子ども観の重要性②(西欧)                      5 保育観・子ども観の重要性③(世界の動向)                      6 保育者と制度について①学校教育法、児童福祉法                      7 保育者と制度について②保育士資格取得の要件、幼稚園教諭免許の取得要件 など                      8 保育者の専門性①(幼稚園教諭)                      9 保育者の専門性②(保育士)                      10 保育者に求められる役割と専門性①                      11 保育者に求められる役割と専門性②                      12 期待される保育者・成長する保育者                      13 これからの保育者に求められる資質                      14 保育者の職務と倫理(全国保育士会倫理要領の内容についての理解)                      15 まとめと科目終了試験対策</p>			
<p>[使用テキスト]                       民秋言編『保育者論』建帛社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]                      (試験やレポートの評価基準など)                       ○授業中の態度、積極性 総合点の30%                       ○提出物の状況 総合点の10%                       ○スクーリング終了試験 総合点の60%</p>	
<p>[参考文献]                      『幼稚園教育要領解説』 文部科学省                      『保育所保育指針解説』 厚生労働省</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 こどもの保健Ⅱ		授業の種類 (講義)(演習)(実習)	授業担当者 吉田 八千代
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ知識が実践できる(判断し速やかに)能力を習得する</li> <li>・健康管理全般について観察、指導できる実践力を学ぶ</li> </ul>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小児各期の発達、発育に応じた生理機能の測定と身体計測及び評価についてその意義を理解する</li> <li>② 身体の清潔と全身観察の方法について理解する</li> <li>③ 小児のかかりやすい病気とその症状の看護について理解する</li> <li>④ 救急処置と心肺蘇生法について理解する</li> <li>⑤ 事故防止と安全教育について理解させる</li> </ol>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>小児保健で学んだ知識を基礎として、保育の場において保育者として実践できる応用力と指導力を養う知識と技術を学ぶ</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児保健Ⅱで学んだ実習の必要性和計画の意義</li> <li>2 健康状態の観察と生理機能のポイントと意義</li> <li>3 身体発育の測定方法と評価(体重・身長・胸囲・頭囲)</li> <li>4 精神運動機能の発達、発育順序と評価について</li> <li>5 子どもの保健と環境の重要性和保育所の設備について</li> <li>6 子どもの生活習慣(睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔)と援助方法について</li> <li>7 子どもの養護(乳児の抱き方、背負い方、寝せ方、オムツ交換)について</li> <li>8 子どもの養護 身体(全身、口腔、手指)の清潔の方法 日光浴と外気浴</li> <li>9 疾病と適切な対応(体調不良、感染症)</li> <li>10 保育における看護と応急処置(看護方法、消毒、薬の与え方)</li> <li>11 救急処置と心肺蘇生法(成人、小児、乳児)</li> <li>12 救急処置の方法(運搬方法、包帯の目的)を学習する</li> <li>13 起こりやすい事故と応急処置</li> <li>14 安全教育について事例を使って子どもにわかりやすく学習</li> <li>15 総合して、現場における保育者としての考えを作成</li> </ol>			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験(素点)にて評価	
[参考文献]			

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅱ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 12日間	<b>時間数(単位数)</b> 90時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 前期		<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設、原爆養護ホーム、障害者支援施設での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者や障害者に関わる</li> <li>2. 施設の役割を理解し、業務の流れを学ぶ</li> <li>3. 利用者の日々の変化、日内変化を知る</li> <li>4. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>5. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設・事業等を体験し、施設などの機能や基本的なケアを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特徴や支援体制を把握する。</li> <li>・利用者の疾病や障害を学習する。</li> <li>・介護職の業務の流れを理解する。</li> <li>・マナーや職務規定を理解して守る。</li> </ul> </li> <li>2. 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の程度や思いに応じた介護技術を丁寧に判断、実施し、毎日の技術を自己評価する。</li> <li>・基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。</li> </ul> </li> <li>3. 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活やそのリズムを知る。</li> <li>・利用者と積極的にコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションが心身の活性化に及ぼす影響について考察する。</li> </ul> </li> <li>4. 多様な介護サービスの中で多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や申し送り等の場面で健康や生活に関する問題について知る。</li> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> </ol>				
<p><b>【使用テキスト】</b>                  「実習のしおり」広島福祉専門学校                  「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                  「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                  「介護福祉のための記録15講」(中央法規)                  「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>		

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅲ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸
<b>授業の回数</b> 18日間	<b>時間数(単位数)</b> 135時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 後期	<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                      介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                      特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設、障害者支援施設での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>2. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> <li>3. 利用者理解をはじめ、関わり方を学び、利用者・家族とのコミュニケーション実践</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。                          ・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> <li>2. 人間関係を形成しながら慣れ親しんだ地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設などの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。またその生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を理解する。                          ・利用者や家族の生活状況を把握して理解し、介護福祉士の関わり方について学ぶ。                          ・介護保険制度における訪問介護の位置づけと機能を学ぶ。</li> <li>3. 介護過程に関する既習の知識・技術を基に、担当する利用者の情報収集・アセスメントをして、生活上の課題を抽出し、介護計画立案ができる。                          ・介護計画の仕組みを理解し、受け持ち利用者の生活ニーズに基づき介護計画を作成する。                          ・カンファレンスに参加して介護計画の作成過程を理解する。</li> </ol>			
<p><b>【使用テキスト】</b>                      「実習のしおり」広島福祉専門学校                      「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                      「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                      「介護福祉のための記録15講」(中央法規)                      「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                      学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 野村 裕之 山崎 年幸	
授業の回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (60コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前・後期 介護保育科2年 前・後期 介護保育科3年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を学習する。</li> <li>2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を学習する。</li> <li>3. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を学習する。</li> <li>4. 終末期に関連するアセスメントと介護技術を学習する。</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を習得する。</li> <li>2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を習得する。</li> <li>3. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を習得する。</li> <li>4. 終末期に関連するアセスメントと介護技術を習得する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●自立に向けた身じたくの介護	1	身じたくの意義と目的	生活における身じたくの意義と目的	講	
	2	身じたくに関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	
	3	外皮系の解剖・生理学	外皮系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講	
	4	整容①	洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等	講 演	
	5	整容②	洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等	講 演	
	6	口腔、歯の解剖・生理学	口腔、歯の解剖生理学と年齢・環境による変化	講	
	7	口腔ケア	口腔ケア	講 演	
	8	衣服着脱①	装いの意義、楽しみ、衣服着脱	講 演	
	9	衣服着脱②	装いの意義、楽しみ、衣服着脱	講 演	
	10	褥瘡予防	褥瘡のリスクファクター、褥瘡発生リスクの評価(ブレーデンスケール)	講 演	
	11	褥瘡予防方法	褥瘡予防方法	講 演	
	12	褥瘡ケア	褥瘡ケア	講	
	13	温罨法	温罨法の意義と方法	講 演	

●自立に向けた移動の介護

1 4	冷罨法	冷罨法の意義と方法	講演
1 5	身じたくについての多職種共働	介護福祉士の役割と多職種共働	講
1 6	移動の意義と目的	生活における移動の意義と目的	講
1 7	移動に関する利用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
1 8	骨格系の解剖・生理学	骨格系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
1 9	筋肉系の解剖・生理学	筋肉系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
2 0	関節の構造と関節可動域	関節の構造と関節可動域 (ROM)	講
2 1	関節可動域訓練	自動・他動関節可動域訓練	講演
2 2	移動に支援を要する病態①	頻度の高い骨折と骨粗鬆症 脳出血、脳梗塞	講
2 3	移動に支援を要する病態②	パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、脳性麻痺、重症心身障害、視覚障害	講
2 4	ボディメカニクス	ボディメカニクス	講演
2 5	各種体位	各種体位	講演
2 6	モビリティの支援	ベッドあるいは寝具上でのモビリティの支援	講演
2 7	移乗の支援①	立位移乗①	講演
2 8	移乗の支援②	立位移乗②	講演
2 9	移乗の支援③	座位移乗①	講演
3 0	移乗の支援④	座位移乗②	講演
3 1	移乗の支援⑤	リフティング①	講演
3 2	移乗の支援⑥	リフティング②	講演
3 3	移乗のための介護機器	移乗のための介護機器	講演
3 4	車いす→床、床→車いすへの移乗	車いす→床、床→車いすへの移乗	講演
3 5	歩行の支援②	歩行補助具①	講演
3 6	歩行の支援③	歩行補助具②	講演
3 7	歩行の支援④	平行棒訓練	講演
3 8	歩行の支援⑤	基本歩行パターン	講演
3 9	自立活動①	立位・座位の自立	講演
4 0	自立活動②	歩行の自立	講演
4 1	安全と事故防止に配慮した移動	安全と事故防止に配慮した移動	講演

	4 2	車いす①	車いすの種類、構造と選び方	講演
	4 3	車いす②	車いす不適合によるリスク、車いすのメンテナンス	講演
	4 4	車いすでの移動・移乗①	介助による車いすでの移動・移乗	講演
	4 5	車いすでの移動・移乗②	自力による車いすでの移動・移乗	講演
●自立に向けた睡眠の介護	4 6	睡眠の意義	生活における睡眠の意義	講
	4 7	睡眠に関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講
	4 8	睡眠の種類、パターン	睡眠の種類、パターン、不眠の原因	講
	4 9	不眠の原因	不眠の原因	講
	5 0	睡眠の支援	安眠のための介護	講
●終末期の介護	5 1	終末期とは	人生の意義と人生の終末	講
	5 2	終末期における利用者	ICFの視点に基づくアセスメント	講
	5 4	疾患と終末期①	呼吸器疾患、心・循環器疾患と終末期	講
	5 5	疾患と終末期③	腎・泌尿器疾患、肝疾患と終末期	講
	5 6	終末期における身体的症状と対応	呼吸・循環抑制、食欲不振、疲労、衰弱	講
	5 7	終末期における精神的症状と対応	悲哀、抑鬱、不安、恐怖、混乱	講
	5 8	終末期における栄養・水分補給	終末期における栄養・水分補給	講
	5 9	死の受容	死の受容の過程	講
	6 0	死後の処置と家族への配慮	死後の処置と家族への配慮	講
	<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 生活支援技術Ⅱ」 (メヂカルフレンド社) 「最新介護福祉全書 障害別生活支援技術」 (メヂカルフレンド社)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり
<b>【参考文献】</b> 「介護技術指導マニュアル」(中央法規) 「生活援助のための介護手引き」(中央法規)				

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 医療的ケア		<b>授業の種類</b> 講義・演習		<b>授業担当者</b> 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 後期 介護保育科3年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 医療的ケア実施の基礎 2. 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 3. 経管栄養(基礎的知識・実施手順) 4. 演習					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●医療的ケア実施の基礎	1	尊厳と倫理	個人の尊厳、医療倫理、利用者家族の気持ちの理解	講	
	2	保健医療制度とチーム医療	保健医療と介護保険に関する制度 医療行為とは	講	
	3		チーム医療とその実際 喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職の連携	講	
	4	安全な療養生活	安全に喀痰吸引、経管栄養を提供する重要性	演	
	5		リスクマネジメントとヒヤリハット報告	講	
	6	清潔保持と感染予防	感染予防、消毒法、滅菌	講	
	7	健康状態の把握	平常状態、バイタルサイン、急変状態、急変時の対応と事前準備	演	
●医療的ケア実施	8	喀痰吸引	呼吸の仕組みとはたらき	講	
	9		いつもと違う呼吸状態 呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害	講	
	10		喀痰吸引とは	講	
	11		人工呼吸器と吸引	講	
	12		子どもの吸引について	講	
	13		吸引を受ける利用者や家族の気持ちと、その対応・説明と同意	講	
	14		呼吸器系の感染と予防(吸引に関して)	講	

15		喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	講
16		急変・自己発生時の対応と事前対策	講
17		喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）演習	演
18		喀痰吸引（気管カニューレ内部）演習	演
19	経管栄養	消化器系器官の仕組みと役割・機能	講
20		消化・吸収とよくある消化器の症状	講
21		経管栄養とは	講
22		注入する内容に関する知識	講
23		子どもの経管栄養について	講
24		経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと、その対応・説明と同意	講
25		経管栄養に関する感染と予防	講
26		経管栄養により生じる危険、事後の安全確認	演
27		経管栄養（胃ろう・腸ろう）演習	演
28		経管栄養（経鼻）演習	演
29	救急蘇生法	救急蘇生法について理解し、説明できるようになる	講
30		救急蘇生法 演習	演
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
介護福祉士養成テキスト4 医療的ケア 日本介護福祉士養成施設協会編 法律文化社		学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術Ⅲ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 山崎 年幸 上原 尚子 澤田 祥子 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 60回	<b>時間数(単位数)</b> 120時間 (60コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前期 介護保育科2年 前・後期 介護保育科3年 後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 食事に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 2. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 入浴・清潔保持に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 食事に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 2. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 入浴・清潔保持に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●自立に向けた食事の介護	1	食事の意義	生活における食事の意義	講	
	2	食事に関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	
	3	消化器系の解剖・生理学	消化器系の解剖、消化・吸収のしくみ	講	
	4	食事に支援を要する病態①	胃炎、胃・十二指腸潰瘍	講	
	5	食事に支援を要する病態②	胆石症、肝硬変	講	
	6	食事に支援を要する病態③	糖尿病	講	
	7	食事に支援を要する病態④	消化器系手術後	講	
	8	食事に支援を要する病態⑤	脳血管障害	講	
	9	食事に支援を要する症状	食欲不振、嚥下困難、便秘、悪心、嘔吐	講	
	10	栄養ケア①	栄養素、栄養バランス、カロリー計算①	講	
	11	栄養ケア②	栄養素、栄養バランス、カロリー計算②	演	
	12	栄養ケア③	経管栄養のしくみ・種類と治療食の種類	講	
	13	栄養ケア④	輸液	講	
	14	食事の準備と提供	環境整備と食事提供手順	講	

	1 5	食事の支援①	食事の介助（一部介助の場合）①	講演
	1 6	食事の支援②	食事の介助（一部介助の場合）②	講演
	1 7	食事の支援③	食事の介助（全介助の場合）①	講演
	1 8	食事の支援④	食事の介助（全介助の場合）②	講演
	1 9	食事の支援⑤	食事の介助 （麻痺や視覚障害がある場合）	講演
	2 0	食事の自立と補助具	食事の自立と補助具	講演
●自立に向けた排泄の 介護	2 1	排泄の意義	生活における排泄の意義	講
	2 2	排泄に関する利用者のア セスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
	2 3	排泄方法の選択	アセスメントに基づく排泄方法の 選択	講
	2 4	泌尿器系の解剖・生理学	泌尿器系の解剖・生理学	講
	2 5	水・電解質バランス①	水分バランス・脱水	講
	2 6	水・電解質バランス②	浸透圧、電解質バランス	講
	2 7	便秘と便失禁①	便秘の原因と対応	講
	2 8	便秘と便失禁②	便失禁の原因と対応	講
	2 9	尿失禁①	尿失禁の分類と対応①	講
	3 0	尿失禁②	尿失禁の分類と対応②	講
	3 1	正常な排泄を維持する ための支援	生活課題解決のための多職種連携の 必要性	講
	3 2	排泄支援①	トイレの介護手順①	講演
	3 3	排泄支援②	トイレの介護手順②	講演
	3 4	排泄支援③	ポータブルトイレの介護手順①	講演
	3 5	排泄支援④	ポータブルトイレの介護手順②	講演
	3 6	排泄支援⑤	尿器・便器の介護手順	講演
	3 7	排泄支援⑥	おむつの種類、構造	講演
	3 8	排泄支援⑦	おむつの介護手順①	講演
	3 9	排泄支援⑧	おむつの介護手順②	講演
		4 0	尿留置カテーテルとスマ	尿留置カテーテルの 管理とストマの構造・管理
●自立に向けた入浴・ 清潔保持の介護	4 1	入浴・清潔保持の意義と目 的排泄	生活における入浴・清潔保持の意義と 目的	講
	4 2	入浴・清潔保持に関する利 用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメントと 入浴・清潔保持方法の選択	講
	4 3	不潔になりやすい箇所と 疾病との関係	不潔になりやすい箇所と疾病との関 係	講
	4 4	入浴中の生理的変化	入浴中の生理的変化	講

4 5	入浴前の健康チェック	入浴前の健康チェック①	講演
4 6	入浴前の健康チェック	入浴前の健康チェック②	講演
4 7	入浴・清潔保持手段の種類①	入浴（器械浴と一般浴）、シャワー浴、全身清拭	講演
4 8	入浴・清潔保持手段の種類②	陰部洗浄、足浴・手浴、洗髪	講演
4 9	入浴・清潔保持支援時の観察と記録	入浴・清潔保持支援時に観察・記録すべき事項	講
5 0	入浴・清潔保持の支援①	器械浴の手順①	講演
5 1	入浴・清潔保持の支援②	器械浴の手順②	講演
5 2	入浴・清潔保持の支援	一般浴の手順①	講演
5 3	入浴・清潔保持の支援④	一般浴の手順②	講演
5 4	入浴・清潔保持の支援⑤	シャワー浴の手順	講演
5 5	入浴・清潔保持の支援⑥	全身清拭の手順	講演
5 6	入浴・清潔保持の支援⑦	陰部洗浄の手順	講演
5 7	入浴・清潔保持の支援⑧	足浴・手浴の手順	講演
5 8	入浴・清潔保持の支援⑨	洗髪の手順	講演
5 9	入浴に関連して起こりやすい事故と対応①	入浴中の体調悪化に対する対応	講演
6 0	入浴に関連して起こりやすい事故と対応②	入浴に関連して起こりやすい事故と対応	講演
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 障害別生活支援技術」 （メヂカルフレンド社）  <b>【参考文献】</b> 「介護技術指導マニュアル」（中央法規） 「生活援助のための介護手引き」（中央法規）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護過程 I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアプラン、介護過程とは何かについて学習する。</li> <li>2. 介護過程と看護過程の類似と相違について学習する。</li> <li>3. ICFの視点について学習する。</li> <li>4. 介護過程を展開する上での介護福祉の法と職業倫理について学習する。</li> <li>5. 利用者の人権と人格の尊重について学習する。</li> <li>6. 各アセスメントツールの特徴について学習する。</li> <li>7. 各利用者の生活について学習する。</li> <li>8. 社会資源について学習する。</li> </ol>					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアプラン、介護過程とは何かについて理解する。</li> <li>2. 介護過程と看護過程の類似と相違について理解する。</li> <li>3. ICFの視点について理解する。</li> <li>4. 介護過程を展開する上での介護福祉の法と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 利用者の人権と人格の尊重について理解する。</li> <li>6. 各アセスメントツールの特徴について理解する。</li> <li>7. 各利用者の生活について理解する。</li> <li>8. 社会資源について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程の意義	1	「介護過程」の展開を学ぶ前に	生活の過程を展開するとはどのようなことか、その理由を考える	講	
	2	「介護過程」の意義	「とりあえず何でもかんでも手伝うこと」はケアなのか？ 支援者が導くケアは利用者の能力に沿ったものであるはず	講	
	3	「介護過程」の意義	生活上における目標と目的の意義を理解する	講	
●介護過程の展開	4	アセスメントとケアプラン	ケアプラン、アセスメントの意義の理解、「介護過程の展開」という思考過程の理解	講	
	5	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方①	事実の客観的な把握と正確に記録する(他者への伝達)ことの意義を理解する	講	
	6	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方②	同上	講	
	7	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方③	同上	講	
	8	アセスメントに必要な	医学モデルとICFの視点で事実を	講	

	「事実」のとらえ方④	えることの違いを理解する	
9	介護過程の中の「事実」のとらえ方①	実際に展開されている支援の根底にある介護過程の理解	講
10	介護過程の中の「事実」のとらえ方②	実際に展開されている支援の根底にある介護過程の理解	講
11	とらえた「事実」を解釈するために①	援助技術としてのコミュニケーション①	講
12	とらえた「事実」を解釈するために②	援助技術としてのコミュニケーション②	講
13	とらえた「事実」を解釈するために③	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解①	講
14	とらえた「事実」を解釈するために④	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解②	講
15	とらえた「事実」を解釈するために⑤	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解③	講
16	とらえた「事実」を解釈するために⑥	高齢者の現状の理解、高齢者像の拡大	講
17	解釈した「事実」を計画に活かす①	利用者の「現在」を切り取る	講
18	解釈した「事実」を計画に活かす②	事例を元に把握した情報を適切に解釈し、本人の希望に沿う計画を立て	講
19	解釈した「事実」を計画に活かす③	本人の希望をさらに拡大するために①	講
20	解釈した「事実」を計画に活かす④	本人の希望をさらに拡大するために②	講
21	解釈した「事実」を計画に活かす⑤	使える制度と社会資源の理解①	講
22	解釈した「事実」を計画に活かす⑥	使える制度と社会資源の理解②	講
23	解釈した「事実」を計画に活かす⑦	使える制度と社会資源の理解③	講
24	解釈した「事実」を計画に活かす⑧	家族、介護者を支える制度と社会資源の理解	講
25	事実のとらえ方（復習）	事実の客観的な把握と正確に記録する（他者への伝達）ことの再確認	講
26	事実のとらえ方（復習）	同上	講
27	事実のとらえ方（復習）	同上	講
28	事実のとらえ方（復習）	「生活支援技術」で学んだ技術を介護過程の展開に利用する	講
29	介護過程の実践的展開①	介護実習Ⅱで行う介護過程の展開の実施について確認する	PBL
30	介護過程の実践的展開②	同上	PBL
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」（メヂカルフレンド社） <b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」（日総研）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 山崎 年幸 崎井 真弓	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科2年 後期 介護保育科3年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 介護現場で頻度の高いケースのケーススタディを問題基盤型チュートリアル(PBL)の形式で行う。学生が実際に問題点を抽出しながら、ケアプランを作成・発表し、発表内容をチューターを交えてグループディスカッションを行うことにより、介護過程展開の実践力を養う。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害ケースの介護過程について理解する。</li> <li>2. 認知症ケースの介護過程について理解する。</li> <li>3. 神経変性疾患ケースの介護過程について理解する。</li> <li>4. 脊髄損傷ケースの介護過程について理解する。</li> <li>5. 脳性麻痺ケースの介護過程について理解する。</li> <li>6. 関節リウマチケースの介護過程について理解する。</li> <li>7. がんのケースの介護過程について理解する。</li> <li>8. 心疾患のケースの介護過程について理解する。</li> <li>9. 呼吸器疾患のケースの介護過程について理解する。</li> <li>10. ストマや経管栄養のケースの介護過程について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程の実践的展開	1	脳血管障害ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	2	脳血管障害ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	3	脳血管障害ケース②	学生によるケース理解、アセスメントとケアプラン作成	PBL	
	4	脳血管障害ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	5	脳血管障害ケース③	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	6	脳血管障害ケース③	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	7	脳血管障害ケース④	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	8	脳血管障害ケース④	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	9	認知症ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	10	認知症ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	11	認知症ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	

1 2	認知症ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 3	認知症ケース③	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 4	認知症ケース③	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 5	神経変性疾患ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 6	神経変性疾患ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 7	神経変性疾患ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 8	神経変性疾患ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 9	脊髄損傷ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 0	脊髄損傷ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 1	脊髄損傷ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 2	脊髄損傷ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 3	脳性麻痺ケース	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 4	脳性麻痺ケース	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 5	関節リウマチケース	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 6	関節リウマチケース	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 7	がんのケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
2 8	心疾患のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
2 9	呼吸器疾患のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
3 0	ストマや経管栄養のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」 (メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」(日総研)			

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護総合演習 I	<b>授業の種類</b> 講義	<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間 (30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前・後期	<b>必修・選択</b> 必修

## 【授業の目的・ねらい】

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習語の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。

## 【授業全体の内容の概要】

1. 実習の意味と意義について学習する。
2. 介護福祉士の職業倫理を学習する。
3. 実習施設の種別、内容、特徴等について学習する。
4. 対人援助技術、コミュニケーション技術の基本について学習する。
5. 介護記録、実習記録の書き方について学習する。
6. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。
7. 実習後、事例について介護過程を展開する。

## 【授業終了時の達成課題(到達目標)】

1. 実習の意味と意義について理解する。
2. 介護福祉士の職業倫理を確認する。
3. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。
4. 対人援助技術、コミュニケーション技術の基本について理解する。
5. 介護記録、実習記録の書き方について理解する。
6. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。
7. 実習後、事例について介護過程を展開できる。

## 【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●実習オリエンテーション	1	実習とは何か	実習の意義と目的	講
	2	介護福祉士の職業倫理	求められる介護福祉士像及び関連法	講
	3	介護活動の場と介護の特性	多様なニーズと介護サービス	講
	4	施設理解①訪問介護	訪問介護事業と利用者の生活像	講
	5	施設理解②通所介護	通所介護事業と利用者の生活像	講
	6	施設理解③小規模多機能型施設	小規模多機能型事業と利用者の生活像	講
	7	コミュニケーション・マナー・接遇	社会・組織の中で求められる人物像	講
	8	記録①	観察記録の方法	講
	9	記録②	プロセスレコードの説明と活用法	講
	10	記録③	実習関連の記録	講
	11	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演

	1 2	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演
	1 3	実習オリエンテーション①	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講
	1 4	実習オリエンテーション②	先輩の体験談・質疑応答	講
	1 5	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講 演
●実習報告・反省	1 6	実習報告会①	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	1 7	実習報告会②	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	1 8	実習報告会③	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	1 9	実習報告会④	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	2 0	実習報告会⑤	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	2 1	実習報告会⑥	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	2 2	実習事後指導①実習記録	実習記録の再検討	
	2 3	実習事後指導② プロセスレコード	プロセスレコードの再検討	
	2 4	実習事後指導③	困難事例の検討	
	2 5	実習事前指導①	障害の種類と自立支援	
	2 6	実習事前指導②	障害者施設と利用者の生活像	
	2 7	実習事前指導③ 個別介護計画	利用者の個性	
	2 8	介護過程の展開 情報収集	情報収集の目的と活用	
	2 9	記録①	収集した情報を活用する	
	3 0	記録②	実習関連の記録	
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護総合演習」 (メヂカルフレンド社) 「介護福祉用具事典」医学評論社  <b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護総合演習Ⅱ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 山崎 年幸 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 後期 介護保育科3年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。</li> <li>2. 実習施設の種別、内容、特徴等について学習する。</li> <li>3. ケアプラン、介護過程の展開について学習する。</li> <li>4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について学習する。</li> <li>5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>6. 実習後、事例について介護過程を展開する。</li> <li>7. 的確な記録について学習する。</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。</li> <li>2. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。</li> <li>3. ケアプラン、介護過程の展開について理解する。</li> <li>4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について理解する。</li> <li>5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>6. 実習後、事例について介護過程を展開できる。</li> <li>7. 的確な記録を行うことができる。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●実習オリエンテーション	1	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演	
	2	共感的・受容的に接する技術	ヴァイステックの7原則	講	
	3	他職種との連携	チームケア	講	
	4	緊急時の対応	緊急時の対応に求められること	講	
	5	実習施設の施設長を招いて	施設長として実習施設が実習生に求めるもの	講	
	6	実習施設の実習指導者を招いて	実習指導者として実習施設が実習生に求めるもの	講	
	7	実習オリエンテーション①	実習施設の種別、特徴の確認	講	
	8	実習オリエンテーション②	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講	
	9	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講 演	
●実習報告・反省	10	実習報告会①	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例	

	1 1	実習報告会②	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 2	実習報告会③	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 3	実習報告会④	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 4	実習報告会⑤	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 5	実習報告会⑥	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 6	実習事後指導①実習記録	実習記録の再検討	講演
	1 7	実習事後指導②プロセスレコード	プロセスレコードの再検討	講演
	1 8	実習事後指導③	困難事例の検討	講演
●実習オリエンテーション	1 9	施設と居宅のケアプラン、介護過程①	居宅のアセスメントツールとケアプラン	講演
	2 0	施設と居宅のケアプラン、介護過程②	施設のアセスメントツールとケアプラン	講演
	2 1	実習オリエンテーション①	実習施設の種別、特徴の確認	講
	2 2	実習オリエンテーション②	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講
	2 3	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講演
●実習報告・反省	2 4	実習報告会①	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 5	実習報告会②	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 6	実習報告会③	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 7	実習報告会④	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 8	実習報告会⑤	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 9	実習報告会⑥	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	3 0	実習事後指導	困難事例の検討	講演
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護総合演習」 (メヂカルフレンド社) 「介護福祉用具事典」医学評論社			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)				

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解	授業の種類 講義	授業担当者 河野 ひろ子		
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前・後期 介護保育科2年 前・後期	必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            小児・成人の発達と老化を心身両面から学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の成長と発達について理解する。</li> <li>2. 先天性疾患、小児期に多い疾患について理解する。</li> <li>3. 老化に伴うこころとからだの変化について理解する。</li> <li>4. 高齢者に多い疾患について理解する。</li> <li>5. 高齢者の保健・医療・福祉施策について理解する。</li> </ol>				
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●人間の成長と発達の基礎的理解	1	人間の成長と発達	総論	講
	2	子どもの成長と発達①	総論・形態的成長	講
	3	子どもの成長と発達②	機能的成長	講
	4	子どもの疾病①	新生児・乳児期の疾病	講
	5	子どもの疾病②	児童・生徒の病気	講
	6	発達心理学①	乳児期・幼児期・児童期	講
	7	発達心理学②	思春期から成人	講
	8	児童福祉制度	児童福祉施策	講
●老年期の発達と成熟 ●老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	9	老化とは何か	老化とは何か	講
	10	老化に伴うこころの変化	老化に伴うこころの変化	講
	11	老化に伴うからだの変化	老化に伴うからだの変化	講
●高齢者と健康	12	高齢者に多い疾病①	がん	講
	13	高齢者に多い疾病②	心臓病	講
	14	高齢者に多い疾病③	脳血管障害	講
	15	高齢者に多い疾病④	骨折、運動器疾患	講
	16	高齢者に多い疾病⑤	内分泌・代謝疾患	講
	17	高齢者に多い疾病⑥	老化に伴うその他の疾患	講
	18	高齢者の精神疾患①	高齢者の精神疾患	講

	19	高齢者の精神疾患②	高齢者の精神疾患	講
●高齢者の保健医療	20	高齢者の保健・医療・福祉施策①	高齢者の保健政策	講
	21	高齢者の保健・医療・福祉施策②	高齢者の医療政策	講
	22	高齢者の保健・医療・福祉施策③	高齢者の福祉政策	講
	23	ケーススタディ①	小児ケーススタディ①	PBL
	24	ケーススタディ②	小児ケーススタディ②	PBL
	25	ケーススタディ③	高齢者ケーススタディ①	PBL
	26	ケーススタディ④	高齢者ケーススタディ②	PBL
	27	事例発表①	小児例①	事例
	28	事例発表②	小児例②	事例
	29	事例発表③	高齢者例②	事例
	30	事例発表④	高齢者例③	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 発達と老化の理解」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「幼児期と社会」(E・H・エリクソン) 「看護のための最新医学講座第17巻老人の医療」 (中山書店)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) 障害の理解		授業の種類 講義		授業担当者 河野 ひろ子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 障害の概念と施策について理解した上で、心身の障害について、その原因疾患それぞれの概要と、それぞれのリハビリテーションについて学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICIDH、ICF について理解する。</li> <li>2. わが国の障害者施策について理解する。</li> <li>3. 視覚障害、聴覚・平衡覚障害、音声・言語・咀嚼機能障害について理解する。</li> <li>4. 肢体不自由について理解する。</li> <li>5. 内部障害について理解する。</li> <li>6. 脳血管障害とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>7. 神経疾患とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>8. 脳性麻痺とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>9. 精神障害とそのリハビリテーションについて理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●障害の基礎的理解	1	障害とは	ICIDH、ICF、障害者基本法、障害者統計	講	
	2	障害者福祉の歴史と基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション	講	
	3	障害の受容の過程	障害の受容の過程	講	
	4	リハビリテーションの基礎	障害の評価、理学療法、作業療法等	講	
●障害の医学的側面の基礎的知識	5	身体障害を理解する①	身体障害者認定基準	講	
	6	身体障害を理解する②	視覚のしくみと疾病・障害	講	
	7	身体障害を理解する③	聴覚・平衡覚のしくみと疾病・障害	講	
	8	身体障害を理解する④	音声・言語・咀嚼機能のしくみと疾病・障害	講	
	9	身体障害を理解する⑤	肢体不自由	講	
	10	身体障害を理解する⑥	内部障害①	講	
	11	身体障害を理解する⑦	内部障害②	講	
	12	知的障害を理解する	知的障害とは	講	
	13	発達障害を理解する	発達障害とは	講	
	14	疾病から障害を理解する①	脳血管障害①	講	
	15	疾病から障害を理解する②	脳血管障害②	講	

	16	疾病から障害を理解する③	脊髄損傷	講
	17	疾病から障害を理解する④	神経変性疾患・筋疾患	講
	18	疾病から障害を理解する⑤	関節リウマチその他	講
	19	疾病から障害を理解する⑥	先天性疾患	講
	20	疾病から障害を理解する⑧	脳性麻痺、重症心身障害児	講
	21	精神障害を理解する①	精神疾患①	講
	22	精神障害を理解する②	精神疾患②	講
	23	精神障害を理解する③	精神疾患③	講
	24	精神障害を理解する④	精神疾患④	講
	25	精神障害を理解する⑤	精神疾患の治療法・リハビリテーション	講
●連携と協働	26	障害者の福祉施策①	身体障害児・者の福祉施策、地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
	27	障害者の福祉施策②	知的障害者、精神障害者の福祉施策、地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
●家族への支援	28	家族への支援	家族への教育、介護力の評価、レスパイト	講
	29	ケーススタディ	ケーススタディ	PBL
	30	事例発表	事例発表	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「介護福祉学4 障害の理解」中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社  「からだのしくみ事典」成美堂			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解	授業の種類 講義	授業担当者 内平 八重子 上本 義博																																																												
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前期	必修・選択 必修																																																											
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 脳疾患である認知症を理解するために、まず神経解剖・生理学の基礎を教授する。次いで、認知症の症状を脳機能障害の観点から教授する。認知症患者への対応については、科学的根拠の有無を明確にした上で正しい対応を教授する。さらにケースマネジメント及び家族に対する制度的、心理的サポートを教授する。最後に、ケーススタディと学生自身が実習で経験した事例の発表で、知識・技術と実践を統合する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の疫学の習得</li> <li>2. 神経解剖学の習得</li> <li>3. 脳の機能の習得</li> <li>4. 脳疾患としての認知症の習得</li> <li>5. 認知症の症状の習得</li> <li>6. 認知症の原因疾患（アルツハイマー病、脳血管性認知症、レビー小体型認知症その他）の習得</li> <li>7. 認知症患者への対応の習得</li> <li>8. 認知症に対する社会的対策の習得</li> <li>9. 認知症ケースマネジメントと家族へのサポート方法の習得</li> </ol>																																																														
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">大テーマ</th> <th style="width: 5%;">コマ数</th> <th style="width: 30%;">小テーマ</th> <th style="width: 35%;">内 容</th> <th style="width: 10%;">授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●認知症を取り巻く状況</td> <td>1</td> <td>認知症を取り巻く状況</td> <td>認知症の疫学、介護保険上の認知症</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">●医学的側面から見た認知症の基礎</td> <td>2</td> <td>神経解剖・生理学①</td> <td>ニューロン、中枢神経系と末梢神経系</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>神経解剖・生理学②</td> <td>脳の解剖・生理学①</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>神経解剖・生理学③</td> <td>脳の解剖・生理学②</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>神経解剖・生理学④</td> <td>脳の解剖・生理学③</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>神経解剖・生理学⑤</td> <td>脳の解剖・生理学④</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>神経解剖・生理学⑥</td> <td>脳の解剖・生理学⑤</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>神経解剖・生理学⑦</td> <td>運動・知覚機能</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>神経解剖・生理学⑧</td> <td>高次脳機能①</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>神経解剖・生理学⑨</td> <td>高次脳機能②</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>神経解剖・生理学⑩</td> <td>末梢神経、自律神経</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>神経解剖・生理学⑪</td> <td>神経薬理学、神経伝達物質</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>精神と神経</td> <td>脳とこころ</td> <td>講</td> </tr> </tbody> </table>				大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	●認知症を取り巻く状況	1	認知症を取り巻く状況	認知症の疫学、介護保険上の認知症	講	●医学的側面から見た認知症の基礎	2	神経解剖・生理学①	ニューロン、中枢神経系と末梢神経系	講	3	神経解剖・生理学②	脳の解剖・生理学①	講	4	神経解剖・生理学③	脳の解剖・生理学②	講	5	神経解剖・生理学④	脳の解剖・生理学③	講	6	神経解剖・生理学⑤	脳の解剖・生理学④	講	7	神経解剖・生理学⑥	脳の解剖・生理学⑤	講	8	神経解剖・生理学⑦	運動・知覚機能	講	9	神経解剖・生理学⑧	高次脳機能①	講	10	神経解剖・生理学⑨	高次脳機能②	講	11	神経解剖・生理学⑩	末梢神経、自律神経	講	12	神経解剖・生理学⑪	神経薬理学、神経伝達物質	講	13	精神と神経	脳とこころ	講
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法																																																										
●認知症を取り巻く状況	1	認知症を取り巻く状況	認知症の疫学、介護保険上の認知症	講																																																										
●医学的側面から見た認知症の基礎	2	神経解剖・生理学①	ニューロン、中枢神経系と末梢神経系	講																																																										
	3	神経解剖・生理学②	脳の解剖・生理学①	講																																																										
	4	神経解剖・生理学③	脳の解剖・生理学②	講																																																										
	5	神経解剖・生理学④	脳の解剖・生理学③	講																																																										
	6	神経解剖・生理学⑤	脳の解剖・生理学④	講																																																										
	7	神経解剖・生理学⑥	脳の解剖・生理学⑤	講																																																										
	8	神経解剖・生理学⑦	運動・知覚機能	講																																																										
	9	神経解剖・生理学⑧	高次脳機能①	講																																																										
	10	神経解剖・生理学⑨	高次脳機能②	講																																																										
	11	神経解剖・生理学⑩	末梢神経、自律神経	講																																																										
	12	神経解剖・生理学⑪	神経薬理学、神経伝達物質	講																																																										
	13	精神と神経	脳とこころ	講																																																										

	1 4	認知症とは何か①	認知とは、認知障害、高次脳機能障害	講
	1 5	認知症とは何か②	I C I D H、DSMの定義	講
	1 6	認知症の原因疾患①	認知症はどのような病気で起こるか	講
	1 7	認知症の原因疾患②	治癒可能な認知症	講
●認知症に伴うことごとからだの変化と日常生活	1 8	認知症の症状①	記憶障害、失語、失行、失認、実行機能障害	講
	1 9	認知症の症状②	B P S D	講
	2 0	認知症の診断、評価	テスト法、行動評価法、リスク評価	講
	2 1	認知症の治療と予防	薬物、行動療法	講
	2 2	認知症の原因疾患①	アルツハイマー病、F A S T stage	講
	2 3	認知症の原因疾患②	脳血管性認知症	講
	2 4	認知症の原因疾患③	レビー小体型認知症その他の認知症	講
	2 5	認知症の鑑別診断	認知症と間違えられやすい病態	講
	2 6	認知症への対応	認知症への対応	講
●連携と協働	2 7	認知症の社会的対策	地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
●家族への支援	2 8	ケースマネジメントと家族への支援	介護力の評価、家族への教育、レスパイト	講
	2 9	ケーススタディ	ケーススタディ	PBL
	3 0	事例発表	事例発表	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 認知症の理解と介護」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「中枢神経系の理解」(医歯薬出版) 「痴呆症のすべて」(永井書店) 「脳研究の最前線上・下」(講談社)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 講義	授業担当者 崎井 真弓		
授業の回数 37回	時間数(単位数) 74時間(37コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前・後期 介護保育科2年 前期 介護保育科3年 前期	必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 人体の解剖・生理学を体系的に学習する。 ADLの介護に必要な解剖・生理学を学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の解剖・生理学が体系的に理解できる。</li> <li>2. 心身の異常について、医学的に考えることができる思考力を身につける。</li> <li>3. 解剖・生理学の理解を通じて、安全、快適な介護ができるようになる。</li> </ol>				
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●からだのしくみの理解	1	人間とは何か	宇宙、生命、進化	講
	2	人体の構造と機能①	人体の構造と機能総論	講
	3	人体の構造と機能②	細胞、組織、器官、器官系	講
●移動に関連したところとからだのしくみ	4	筋・骨格系①	筋・骨格系の解剖・生理学①	講
	5	筋・骨格系②	筋・骨格系の解剖・生理学②	講
	6	筋・骨格系③	筋・骨格系症状と疾患・障害①	講
	7	筋・骨格系④	筋・骨格系症状と疾患・障害②	講
	8	筋・骨格系⑤	体位、関節可動域 (ROM)	講
	9	筋・骨格系⑥	ボディメカニクス、補装具	講
●身じたくに関連したところとからだのしくみ ●入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	10	上皮系①	上皮系の解剖・生理学	講
	11	上皮系②	上皮系症状と疾患・障害	講
	12	上皮系③	褥瘡	講
	13	循環器系①	循環器系の解剖・生理学①	講
	14	循環器系②	循環器系の解剖・生理学②	講
	15	循環器系③	循環器系症状と疾患・障害	講
	16	呼吸器系①	呼吸器系の解剖・生理学	講
	17	呼吸器系②	呼吸器系症状と疾患・障害	講
	18	ヴァイタルサイン	ヴァイタルサインの測定と異常の解釈	講
●食事に関連したところ	19	消化器系①	消化器系の解剖・生理学	講

●排泄に関連したところ とからだのしくみ	2 0	消化器系②	歯科・口腔学	講
	2 1	消化器系③	栄養学、経管栄養	講
	2 2	消化器系④	消化器系症状と疾患・障害①	講
	2 3	消化器系⑤	消化器系症状と疾患・障害②	講
	2 4	消化器系⑥	口腔、排便等の観察と記録	講
	2 5	泌尿器系①	泌尿器系の解剖・生理学	講
	2 6	泌尿器系②	泌尿器系症状と疾患・障害①	講
	2 7	泌尿器系③	泌尿器系症状と疾患・障害②	講
●睡眠に関連したところ とからだのしくみ	2 8	泌尿器系④	体液バランス、水分摂取と排尿及びその計量と記録	講
	2 9	内分泌系①	内分泌系の解剖・生理学	講
	3 0	内分泌系②	内分泌系症状と疾患・障害	講
	3 1	内分泌系③	糖尿病の理解	講
	3 2	生殖器系①	生殖器系の解剖・生理学	講
	3 3	生殖器系②	生殖器系症状と疾患・障害	講
	3 4	生活習慣病とメタボリックシンドローム①	生活習慣病とメタボリックシンドロームの概念	講
	3 5	生活習慣病とメタボリックシンドローム②	生活習慣病に属する疾患	講
	3 6	悪性腫瘍	がんの疫学、病態、治療	講
	3 7	救急対応①	ショック、心肺停止、窒息、誤嚥等	講
●死にゆく人のところ とからだのしくみ	3 8	救急対応②	ファーストエイド、心肺蘇生	講
	3 9	救急対応③	脳卒中、心原性ショック、けいれん発作、熱傷、中毒等	講
	4 0	疾患と終末期	呼吸器疾患、心・循環器疾患、腎・泌尿器疾患、肝疾患と終末期	講
	4 1	終末期における身体的症状と対応	呼吸・循環抑制、食欲不振、疲労、衰弱	講
	4 2	ケーススタディ	ケーススタディ①	PBL
	4 3	ケーススタディ	ケーススタディ②	PBL
	4 4	事例発表	事例発表①	事例
	4 5	事例発表	事例発表②	事例

**【使用テキスト】**

「介護福祉学5 こころとからだのしくみ」  
中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社  
「からだのしくみ事典」 成美堂

**【単位認定の方法及び基準】**

学則に定めるとおり

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅳ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 崎井 真弓 山崎 年幸
<b>授業の回数</b> 24日間	<b>時間数(単位数)</b> 180時間(90コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科3年 後期	<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  専門職としての実践力を修得するための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設での実習                  利用者ごとの介護計画の作成、実施と評価、計画の修正を含めた一連の介護計画の実践。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の生活背景や生活リズムの理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の展開ができる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち利用者の生活ニーズに基づき介護計画を作成し、実施する。</li> <li>・利用者主体とした的確な実践により、その結果を見届け、再アセスメントや介護計画の妥当性および個別性の介護について考察する。</li> </ul> </li> <li>2. チームの一員として介護に関わり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録ができる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理や介護予防の場面、また身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の機能を知る。また一連の介護に対する評価と記録をする。</li> </ul> </li> <li>3. 介護福祉士としての自己の介護観が述べられる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業を意識した介護実習をする。</li> </ul> </li> </ol>			
<p><b>【使用テキスト】</b>                  「実習のしおり」広島福祉専門学校                  「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                  「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                  「介護福祉のための記録15講」(中央法規)                  「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  学則に定めるとおり、評価の基準に従い                  実習指導者と教員で評価</p>	

# 平成31年度 授業概要

科目名 専門演習 I		授業の種類 (講義)	授業担当者 富田 雅子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科3年 前期	
[授業の目的・ねらい] 現代社会における子育ての現状を理解し、子どもや保護者の子育てを行う環境について学習し、必要とされる保育士の専門性について考える。			
[授業全体の内容の概要] 保育・子育て支援について具体的な事例・課題を取り上げながら、演習形式にて調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。また、それらを有機的に関連付けることによって保育実習 I にも備える。保育の現場で「保育」「子育て支援」「多文化の理解」の3つの視点を学生同士で調べたり討論を交えたりしながら学習していく。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保育実習生としての学ぶ姿勢や観察と記録の重要性について理解し、その技術を学ぶこと、子どもへの関わり方や保育者との関わり方について学ぶことを目標とします。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 現代社会の子どもの育ち① 2 現代社会の子どもの育ち② 3 幼児期の発達と遊び 4 レポート対策1 子どもを知るることについて 5 レポート対策2 子どもを理解するための臨床心理学的な視点と方法 6 レポート対策3 子どもを知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について 7 レポート対策4 子どもを理解するための基本的な考え「カウンセリングマインド」について 8 地域子育て支援センターでの保育実践準備 9 地域子育て支援センターでの保育実践 10 実践編1 保育者による保育の組立について 11 実践編2 保育者による子どもへの対応について 12 実践編3 保育者による保護者への対応及び保護者からの質問について 13 実践編4 実習中の指導・援助について 14 実践編5 実習生・初任者が抱える子どもへの対応のわからなさや園や保育者との関わりかたについて 15 まとめ これまでの学習を踏まえ、保育における保育臨床相談の有効性を考察する			
[使用テキスト] 小田 豊 他 保育臨床相談 北大路書房		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  ○授業中の態度、積極性 総合点の30%  ○提出物の状況 総合点の10%  ○スクーリング終了試験 総合点の60%	
[参考文献] 藤崎真知代 他 育児・保育現場での発達とその支援 ミネルヴァ書房 吉田直子 他 子どもの発達心理学を学ぶ人のために 世界思想社			

# 平成31年度 授業概要

科目名 専門演習Ⅱ		授業の種類 (講義)	授業担当者 富田 雅子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科3年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育実習時における子どもを観察する方法や、観点について学ぶ。 保育実習時における子どもや保護者の問題について考察し、保育現場における支援の実際について学び身につけることを目標とする。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育実習Ⅰを振り返りながら保育実習Ⅱ、Ⅲに備えるとともに、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、グループで課題を設定し、学習を行うことを通じて、問題解決能力を養う</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>保育実習時における子どもや保護者の問題について考察し、保育現場における支援の実際について学び身につけることを目標とする。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 これまでの実習を振り返って自己の課題について考え、グループで解決策について話し合う</li> <li>3 実習前の準備について 保育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの意味と学びの深化について</li> <li>4 実習日誌の重要性について 日誌の書き方について学ぶ</li> <li>5 指導案の作成について① 指導案を作成する際の留意点について</li> <li>6 指導案の作成について② 実習で行う指導案を作成する</li> <li>7 実習終了後について 学校への提出物と実習先へのお礼状、次への実習への心構えについて</li> <li>8 実習中に学んだことのまとめ 自己課題の達成度について確認し、今後の自己課題の設定を行う</li> <li>9 レポート対策【1】 保育実習の問題点とその対応法について考察しまとめる。</li> <li>10 保育実習時における子どもを観察する方法について観察する際の着眼点に焦点をあてて学ぶ</li> <li>11 保育実習時における子どもの問題について考察し、実習生としての対応や問題点の解決策について考察する</li> <li>12 保育実習時における保護者等の問題について考察し、実習生としての対応や問題点の解決策について考察する</li> <li>13 現代社会での子育ての現状と子育て支援の役割についての関係性を考察する</li> <li>14 保育現場で行われている様々な支援について知り、その技術について学ぶ</li> <li>15 これまでの学習を振り返りまとめを行う科目終了試験への対策とレポート課題対策</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>関口はつ江 実習のハンドブック 大学図書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>○授業中の態度、積極性 総合点の30%</p> <p>○提出物の状況 総合点の10%</p> <p>○スクーリング終了試験 総合点の60%</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>藤崎真知代 他 育児・保育現場での発達とその支援 ミネルヴァ書房 吉田直子 他 子どもの発達心理学を学ぶ人のために 世界思想社</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育相談支援演習		授業の種類 (演習)	授業担当者 富田 雅子						
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科3年 後期							
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代社会での「ともに育てる」という概念について学習し、保護者との信頼関係の構築や地域社会における諸機関との連携の仕方を学び、児童福祉施設全般の保育相談への対応と展開ができるようにする。</p>									
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>現代社会における子育ての現状を理解し、保護者に対する支援の必要性について考える。また、保育士の専門性を生かした支援の特徴とはどんなものかを知り、子どもの最善の利益を守り、保護者の子育てに関する問題解決を図るための支援の実際を知り、その技術を学ぶ。</p>									
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>様々な家庭環境の子どもや保護者に対して、安心して子育てができるような人的環境の一つとして保育者としての専門的な知識を身に付ける。保護者の相談を受容し適切なアドバイスができるよう、専門な技術を身につける。</p>									
<p>[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育相談支援の基本①</li> <li>3 保育相談支援の基本②</li> <li>4 事例で学ぶ保育所入所児童の保護者への相談支援①</li> <li>5 事例で学ぶ保育所入所児童の保護者への相談支援②</li> <li>6 レポート対策【1】</li> <li>7 レポート対策【2】</li> <li>8 事例で学ぶ子育て支援センターにおける相談支援①</li> <li>9 事例で学ぶ子育て支援センターにおける相談支援②</li> <li>10 レポート対策【3】</li> <li>11 レポート対策【4】</li> <li>12 事例で学ぶ児童福祉保育園における相談支援①</li> <li>13 事例で学ぶ児童福祉保育園における相談支援②</li> <li>14 事例で学ぶ特別な対応を要する家庭への相談支援</li> <li>15 保育相談支援の計画</li> </ol>									
<p>[使用テキスト]</p> <p>咲間まり子編著 事例で学ぶ「保育相談支援」大学図書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">○授業中の態度、積極性</td> <td style="width: 30%;">総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>○提出物の状況</td> <td>総合点の10%</td> </tr> <tr> <td>○スクーリング終了試験</td> <td>総合点の60%</td> </tr> </table>		○授業中の態度、積極性	総合点の30%	○提出物の状況	総合点の10%	○スクーリング終了試験	総合点の60%
○授業中の態度、積極性	総合点の30%								
○提出物の状況	総合点の10%								
○スクーリング終了試験	総合点の60%								
<p>[参考文献]</p> <p>柏女霊峰 他 保育相談支援 ミネルヴァ書房 小林育子 演習保育相談支援 萌文書林</p>									

## 平成31年度 授業概要

科目名 保育・教育実践演習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 池田 淑子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 3年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針などから、保育所保育の基本となることを学ぶ。          保育の専門的基礎を基盤にし、更なる知識・技術の向上と、課題に取り組む意義を学ぶ。          現代社会の変化や、保育環境の変化が、子どもに及ぼす影響を分析し課題を学ぶ。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育の専門的基礎力を基盤に、実践の応用及び現代社会において抱えている諸課題について、積極的に発見・分析・解決能力を養う。現代社会の抱える保育の諸問題を挙げ具体化したものを、グループで討議し、相互的に学ぶことを理解する。多様化する社会において「保育者の役割」「個々における育ちを理解と援助方法」「生活と遊び」等が、保育所保育に求められていることを認識し、再構築・協働することの必要性を理解する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>保育所保育指針の改定の要点と、各章を読み解き理解する。          保育の専門的基礎力を基に、知識・技能の実践への応用と課題解決の方法を理解する。          子ども・子育て環境の諸問題を抽出し方策を考え、実践に活かす意義を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「保育」することの意義 ・保育職・教育職の意義と役割 ・保育者の倫理</li> <li>2 保育者の職務と課題 ・保育者の専門性と倫理観 ・子どもの特性の理解と課題</li> <li>3 保育者に求められる現状と課題 ・子育て環境の変化 ・児童虐待の現状と対応</li> <li>4 保育制度と課題 ・国の保育施策 ・子ども・子育て新制度 ・保育制度の課題</li> <li>5 保育者の保育意識と保育所の役割1 ・ワークライフバランス ・保育ニーズ</li> <li>6 保育所の保育意識と保育所の役割2 ・保護者の子育て環境 ・保育環境の問題意識</li> <li>7 保育環境の改善1 ・子どもの安全・安心な環境 ・保育の環境と保育の改善の視点</li> <li>8 保育環境の改善2 ・子どもの活動と環境 ・環境を通して行う保育</li> <li>9 総合的な実践1 ・保育者としての保育の基本 ・子どもの見方、捉え方</li> <li>10 総合的な実践2 ・子どもの内面理解と信頼関係の形成 ・事例から学ぶ</li> <li>11 総合的な実践3 ・現代社会における幼児教育の問題点 ・多文化共生の保育</li> <li>12 総合的な実践4 ・子どもを取り巻く食育と実践 ・子どもの体力と運動遊び</li> <li>13 保育環境の構成 ・創意工夫のある環境構成 ・各年齢に応じた玩具</li> <li>14 保育者としての向上1 ・全体的な計画の作成・実践 ・保育の省察とカンファレンス</li> <li>15 保育者としての向上2 保育の動向からの施策 ・保育者の研鑽</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>保育・教職実践演習―保育理論と保育実践の手引き          (大学図書出版)          幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック          (大学図書出版)          保育所保育指針ガイドブック(学研)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]          (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験 60%          態度・積極性 30%          ワークシート・提出物 10%</p>	
<p>[参考文献]</p>		<p>総合点 100点</p>	

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育実習 I (保育所)		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 奥野 治子
授業の回数 60 駒	時間数	配当学年・時期 介護保育科 3年 前期	
[授業の目的・ねらい]			
<p>保育所の役割や機能を具体的に理解する。子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。既習学習を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について学ぶ。保育の計画、記録、及び自己評価について具体的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
以下の内容			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
保育実習の総括を行う。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 保育所の役割と機能。			
2 子ども理解。			
3 保育内容・保育環境。			
4 保育の計画、観察、記録。			
5 専門職としての保育士の役割と職業倫理。			
6			
7 保育実習 I (保育所) 実習期間12日間			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書		(試験やレポートの評価基準など)	
福本俊『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版		出席状況 授業態度	
[参考文献]			
汐見稔幸監修『保育所保育指針ハンドブック』2017告示版 学研			
子櫃智子他著『幼稚園・保育所・認定子ども園パーフェクトガイド』わかば社			

## 実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の实務経験
上栗 明男	児童・家庭福祉論	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
上栗 健登	養護原理	30	児童養護施設にて社会福祉士として勤務
上栗 哲男	児童・家庭福祉論Ⅱ	30	児童養護施設の施設長として勤務
木嶋 眞之祐	健康・スポーツ	30	高等学校にて体育教員として勤務
砂橋 昌義	レクリエーション理論	20	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表 NPO法人ひろしまレクリエーション協会 理事長
	レクリエーション実技	40	
	福祉レクリエーション理論	30	
	福祉レクリエーション援助論	30	
	福祉レクリエーション援助技術	60	
天道 俊孝	総合演習	30	広島県立市保健所、衛生研究所、食品工業技術センターにて技術吏員・管理職として勤務
中村 孝	心理学概論	30	児童自立支援施設にて奉職
	発達心理学	30	
鍋島 一仁	キャンプ指導法	30	広島県キャンプ協会副会長、広島市キャンプ協会会長
濱田 フミエ	歌唱百曲演習		
渡辺 博文	福祉と教育	30	広島県教育委員会障害児教育室指導主事として勤務
	障害者福祉論	60	
上本 義博	ケアマネジメント論	30	高齢者福祉施設 介護福祉士、介護支援専門員
	実務者理論	60	
	実務者演習	60	
内平 八重子	ソーシャルワーク演習Ⅰ	30	社会福祉協議会 地域センター長
	社会調査法	30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	30	
	国際福祉研究	30	
	保健医療	30	
実務者理論	30	町 保健師	
河野 ひろ子	実務者理論	70	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
崎井 真弓	リハビリテーション論	30	病院にて看護師として勤務
	実務者理論	46	
	実務者演習	82	
西津 和幸	情報処理論・演習Ⅰ	60	システム系企業 システム開発担当として勤務
	情報処理演習Ⅱ	60	
野村 裕之	実務者理論	20	病院にて介護福祉士として勤務
森川 史恵	実務者理論	10	高齢者福祉施設にて介護福祉士として勤務
山崎 年幸	介護概論	30	病院にて介護福祉士として勤務
内平 八重子 各実習施設指導者	ソーシャルワーク実習	200	実習施設指導者は福祉施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要)
		1508	

## 平成31年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																																
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 前期																																	
<p>〔授業の目的・ねらい〕            ソーシャルワークにおけるニーズについて理解し、地域社会にあるニーズについて考察を深める。            さらに、地域社会の診断、ニーズの予測、地域ニーズの探索から地域アセスメント、地域福祉支援計画を作成することを通して、地域における包括的支援方法を身につける。</p>																																			
<p>〔授業全体の内容の概要〕            テキストに沿って相談援助の流れを理解する。            新聞等各種情報を収集し、自分の意見を持つ・整理する。            グループワーク等で他者と意見交換を通し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。            東京福祉大学のレポート・科目終了試験に対応した進め方とする。</p>																																			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に対するアウトリーチの概要が分かる</li> <li>・地域住民へのニーズ把握の概要が分かる</li> <li>・地域福祉の計画の概要が分かる</li> <li>・ネットワーキングの必要性が分かる</li> <li>・社会資源の活用、調整、開発について概要が分かる</li> <li>・サービスの評価の概要が分かる</li> </ul>																																			
<p>〔授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法〕            コマ数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">講義日程</th> <th style="width: 85%;">授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回</td><td>オリエンテーション／社会福祉について</td></tr> <tr><td>2回</td><td>社会福祉について、社会福祉援助活動について P2-15</td></tr> <tr><td>3回</td><td>直接援助活動の過程について／間接援助活動の過程について P15-26</td></tr> <tr><td>4回</td><td>ニーズとは何か／個人のニーズ P28-40</td></tr> <tr><td>5回</td><td>福祉ニーズについて P40-52</td></tr> <tr><td>6回</td><td>コミュニティとその診断 P53-66</td></tr> <tr><td>7回</td><td>地域社会におけるニーズ探索とその段階について P67-75</td></tr> <tr><td>8回</td><td>見学実習①</td></tr> <tr><td>9回</td><td>見学実習②</td></tr> <tr><td>10回</td><td>現地調査の実施方法 P76-86</td></tr> <tr><td>11回</td><td>計画立案と満たされていないニーズ P87-98</td></tr> <tr><td>12回</td><td>計画の実践 P98-109</td></tr> <tr><td>13回</td><td>評価の方法／成果発表について P109-118 P121-132</td></tr> <tr><td>14回</td><td>地域社会に対するニーズ調査から支援計画までのプロセスについて</td></tr> <tr><td>15回</td><td>まとめ／単位認定試験</td></tr> </tbody> </table>				講義日程	授 業 内 容	1回	オリエンテーション／社会福祉について	2回	社会福祉について、社会福祉援助活動について P2-15	3回	直接援助活動の過程について／間接援助活動の過程について P15-26	4回	ニーズとは何か／個人のニーズ P28-40	5回	福祉ニーズについて P40-52	6回	コミュニティとその診断 P53-66	7回	地域社会におけるニーズ探索とその段階について P67-75	8回	見学実習①	9回	見学実習②	10回	現地調査の実施方法 P76-86	11回	計画立案と満たされていないニーズ P87-98	12回	計画の実践 P98-109	13回	評価の方法／成果発表について P109-118 P121-132	14回	地域社会に対するニーズ調査から支援計画までのプロセスについて	15回	まとめ／単位認定試験
講義日程	授 業 内 容																																		
1回	オリエンテーション／社会福祉について																																		
2回	社会福祉について、社会福祉援助活動について P2-15																																		
3回	直接援助活動の過程について／間接援助活動の過程について P15-26																																		
4回	ニーズとは何か／個人のニーズ P28-40																																		
5回	福祉ニーズについて P40-52																																		
6回	コミュニティとその診断 P53-66																																		
7回	地域社会におけるニーズ探索とその段階について P67-75																																		
8回	見学実習①																																		
9回	見学実習②																																		
10回	現地調査の実施方法 P76-86																																		
11回	計画立案と満たされていないニーズ P87-98																																		
12回	計画の実践 P98-109																																		
13回	評価の方法／成果発表について P109-118 P121-132																																		
14回	地域社会に対するニーズ調査から支援計画までのプロセスについて																																		
15回	まとめ／単位認定試験																																		
<p>〔使用テキスト〕            「はじめての社会福祉」ミネルヴァ書房</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕            筆記試験及び出席状況・提出物等を総合的に勘案し評価する。            出席状況20%            授業態度20%            試験評価60%</p>																																	
<p>〔参考文献〕</p>																																			

## 平成31年度 授業概要

科目名 情報処理論・演習 I		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当 西津 和幸
授業の回数 30コマ	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 通年	
[授業の目的・ねらい] 現在の情報化社会で、一般的に使用されている情報機器/パソコンの使用方法を学ぶ。 ワープロ・表計算ソフトの必要性を認識した上で操作方法を学び、検定試験を目指し練習問題・模擬試験を行う。			
[授業全体の内容の概要] ①Windows 基本操作(マイコンピュータ・フォルダの管理) ②ワープロソフト(ビジネス文書の作成・図形) ③表計算ソフトの活用			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ワープロソフト及び表計算ソフトの基本操作を習得する。 ・ビジネス文書の基本構成を理解する。			
[授業の日程と各階のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション・Windows の起動・タイピングソフトの使い方 2. Microsoft Word の基本操作・文字入力 3. 文章入力 4. 編集機能(ボールド体・囲み線・イタリック体・フォントの種類等) 5. 編集機能(右寄せ・センタリング・倍角文字等) 6. 簡単なビジネス文書の作成 7. 表の挿入 8. 図表を挿入した文書の作成 9. パーソナルコンピュータの基礎知識1(パソコンとは) 10. パーソナルコンピュータの基礎知識2(ハードウェアとソフトウェア) 11. パーソナルコンピュータの基礎知識3(周辺機器について) 12. インターネットとは 13. 電子メールとは 14. 総合実技 15. 実技試験・筆記試験 16. Windows・MicrosoftExcel 基本操作 17. Excel 使用法1(体裁・集計関数) 18. 検定問題練習(4級) 19. Excel 使用法2(順位・条件関数) 20. Excel 使用法3(ソート・端数処理) 21. 検定問題練習(3級) 22. Excel 使用法4(検索処理・グラフ1) 23. Excel 使用法5(グラフ2・3) 24. 検定問題練習(2級) 25. Word 応用1(表計算ソフトからのデータ挿入) 26. パソコンの基礎知識(周辺機器について) 27. Word 応用2(デジタルカメラからのデータ挿入) 28. Word 応用3(インターネットからのデータ挿入) 29. 情報機器を使用した教材作成 30. 実技試験・筆記試験			
[使用テキスト] ・30時間でマスター Word・Excel2016(実教出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・筆記試験・実技試験・出席点・FD・課題ファイル提出・検定受験を考慮し、総合的に評価する。	
[参考文献]			

# 平成31年度 授業概要

科目名 健康・スポーツ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 木嶋 眞之祐
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 前期	
[授業の目的・ねらい] 健康と身体活動の関係について、基本的な生活習慣・発育段階における運動の量と質・目的に応じたトレーニング内容等それぞれの視点から考え、人生におけるスポーツ活動の役割を理解する。また、実技においてはバドミントン・バレーボール及び体づくり運動などを実践し、各種競技の公式なルールを学ぶとともに、それを行う人の年齢や体力によってどのような特別ルールが必要かを考える。			
[授業全体の内容の概要] 歩く、走る、跳ぶ、投げる、掴むなどの基礎的な動作を各種の運動やスポーツに発展させることの必要性を知り、発育段階やその場の環境に適応した身体活動を効率的に展開していく方法を理解させる。さらに、そのようにして得た体力や適応力を現代社会の中でどのように発揮し、よりよい健康的な生活に結びつけていくかを考察する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 運動スポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]コマ数			
1 健康であるとは1 2 健康であるとは2 3 生活習慣病について 4 こころの健康について 5 福祉社会と健康 6 人生と基本的な生活習慣とスポーツ 7 発育段階に応じた運動とトレーニング方法 8 バドミントン 9 バドミントン 10 バレーボール 11 バレーボール 12 ソフトボール 13 ソフトボール 14 体づくり運動 15 体づくり運動			
[使用テキスト] 大学生の健康・スポーツ科学研究会 「大学生の健康・スポーツ科学 第5版」道和本院		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  試験、レポートの成績だけでなく、授業への取り組み態度や意欲等も評価の対象とする。	
[参考文献]			

## 平成31年度 授業概要

科目名 福祉と教育		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 渡辺 博文
授業の回数 15駒	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>学校教育で子どもに育む「生きる力」の中には、“幸せに生きる”“生活の質を高める”という福祉の視点が欠かせない。福祉と教育に共通する人間理解、課題把握、問題解決などの力量を身に付け、対人相互交渉力の向上に資する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの「生きる力」を育むには、学校、家庭、地域の連携・協力が必要である。この学校・家庭・地域は福祉とも密接な関わりがある。本科目では、教育と福祉に関して、子どもや保護者の意識、理念や施策の実情を知り、コミュニケーション理論と演習を学ぶことにより、福祉と教育の理論的・臨床的な課題を追究する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>“より良い生活”や“豊かな人生”を支援するという福祉と教育に共通する知識と技術を学び、人にかかわる職種に携わる者に必要とされる資質を高める。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの生活実態と保護者の教育に対する意識</li> <li>2 障害児の福祉と教育の歴史 ～教育の原点・福祉の基盤として～</li> <li>3 学校教育の法体系と施策の現状</li> <li>4 社会福祉の法体系と施策の現状</li> <li>5 教師に求められる資質と学校教育の現状や課題</li> <li>6 障害の理解と障害者の福祉及び教育の視座</li> <li>7 幼児期の福祉と教育(保育所・幼稚園・認定子ども園)</li> <li>8 学校で取り扱う「福祉教育」の実際</li> <li>9 福祉と教育の連携で取り組む課題(いじめ・不登校・児童虐待など)</li> <li>10 後期中等教育及び高等教育の現状と課題</li> <li>11 コミュニケーションの諸理論とその実際(傾聴・エゴグラム・SGEの演習)</li> <li>12 バイステックとカウンセリング</li> <li>13 ライフサイクルから福祉と教育を考える</li> <li>14 事例研究(病気の子どもの福祉と教育、介護等体験など)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>・東京福祉大学編 保育児童福祉要説 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p style="text-align: center;">広島福祉専門学校学則第 26 条による。(出席状況・考査・学習態度)</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>・中川義基編著 介護福祉学 4 障害の理解 主婦の友社</p> <p>・寺脇 研 何処へ向かう教育改革 主婦の友社</p> <p>・寺脇 研 動き始めた教育改革 主婦の友社</p> <p>・幼稚園教育要領、保育所保育指針など</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">国際福祉研究</p>	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																																
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 後期																																
[授業の目的・ねらい] 21世紀の日本における超高齢社会を考える上で、福祉の問題は、世代を超えて社会全体で取り組まなければならない緊急の課題である。 この科目は、世界各国の高齢化の現状、制度を学び、日本の社会保障について考察することを目的としている。制度を議論するとき、人は感情論に陥りやすくなる。人は多かれ少なかれ「自分ならこう思う」という考えを持っているからである。学生には、ここで学びを深め、感情論としての制度議論ではなく、客観性を持った制度議論ができるようにしっかり知識を身につけていただきたい。																																		
[授業全体の内容の概要] テキストに沿って国際社会の動向に関する情報を取得する。 新聞等各種情報を収集し、自分の意見を持つ・整理する。 グループワーク等で他者と意見交換を通し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。 東京福祉大学のレポート・科目終了試験に対応して進める。																																		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・日本の介護保険制度について理解する ・諸外国の介護保障について理解する ・“ひとごと”でなく“じぶんごと”として高齢者の福祉課題を理解する																																		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">講義日程</th> <th style="width: 85%;">授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回</td><td>オリエンテーション／日本が介護保険を導入するに至った歴史</td></tr> <tr><td>2回</td><td>日本の介護保険制度の概要</td></tr> <tr><td>3回</td><td>日本の介護保険制度の課題と今後の方向性</td></tr> <tr><td>4回</td><td>レポート作成について</td></tr> <tr><td>5回</td><td>イギリスの介護保障</td></tr> <tr><td>6回</td><td>フランスの介護保障</td></tr> <tr><td>7回</td><td>ドイツの介護保障／スウェーデンの介護保障</td></tr> <tr><td>8回</td><td>アメリカの介護保障／アメリカの医療保険制度</td></tr> <tr><td>9回</td><td>中国の介護保障</td></tr> <tr><td>10回</td><td>韓国の介護保障</td></tr> <tr><td>11回</td><td>台湾・シンガポールの介護保障</td></tr> <tr><td>12回</td><td>日本・ドイツ・韓国の介護保険制度の比較考察</td></tr> <tr><td>13回</td><td>復習：日本の介護保険制度</td></tr> <tr><td>14回</td><td>復習：諸外国の介護保障</td></tr> <tr><td>15回</td><td>まとめ／単位認定試験</td></tr> </tbody> </table>			講義日程	授 業 内 容	1回	オリエンテーション／日本が介護保険を導入するに至った歴史	2回	日本の介護保険制度の概要	3回	日本の介護保険制度の課題と今後の方向性	4回	レポート作成について	5回	イギリスの介護保障	6回	フランスの介護保障	7回	ドイツの介護保障／スウェーデンの介護保障	8回	アメリカの介護保障／アメリカの医療保険制度	9回	中国の介護保障	10回	韓国の介護保障	11回	台湾・シンガポールの介護保障	12回	日本・ドイツ・韓国の介護保険制度の比較考察	13回	復習：日本の介護保険制度	14回	復習：諸外国の介護保障	15回	まとめ／単位認定試験
講義日程	授 業 内 容																																	
1回	オリエンテーション／日本が介護保険を導入するに至った歴史																																	
2回	日本の介護保険制度の概要																																	
3回	日本の介護保険制度の課題と今後の方向性																																	
4回	レポート作成について																																	
5回	イギリスの介護保障																																	
6回	フランスの介護保障																																	
7回	ドイツの介護保障／スウェーデンの介護保障																																	
8回	アメリカの介護保障／アメリカの医療保険制度																																	
9回	中国の介護保障																																	
10回	韓国の介護保障																																	
11回	台湾・シンガポールの介護保障																																	
12回	日本・ドイツ・韓国の介護保険制度の比較考察																																	
13回	復習：日本の介護保険制度																																	
14回	復習：諸外国の介護保障																																	
15回	まとめ／単位認定試験																																	
[使用テキスト] 「世界の介護保障」 増田雅暢 法律文化社	[単位認定の方法及び基準] 筆記試験及び出席状況・提出物等を総合的に勘案し評価する。 出席状況20% 授業態度20% 試験評価60%																																	
[参考文献] 「社会福祉入門」岡本民夫他 放送大学教育振興会																																		

## 平成31年度 授業概要

科目名 レクリエーション理論		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当 砂橋 昌義
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 前期	
【授業の目的・ねらい】 レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。			
【授業全体の内容の概要】  介護福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につける			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。			
【授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法】 コマ数 1.レクリエーションの意義 2.レクリエーション・インストラクターの役割 3.楽しさを通じた心の元気づくり 4.ライフステージと対象にあわせた心の元気づくり 5.心の元気と地域のきずな 6.人間交流のための交流分析(TA) 7.コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 8.良好な集団作りの理論 9.自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 10.レクリエーション活動の安全管理			
【使用テキスト】 楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 公益財団法人日本レクリエーション協会編		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)  出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
【参考文献】			

# 平成31年度 授業概要

科目名 レクリエーション実技		授業の種類 (実技・演習)	授業担当者 砂橋 昌義
授業の回数 25駒	時間数 50時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 通年	
【授業の目的・ねらい】 レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける			
【授業全体の内容の概要】 福祉支援者として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。 また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を通して支援技術を身につける。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 福祉現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。			
【授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法】 コマ数 <ol style="list-style-type: none"> <li>1.レクリエーション事業とは</li> <li>2.事業計画Ⅰ(個人にアプローチする事業の作り方)</li> <li>3.事業計画Ⅱ(市民を対象にした事業の作り方)</li> <li>4.事業計画の作成と発表</li> <li>5.コミュニケーションワーク ～ホスピタリティとは～</li> <li>6.コミュニケーションに必要な態度等</li> <li>7.ホスピタリティの示し方</li> <li>8.アイスブレイキングの意義と基本技術</li> <li>9.アイスブレイキングのプログラミング</li> <li>10.アイスブレイキングのプログラムの立案</li> <li>11.レクリエーションワークの理解</li> <li>12.目的に合わせたレクリエーションワーク</li> <li>13.素材アクティビティの選択</li> <li>14.素材アクティビティの提供と相互作用の活用</li> <li>15.対象にあわせたレクリエーションワークの基本技術</li> <li>16.段階的アレンジ法の応用</li> <li>17.歌を活かすレクリエーションワークの応用</li> <li>18.ゲーム等を活かすレクリエーションワークの応用</li> <li>19.テキストで使われている素材アクティビティ</li> <li>20.総合演習の進め方(イベントプログラムの作成)</li> <li>21.イベントプログラムの試行(対人交流技術)</li> <li>22.レクリエーション支援技術のクリニック</li> <li>23.人間開発トレーニングⅠ(情報管理・的あてゲーム)</li> <li>24.人間開発トレーニングⅡ(リーダーシップ・スリーテン)</li> <li>25.レクリエーション技術研修のまとめ</li> </ol>			
【使用テキスト】 楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 公益財団法人日本レクリエーション協会編		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
【参考文献】			

## 平成31年度 授業概要

科目名 キャンプ指導法		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当者 鍋島 一仁
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会環境の変化に伴いキャンプに期待される役割が増大し、キャンプに対する要求も多様化してきた。幼児から高齢者までの福祉キャンプ等、この分野の専門性の高い知識と能力を持つ指導者を育成する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>野外体験型のキャンプは、自然環境に対する基本的な知識とともに、人々が歴史的発展の中で失ってきた不足体験等への気づき等重要な役割を担っている。キャンプインストラクターは、これらキャンプの意義を理解し、目的に応じた必要な知識と安全指導、野外生活技術や自然応用技術、さらには人間関係づくりまで多様な指導力が求められる。福祉キャンプは、これからの期待が高く、キャンプインストラクターの資格取得が求められ、実習を中心に技術指導・生活指導・人間関係づくりについて体験的に学ぶ。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>福祉現場で活用できるキャンプ指導技術を備えたキャンプインストラクターの資格取得。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>[理論コマ]</p> <p>1 キャンプの特性と安全……………学校授業の中で講義</p> <p>2 キャンプの計画・運営・評価…………… ”</p> <p>3 キャンプの歴史と指導者……………野外での講演・実習</p> <p>[基礎実技のコマ]</p> <p>1 テント技術、キャンプクラフト、野外炊事法……………野外での指導実習</p> <p>2 ロープワーク、キャンプ用具使用法…………… ”</p> <p>3 キャンプファイヤー技術…………… ”</p> <p>(注) 野外ゲーム、救急救命法については他の授業の読み替えとする。</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>キャンプ専門科目テキスト ～日本キャンプ協会編～</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 総合演習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 天道 俊孝
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 1年 前期	
[授業の目的・ねらい]  住環境及び地球環境の変化について最新の情報などを通して理解・総括し、21世紀を担う地球市民として何が求められているのかを児童・生徒に自ら考えさせる教育能力を養う。			
[授業全体の内容の概要]  人為活動によって、個人を取り巻く住環境及び地球環境が変化することが、どのようにして人の健康に影響を及ぼしているのか、また、人の健康に害を及ぼす環境の悪化をどのようにして、改善していこうとしているのか、その現状と問題点について最新の情報などを通して理解・総括し、21世紀を担う地球市民として何が求められているのかを児童・生徒に自ら考えさせる教育能力を養う。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 住環境及び地球環境の変化について最新の情報などを通して理解・総括し、21世紀を担う地球市民として何が求められているのかを児童・生徒に自ら考えさせる教育能力を身につける。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 健康増進対策 2 生活習慣の改善 栄養・食生活 3 食の安全について 4 食に関する指導 5 世界の食糧事情について 6 化学物質の安全対策 7 オゾン層保護対策 8 地球温暖化対策 9 酸性雨対策 10 喫煙に対する取り組み 11 感染症の最近の動向について 12 予防接種について 13 ストレスについて 14 大気汚染対策について・身体活動や運動について 15 放射線利用の動向			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  単位認定は筆記試験、発表、出席等を総合的に評価する。	
[参考文献]			

# 平成31年度 授業概要

科目名 養護原理		授業の種類 講義	授業担当者 上栗 健登
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 2年 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕          児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の関係と、その意義と役割を認識し、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について理解を深める。そして児童福祉施設の積極的意義と実践的技術についても認識させる。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕          テキストを中心とするが、事例や実践例を多用して咀嚼しやすく認識しやすい内容とする。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕          施設養護に対する無理解や消極的意識を是正し、固有の意義と実践歴があることを理解させるとともに、施設養護に携わることの魅力を感じとらせる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 現代社会と子どもを取り巻く環境</li> <li>3 社会的養護とは</li> <li>4 身のまわりから社会的養護を考える</li> <li>5 VTR 視聴「石井十次」</li> <li>6 石井十次の実践と現代的意義</li> <li>7 施設養護の実践</li> <li>8 人間性回復の原理と個別化の原理</li> <li>9 親子関係調整の原理と社会復帰の原理</li> <li>10 個別援助技術と個別援助事例</li> <li>11 日常生活支援と自立支援の関係</li> <li>12 社会的養護の領域</li> <li>13 求められる専門性と援助技術</li> <li>14 養護実践現場の連携とチームワーク</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
〔使用テキスト〕		<p>〔単位認定の方法及び基準〕          授業意欲・態度を重視して、その中での小テストやレポートも加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕          「子どもの生活を支える社会的養護」(ミネルヴァ書房)          小野澤昇/田中利則/大塚良一〔編著〕</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 児童・家庭福祉論		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 2年 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもしっかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 テキストを中心に進めるが、単元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』)</li> <li>2 現代社会と子ども家庭の問題</li> <li>3 子どものための福祉の原理</li> <li>4 日本の児童福祉の歴史</li> <li>5 戦後の児童福祉の歩み</li> <li>6 児童福祉法</li> <li>7 児童相談所と関連機関</li> <li>8 児童福祉施設</li> <li>9 児童の社会的養護サービス</li> <li>10 児童虐待の定義</li> <li>11 児童虐待の実態</li> <li>12 子どもを虐待から保護する仕組み</li> <li>13 子ども家庭への相談援助活動</li> <li>14 施設ケアの内容</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>			
<p>〔使用テキスト〕 社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(中央法規出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕</p>			

## 平成31年度 授業概要

科目名 児童・家庭福祉論Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 哲男
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科2年 通年	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもちつかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 テキストを中心に進めるが、單元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』)</li> <li>2 現代社会と子ども家庭の問題</li> <li>3 子どものための福祉の原理</li> <li>4 日本の児童福祉の歴史</li> <li>5 戦後の児童福祉の歩み</li> <li>6 児童福祉法</li> <li>7 児童相談所と関連機関</li> <li>8 児童福祉施設</li> <li>9 児童の社会的養護サービス</li> <li>10 児童虐待の定義</li> <li>11 児童虐待の実態</li> <li>12 子どもを虐待から保護する仕組み</li> <li>13 子ども家庭への相談援助活動</li> <li>14 施設ケアの内容</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>			
<p>〔使用テキスト〕 社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(中央法規出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕</p>			

# 平成 3 1 年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">障害者福祉論</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義・演習・実習)</p>	授業担当者 <p style="text-align: center;">渡辺 博文</p>		
授業の回数 <p style="text-align: center;">30コマ</p>	時間数 <p style="text-align: center;">60時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">社会福祉科 2年 前期・後期・<u>通年</u></p>		
[授業の目的・ねらい] 障害者福祉の理念、歴史的変遷、法体系及び実施体制などの基本的な事項を学び、事例等の具体的な事柄を通して施策や機関・施設並びに相談援助活動について実践的な理解を深める。				
[授業全体の内容の概要] 障害者福祉の理念、歴史的変遷、法体系及び実施体制などはテキスト及び参考文献を中心に学習を進め、福祉サービスや関連分野及び事例等に関しては、テキストのほかビデオや関連資料、実地研修などを通して理解を深める。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 社会福祉士に必要な専門的知識と実践的力量を身につけるとともに、社会福祉士受験資格の取得をめざす。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数				
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             1 障害者を取り巻く国際情勢                              2 障害者を取り巻く国内情勢                              3 ノーマライゼーションについて                              4 障害者の権利に係る法制度                              5 障害者の生活実態                              6 障害の概念と構造的理解                              7 障害者の定義と手帳制度                              8 障害者基本法と障害者基本計画                              9 身体障害者・知的障害者の法令と福祉                              10 精神障害者の法令と福祉                              11 発達障害者の法令と福祉                              12 障害者の雇用に係る法令と現状                              13 バリアフリー新法と補助犬法                              14 社会参加を促進する生活環境の整備                              15 保健・医療・年金等に関する法令                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             16 特別支援教育に関する法令と現状                              17 所得保障と経済的負担の軽減                              18 障害者自立支援制度(1)理念としくみ                              19 障害者自立支援制度(2)支給決定・利用                              20 障害者自立支援制度(3)医療・補装具                              21 障害者自立支援制度(4)地域生活支援                              22 障害者自立支援制度(5)障害児支援                              23 障害者自立支援制度(6)行政の役割                              24 障害者自立支援制度(7)専門職の役割                              25 障害者自立支援制度(8)多職種連携                              26 障害者関連施設見学の事前学習                              27 障害者関連施設の見学実習(1)                              28 障害者関連施設の見学実習(2)                              29 事例研究                              30 まとめ                         </td> </tr> </table>			1 障害者を取り巻く国際情勢 2 障害者を取り巻く国内情勢 3 ノーマライゼーションについて 4 障害者の権利に係る法制度 5 障害者の生活実態 6 障害の概念と構造的理解 7 障害者の定義と手帳制度 8 障害者基本法と障害者基本計画 9 身体障害者・知的障害者の法令と福祉 10 精神障害者の法令と福祉 11 発達障害者の法令と福祉 12 障害者の雇用に係る法令と現状 13 バリアフリー新法と補助犬法 14 社会参加を促進する生活環境の整備 15 保健・医療・年金等に関する法令	16 特別支援教育に関する法令と現状 17 所得保障と経済的負担の軽減 18 障害者自立支援制度(1)理念としくみ 19 障害者自立支援制度(2)支給決定・利用 20 障害者自立支援制度(3)医療・補装具 21 障害者自立支援制度(4)地域生活支援 22 障害者自立支援制度(5)障害児支援 23 障害者自立支援制度(6)行政の役割 24 障害者自立支援制度(7)専門職の役割 25 障害者自立支援制度(8)多職種連携 26 障害者関連施設見学の事前学習 27 障害者関連施設の見学実習(1) 28 障害者関連施設の見学実習(2) 29 事例研究 30 まとめ
1 障害者を取り巻く国際情勢 2 障害者を取り巻く国内情勢 3 ノーマライゼーションについて 4 障害者の権利に係る法制度 5 障害者の生活実態 6 障害の概念と構造的理解 7 障害者の定義と手帳制度 8 障害者基本法と障害者基本計画 9 身体障害者・知的障害者の法令と福祉 10 精神障害者の法令と福祉 11 発達障害者の法令と福祉 12 障害者の雇用に係る法令と現状 13 バリアフリー新法と補助犬法 14 社会参加を促進する生活環境の整備 15 保健・医療・年金等に関する法令	16 特別支援教育に関する法令と現状 17 所得保障と経済的負担の軽減 18 障害者自立支援制度(1)理念としくみ 19 障害者自立支援制度(2)支給決定・利用 20 障害者自立支援制度(3)医療・補装具 21 障害者自立支援制度(4)地域生活支援 22 障害者自立支援制度(5)障害児支援 23 障害者自立支援制度(6)行政の役割 24 障害者自立支援制度(7)専門職の役割 25 障害者自立支援制度(8)多職種連携 26 障害者関連施設見学の事前学習 27 障害者関連施設の見学実習(1) 28 障害者関連施設の見学実習(2) 29 事例研究 30 まとめ			
[使用テキスト] ・社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  広島福祉専門学校学則第 26 条による。(出席状況・考査・学習態度)			
[参考文献] ・中川義基編著 介護福祉学 4 障害の理解 主婦の友社 ・小澤温著 よくわかる障害者福祉 ミネルヴァ書房 ・内閣府 障害者白書 平成 29 年度版 勝美印刷				

# 平成31年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">社会調査法</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義・演習・実習)</p>	授業担当者 <p style="text-align: center;">内平 八重子</p>
授業の回数 <p style="text-align: center;">15 駒</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">社会福祉科 2年 前期</p>
[授業の目的・ねらい]  社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。		
[授業全体の内容の概要]  基本はテキストに沿って講義。 東京福祉大学のレポート作成や科目終了試験に対応した進め方をする。 適宜“確認テスト”を行い、国試対策用語や過去問題を押さえて行く。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]  社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解できる。 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解できる。 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解できる。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]  コマ数 1 オリエンテーション／社会調査の意義と目的 2 統計法／倫理と個人情報保護 3 量的調査1: 量的調査の概要／標本抽出 4 量的調査2: 調査票作成と留意点／測定 5 量的調査3: 調査票の配布／回収 6 量的調査4: 集計／分析(検定) 7 量的調査5: 量的調査のまとめ 8 質的調査1: 質的調査の概要 9 質的調査2: 観察法／面接法 10 質的調査3: その他手法 11 質的調査4: 記録とデータ分析 12 質的調査5: 質的調査のまとめ 13 社会調査の実施にあたってのITの活用方法 14 統計法、倫理、個人情報保護他の復習 15 量的調査、質的調査の復習		
[使用テキスト] 中央法規社会福祉士シリーズ5社会調査の基礎 他、適宜、資料を配布する	[単位認定の方法及び基準]  出席状況・授業態度 20% 試験 80%	
[参考文献]		

## 平成31年度 授業概要

科目名 福祉レクリエーション理論		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当者 砂橋 昌義
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉レクリエーションの、人間生活における楽しさの追及を支える理論と支援の方法を理解する。</p> <p>このための、具体的な福祉レクサービスを企画実践し、個人や集団を支える福祉レクワーカーを育成する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性の尊重など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカー資格取得を目指し、福祉現場での多様なレクリエーション支援技術を身につける。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>介護現場で、楽しさを追及し、対象の主体性を引き出すレク支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>[福祉レク理論と支援]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 楽しさの追及を支えること?～福祉レクリエーションとは～</li> <li>2 なぜ楽しさの追及なのか～福祉レクリエーションの視点から～</li> <li>3 その人らしい楽しさとは～多様な楽しさ、移り変わる楽しさ～</li> <li>4 その人らしい楽しさを見通すためのヒント～楽しさをめぐる様々な理論～</li> <li>5 楽しさの追及を支える支援者の営み、役割と心構え、技術</li> <li>6 個人支援の手順～APIEプロセス～</li> <li>7 総合的な支援の流れ～TRサービスモデル～</li> <li>8 行動変容と自己効力感～行動変容に向けた効果的なレク支援～</li> <li>9 デーサービスセンターでの福祉レクリエーション支援</li> <li>10 小規模多機能型施設での福祉レクリエーション支援</li> <li>11 特別養護老人ホームでの福祉レクリエーション支援</li> <li>12 地域の高齢者支援活動での福祉レクリエーション支援</li> <li>13 障がい児・障がい者を対象にした福祉レクリエーション支援</li> <li>14 子育て支援サービスでの福祉レクリエーション支援</li> <li>15 これまでの福祉レクリエーションのあゆみ</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>楽しさの追求を支える理論と支援の方法</p> <p>～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 1</p>			

## 平成31年度 授業概要

科目名 福祉レクリエーション援助論		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当者 砂橋 昌義
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 2年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉レクリエーションの、人間生活における楽しさの追及を支える理論と支援の方法を理解する。 このための、具体的な福祉レクサービスを企画実践し、個人や集団を支える福祉レクワーカーを育成する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性の尊重など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカー資格取得を目指し、福祉現場での多様なレクリエーション支援技術を身につける。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>介護現場で、楽しさを追及し、対象の主体性を引き出すレク支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>[福祉レク企画と実施]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用者の思いと事業所の使命のマッチング</li> <li>2 福祉レクリエーション総合計画</li> <li>3 在宅サービスの中での福祉レクリエーション総合計画事例</li> <li>4 入居サービスの中での福祉レクリエーション総合計画事例</li> <li>5 個人のニーズと福祉レクリエーション総合計画の関係</li> <li>6 福祉レクリエーション総合計画をつくる～福祉レクリエーション支援の事例研究～</li> <li>7 福祉レクリエーション総合計画の策定</li> <li>8 やるべきことを受け止め、楽しさ追及のために、やるべきことの決定を支える</li> <li>9 対象者の思いと、支援者の視点の、マッチングの3つの事例</li> <li>10 福祉レクリエーション支援の実際～事例を通じた施設種別による支援計画の視点～</li> <li>11 福祉レクリエーション支援における「福祉レク総合計画」と「福祉レクサービス支援プラン」総合の視点</li> <li>12 対象者の思いと組織理念を含めたグループレクリエーションの計画立案とその評価</li> <li>13 介護老人施設の行事例と準備・実施のポイント</li> <li>14 行事・イベント計画のポイント～事例から見えてくる行事の意義と対象者が輝くポイント～</li> <li>15 福祉レクリエーション支援の評価～まとめ～</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 ～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>よく分かる福祉レクリエーションサービス実施 マニュアル 2</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 介護概論		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 年幸																														
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 後期																															
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①社会福祉に求められる介護の意義を学ぶ。②介護の機能と範囲を学ぶ。③介護を必要とする人間の理解と尊厳を大切にしなければならないことを学ぶ。④介護に関わる関係職種の理解と連携について学ぶ。⑤自立に向けた介護の意義を学ぶ。⑥福祉用具の理解と、介護過程の意義について学ぶ。⑦これからの望ましい介護のあり方を考えられる力をつける。</p>																																	
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>福祉の専門職に求められる倫理・多様なニーズに応える実践力が高まってきたため、社会福祉の現場では、社会福祉士と介護福祉士は、協働者として常に活躍している。そのため、介護福祉とはどのような機能と範囲であるかを理解し、連携のあり方を学習する内容とする。また、社会福祉の視点を持ちながら、介護実践を学ぶ内容とするためにも、人間の尊厳を重視した介護の本質を理解できる学習とする。</p>																																	
<p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①社会福祉に求められる介護の意義が理解できる。          ②介護の機能と範囲が理解できる。          ③介護を必要とする人間の理解と尊厳を大切にできる。          ④介護に関わる関係職種の理解と連携の義務が理解できる。          ⑤自立に向けた介護の意義の理解ができる。          ⑥福祉用具の理解と、介護過程の意義が理解できる          ⑦これからの望ましい介護のあり方を考えられる。</p>																																	
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護の概念と範囲 社会福祉士と介護</td> <td style="width: 50%;">講義・演習</td> </tr> <tr> <td>2 介護の理念</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3 介護の対象</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>4 介護の予防</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>5 介護過程の展開</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>6 介護各論① 自立に向けた介護</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>7 介護各論① 家事における自立支援</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>8 介護各論① 身支度、移動、睡眠の介護</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>9 介護各論① 食事、口腔衛生の介護</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>10 介護各論① 入浴、清潔、排泄の介護</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>11 介護各論② 認知症ケア</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>12 介護各論② 終末期ケア</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>13 介護各論② 住環境</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>14 医療的ケア</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>15 介護における専門職の役割と連携 試験</td> <td>講義・試験</td> </tr> </table>				1 介護の概念と範囲 社会福祉士と介護	講義・演習	2 介護の理念	講義・演習	3 介護の対象	講義・演習	4 介護の予防	講義・演習	5 介護過程の展開	講義・演習	6 介護各論① 自立に向けた介護	講義・演習	7 介護各論① 家事における自立支援	講義・演習	8 介護各論① 身支度、移動、睡眠の介護	講義・演習	9 介護各論① 食事、口腔衛生の介護	講義・演習	10 介護各論① 入浴、清潔、排泄の介護	講義・演習	11 介護各論② 認知症ケア	講義・演習	12 介護各論② 終末期ケア	講義・演習	13 介護各論② 住環境	講義・演習	14 医療的ケア	講義・演習	15 介護における専門職の役割と連携 試験	講義・試験
1 介護の概念と範囲 社会福祉士と介護	講義・演習																																
2 介護の理念	講義・演習																																
3 介護の対象	講義・演習																																
4 介護の予防	講義・演習																																
5 介護過程の展開	講義・演習																																
6 介護各論① 自立に向けた介護	講義・演習																																
7 介護各論① 家事における自立支援	講義・演習																																
8 介護各論① 身支度、移動、睡眠の介護	講義・演習																																
9 介護各論① 食事、口腔衛生の介護	講義・演習																																
10 介護各論① 入浴、清潔、排泄の介護	講義・演習																																
11 介護各論② 認知症ケア	講義・演習																																
12 介護各論② 終末期ケア	講義・演習																																
13 介護各論② 住環境	講義・演習																																
14 医療的ケア	講義・演習																																
15 介護における専門職の役割と連携 試験	講義・試験																																
<p>【使用テキスト】</p> <p>(編集)社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座13『高齢者に対する支援と介護保険制度』第5版 中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>筆記試験および出席状況、授業態度、提出物等を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定める通り。</p>																															
<p>【参考文献】</p> <p>介護福祉学研究会監修：介護福祉学、中央法規出版(株)</p>																																	

## 平成31年度 授業概要

科目名 保健医療		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																																																
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 前期																																																	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む)や保健医療サービスについて理解する。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携について理解する。</p> <p>医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割及び連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解する。</p>																																																			
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>テキストに沿って進め、ねらいを押さえる。</p> <p>新聞等各種情報を収集し、自分の意見を持つ・整理する。</p> <p>グループワーク等で他者と意見交換を通し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。</p>																																																			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む)や保健医療サービスについて分かる。</li> <li>・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携について分かる。</li> <li>・医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割及び連携についての基礎的な知識がつく。</li> <li>・保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解できる。</li> </ul>																																																			
<p>〔授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">講義日程</th> <th style="width: 65%;">授 業 内 容</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>保健医療サービスとは何か</td> <td>P1-38</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>医療関連職種について</td> <td>P 5-6 、 131-143 、 155-162</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>医療施設、介護施設について</td> <td>P6-12、39-62、81-84</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>在宅支援のシステムについて</td> <td>P63-80、84-90</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>医師の役割とインフォームドコンセントについて</td> <td>P132、144-155</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>医療ソーシャルワーカーとその業務内容について</td> <td>P30-32、91-130</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>医療保険制度について</td> <td>P163-173</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>高額医療費制度について</td> <td>P170-172</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>診療報酬制度について</td> <td>P173-184</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要</td> <td>P185-196</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>保健医療サービスの連携の理論</td> <td>P197-213</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>保健医療サービスの連携の実際</td> <td>P214-233</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識</td> <td>P233-238</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>地域の保健医療ネットワークキングの実際</td> <td>P239-268</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>まとめ/単位認定試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				講義日程	授 業 内 容		1回	保健医療サービスとは何か	P1-38	2回	医療関連職種について	P 5-6 、 131-143 、 155-162	3回	医療施設、介護施設について	P6-12、39-62、81-84	4回	在宅支援のシステムについて	P63-80、84-90	5回	医師の役割とインフォームドコンセントについて	P132、144-155	6回	医療ソーシャルワーカーとその業務内容について	P30-32、91-130	7回	医療保険制度について	P163-173	8回	高額医療費制度について	P170-172	9回	診療報酬制度について	P173-184	10回	介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要	P185-196	11回	保健医療サービスの連携の理論	P197-213	12回	保健医療サービスの連携の実際	P214-233	13回	地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識	P233-238	14回	地域の保健医療ネットワークキングの実際	P239-268	15回	まとめ/単位認定試験	
講義日程	授 業 内 容																																																		
1回	保健医療サービスとは何か	P1-38																																																	
2回	医療関連職種について	P 5-6 、 131-143 、 155-162																																																	
3回	医療施設、介護施設について	P6-12、39-62、81-84																																																	
4回	在宅支援のシステムについて	P63-80、84-90																																																	
5回	医師の役割とインフォームドコンセントについて	P132、144-155																																																	
6回	医療ソーシャルワーカーとその業務内容について	P30-32、91-130																																																	
7回	医療保険制度について	P163-173																																																	
8回	高額医療費制度について	P170-172																																																	
9回	診療報酬制度について	P173-184																																																	
10回	介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要	P185-196																																																	
11回	保健医療サービスの連携の理論	P197-213																																																	
12回	保健医療サービスの連携の実際	P214-233																																																	
13回	地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識	P233-238																																																	
14回	地域の保健医療ネットワークキングの実際	P239-268																																																	
15回	まとめ/単位認定試験																																																		
<p>〔使用テキスト〕新・社会福祉士養成講座 17 「保健医療サービス」中央法規</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験及び出席状況・提出物等を総合的に勘案し評価する。</p> <p>出席状況20% 授業態度20% 試験評価60%</p>																																																	
<p>〔参考文献〕</p> <p>新聞記事等、適宜使用する。</p>																																																			

# 平成31年度 授業概要

科目名 リハビリテーション論	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 崎井 真弓
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 後期
[授業の目的・ねらい] 障害を負った人が社会復帰を目指す時、医療職や理学療法士等の多職種連携によるチームアプローチが必須の手法として求められる。中でも連携や制度の活用を中心となる職種であるため、リハビリテーションの理念を理解していく。		
[授業全体の内容の概要] リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体的のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践のバランスをよく学ぶことで、総合的な援助的援助体系とし障害者の「自立」に必要な社会環境についてのリハビリテーションの本質についての理解を深める。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. リハビリテーションの理念の理解 2. 社会資源の理解 3. 4領域のリハビリテーションの理解とICFを用いた支援技法の修得する		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 障害者福祉関係の法体系と施策について 障害者福祉に関わる各種法律や障害者の「自立と社会参加」を支援する施策について。 2 リハビリテーションの理念について 1 「リハビリテーション」の語源や定義の歴史の変遷について。 3 リハビリテーションの理念について 2 戦傷者のリハビリテーションから障害者(一般)への対象の拡大 4 リハビリテーションの理念について 3 世界保健機関(1968)及び国連・障害者に関する世界行動計画(1982)による定義について。 5 リハビリテーションの理念について 4 自立・ノーマライゼーション・生活の質・機会均等化・完全参加と平等、「全人的復権」について。 6 障害者の「自立」に必要な社会環境について 1 社会環境整備の目的について(完全参加と平等。障害者も社会を構成する一員である)。 7 障害者の「自立」に必要な社会環境について 2 障害者のすべての生活場面(社会・教育・職業等)における完全参加と平等・自立について。 8 障害者の「自立」に必要な社会環境について 3 心(意識)のバリアフリーとハード(物理的)のバリアフリーについて。 9 障害者の「自立」に必要な社会環境について 4 活動制限から完全参加へ(福祉用具やユニバーサルデザイン等)。 10 障害者の「自立」に必要な社会環境について 4 演習 ユニバーサルデザインの体験。 11 医療リハビリテーションと専門職 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割や医療・療育機関について。 12 職業リハビリテーションについて 障害者の経済活動への支援施策や障害者雇用促進法について。 13 社会リハビリテーション・教育リハビリテーションについて 障害者の「社会生活力」向上への支援。SST。障害児の教育支援について。 14 地域リハビリテーションについて 入所から地域生活へ。その生活を支援するシステムネットワークと専門職について。 15 まとめ・単位認定試験		
[使用テキスト] 江藤 文夫編集「よくわかるリハビリテーション」 ミネルヴァ書房	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  ・学校規定に準ずる 試験60点以上 ・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる ・授業態度。演習等への積極性も対象となる	
[参考文献] 澤村 誠志編「最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論」メジカルフレンド社		

# 平成31年度 授業概要

科目名 ケアマネジメント論		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 上本 義博
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの実践において必要な基礎的な知識を習得する。</li> <li>・社会福祉士として現場に出て必要な他職種との連携について理解し、多方面からの視点を持つことの大切さを理解する。</li> </ul>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストに沿って項目設定し、参考資料を用いて学生に応じた講義内容にする。</li> <li>・ケアマネジメントについて事例を用いて説明し、個人ワークの後、グループワークを行いほかの学生の考え方を学ぶ</li> <li>・東京福祉大学のシラバスのポイントに沿ってすすめていく。</li> </ul>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの目的及び機能について理解し説明できる。</li> <li>・ケアマネジメントの手法及びプロセスについて理解し説明できる。</li> <li>・ケアマネジメントを担う機関及び専門職について理解し説明できる。</li> <li>・介護保険制度とケアマネジメントについて理解し説明できる。</li> <li>・ケアマネジメントを活用したソーシャルアクションについて理解し説明できる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、オリエンテーション ケアマネジメントとは (事例を読みイメージする)</li> <li>2、ケアマネジメントの目的</li> <li>3、ケアマネジメントの機能</li> <li>4、ケアマネジメントにおける社会資源 ～ケアマネジメントを行う機関と専門職種</li> <li>5、介護保険制度にみるケアマネジメント</li> <li>6、障害者支援にみるケアマネジメント</li> <li>7、さまざまな分野のケアマネジメント</li> <li>8、ケアマネジメントの展開過程とインターク</li> <li>9、アセスメントの方法</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>10、ケアプランの作成とケア会議</li> <li>11、ケアプランの実施</li> <li>12、ケアマネジメントの評価</li> <li>13、ケアマネジメントを活用した ソーシャルアクションについて</li> <li>14、今までの復習/レポートについて</li> <li>15、全体のまとめ・試験</li> </ol>	
<p>[使用テキスト]</p> <p>太田貞司「対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10」(株)みらい</p> <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度広島県介護支援専門員実務従事者研修テキスト</li> <li>・図説 よくわかる障害者総合支援法 著者 坂本洋一 2013年9月初版第2刷 中央法規出版</li> <li>ケアマネジメント講座 第1巻ケアマネジメント概論 監修 白澤政和・橋本泰子・竹内孝仁 2006年11月1日 初版第3刷発行 中央法規出版株式会社</li> <li>ケアマネジメント講座 第2巻ケアマネジメントの実践と展開 監修 白澤政和・橋本泰子・竹内孝仁 2000年9月15日 発行 中央法規出版株式会社</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験・レポートの評価基準など) 学則に定めるとおり (授業での態度、出欠状況、提出期限など)</p>	

## 平成31年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																														
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 前期																															
〔授業の目的・ねらい〕 実習機関で行われる実習内容に関する知識を深め、心構えや実習意欲を高める。																																	
〔授業全体の内容の概要〕 ・実習の全体像を伝える ・実習における利用者対象者像を伝える ・実習施設や機関の機能や役割を伝える ・地区診断をシュミレーションする																																	
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ・実習の全体像のイメージができる ・実習における利用者対象者のイメージができる ・実習施設や機関の機能や役割がイメージできる ・実習施設の事前学習の進め方が分かる																																	
〔授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法〕 コマ数																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td>オリエンテーション／実習に向き合う姿勢づくり</td></tr> <tr><td>2</td><td>相談援助実習の位置づけと内容</td></tr> <tr><td>3</td><td>契約関係のなかにある実習</td></tr> <tr><td>4</td><td>相談援助実習の仕組み</td></tr> <tr><td>5</td><td>個人情報保護／倫理綱領</td></tr> <tr><td>6</td><td>実習先機関・施設、地域の理解</td></tr> <tr><td>7</td><td>利用者理解</td></tr> <tr><td>8</td><td>実習評価の理解</td></tr> <tr><td>9</td><td>記録について</td></tr> <tr><td>10</td><td>援助方法 1</td></tr> <tr><td>11</td><td>援助方法 2</td></tr> <tr><td>12</td><td>援助方法 3</td></tr> <tr><td>13</td><td>援助方法 4</td></tr> <tr><td>14</td><td>実習スーパービジョンの理解</td></tr> <tr><td>15</td><td>口答試験①②③</td></tr> </table>				1	オリエンテーション／実習に向き合う姿勢づくり	2	相談援助実習の位置づけと内容	3	契約関係のなかにある実習	4	相談援助実習の仕組み	5	個人情報保護／倫理綱領	6	実習先機関・施設、地域の理解	7	利用者理解	8	実習評価の理解	9	記録について	10	援助方法 1	11	援助方法 2	12	援助方法 3	13	援助方法 4	14	実習スーパービジョンの理解	15	口答試験①②③
1	オリエンテーション／実習に向き合う姿勢づくり																																
2	相談援助実習の位置づけと内容																																
3	契約関係のなかにある実習																																
4	相談援助実習の仕組み																																
5	個人情報保護／倫理綱領																																
6	実習先機関・施設、地域の理解																																
7	利用者理解																																
8	実習評価の理解																																
9	記録について																																
10	援助方法 1																																
11	援助方法 2																																
12	援助方法 3																																
13	援助方法 4																																
14	実習スーパービジョンの理解																																
15	口答試験①②③																																
〔使用テキスト〕 「社会福祉士 相談援助実習」中央法規		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況20% 授業態度20% 口答試験60%																															
〔参考文献〕																																	

# 平成31年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																														
授業の回数 15駒	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 後期																															
〔授業の目的・ねらい〕 実習機関で行われる実習内容に関する知識を深め、心構えや実習意欲を高める。																																	
〔授業全体の内容の概要〕 ・実習の全体像を伝える ・実習における利用者対象者像を伝える ・実習施設や機関の機能や役割を伝える ・地区診断をシミュレーションする																																	
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ・実習の全体像のイメージができる ・実習における利用者対象者のイメージができる ・実習施設や機関の機能や役割がイメージできる ・実習施設の事前学習の進め方が分かる																																	
〔授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法〕 コマ数																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td>配属先実習機関・施設の理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>配属先の利用者理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>配属先の職員の役割、多職種連携、チームアプローチ</td></tr> <tr><td>4</td><td>施設概要の作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>実習計画について</td></tr> <tr><td>6</td><td>実習計画の作成</td></tr> <tr><td>7</td><td>実習の全体像の振り返り</td></tr> <tr><td>8</td><td>実習で行った支援の振り返り</td></tr> <tr><td>9</td><td>ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める</td></tr> <tr><td>10</td><td>実習評価の理解・今後の学習課題</td></tr> <tr><td>11</td><td>実習報告書の作成 1</td></tr> <tr><td>12</td><td>実習報告書の作成 2</td></tr> <tr><td>13</td><td>実習報告会 1</td></tr> <tr><td>14</td><td>実習報告会 2</td></tr> <tr><td>15</td><td>実習の全体総括</td></tr> </table>				1	配属先実習機関・施設の理解	2	配属先の利用者理解	3	配属先の職員の役割、多職種連携、チームアプローチ	4	施設概要の作成	5	実習計画について	6	実習計画の作成	7	実習の全体像の振り返り	8	実習で行った支援の振り返り	9	ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める	10	実習評価の理解・今後の学習課題	11	実習報告書の作成 1	12	実習報告書の作成 2	13	実習報告会 1	14	実習報告会 2	15	実習の全体総括
1	配属先実習機関・施設の理解																																
2	配属先の利用者理解																																
3	配属先の職員の役割、多職種連携、チームアプローチ																																
4	施設概要の作成																																
5	実習計画について																																
6	実習計画の作成																																
7	実習の全体像の振り返り																																
8	実習で行った支援の振り返り																																
9	ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める																																
10	実習評価の理解・今後の学習課題																																
11	実習報告書の作成 1																																
12	実習報告書の作成 2																																
13	実習報告会 1																																
14	実習報告会 2																																
15	実習の全体総括																																
〔使用テキスト〕 「社会福祉士 相談援助実習」中央法規		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況20% 授業態度20% 口答試験60%																															
〔参考文献〕																																	

# 平成31年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																																
授業の回数	時間数 80時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 通年																																	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>①実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>																																			
<p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>巡回指導等を通して、次に掲げる事項について学生及び実習指導者との連絡調整を蜜に行い、実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成</p> <p>エ 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価</p> <p>オ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>カ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任の理解</p> <p>キ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>ク 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>																																			
<p><b>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</b></p> <p>上記目的・ねらいの達成</p>																																			
<p><b>[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">コマ数</td> <td></td> </tr> <tr><td>1</td><td>16</td></tr> <tr><td>2</td><td>17</td></tr> <tr><td>3</td><td>18</td></tr> <tr><td>4</td><td>19</td></tr> <tr><td>5</td><td>20</td></tr> <tr><td>6</td><td>21</td></tr> <tr><td>7</td><td>22</td></tr> <tr><td>8</td><td>23</td></tr> <tr><td>9</td><td>24</td></tr> <tr><td>10</td><td>25</td></tr> <tr><td>11</td><td>26</td></tr> <tr><td>12</td><td>27</td></tr> <tr><td>13</td><td>28</td></tr> <tr><td>14</td><td>29</td></tr> <tr><td>15</td><td>30</td></tr> </table>				コマ数		1	16	2	17	3	18	4	19	5	20	6	21	7	22	8	23	9	24	10	25	11	26	12	27	13	28	14	29	15	30
コマ数																																			
1	16																																		
2	17																																		
3	18																																		
4	19																																		
5	20																																		
6	21																																		
7	22																																		
8	23																																		
9	24																																		
10	25																																		
11	26																																		
12	27																																		
13	28																																		
14	29																																		
15	30																																		
<p><b>[使用テキスト]</b></p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> (試験やレポートの評価基準など) 授業態度、出席率、提出物、試験等、総合的に評価</p>																																	
<p><b>[参考文献]</b></p>																																			

# 平成31年度 授業概要

科目名 福祉レクリエーション援助技術		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当者 砂橋 昌義
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科 4年 通年	
[授業の目的・ねらい] レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。援助技術を身につけた福祉レクリエーション・ワーカーの育成と資格取得対策。			
[授業全体の内容の概要] 社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカーの育成と資格取得を目指した試験の対策。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の考え方</li> <li>2 レクリエーション財の分類とレクリエーション財をどう生かすかの方策</li> <li>3 レクリエーション財の活動分析の考え方と方法</li> <li>4 活動分析の方法とその分析をどのように活用するかの方策</li> <li>5 障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ</li> <li>6 レクリエーション財のアレンジの実際</li> <li>7 事例からみたレクリエーション財の提供の仕方</li> <li>8 情報収集、人的ネットワーク、社会資源の活用方策</li> <li>9 楽しみを基調とした回想法・音楽療法・園芸療法</li> <li>10 楽しみを基調としたフラワーセラピー・化粧療法・動物介在療法</li> <li>11 楽しみを基調にし、ダンス療法・プレイセラピー</li> <li>12 援助のための対人援助者に求められる資質</li> <li>13 援助のためのコミュニケーション技法</li> <li>14 実践例題(言葉かけとリスニング)</li> <li>15 援助者の人間開発トレーニング</li> <li>16 老人病院でのレクリエーション援助</li> <li>17 老人保健施設におけるセラピューティックレクリエーションの取り組み</li> <li>18 特別養護老人ホームでのレクリエーション援助</li> <li>19 通所としての老人デイサービスセンターでのレクリエーション援助</li> <li>20 ホームヘルプサービス利用者へのレクリエーション援助</li> <li>21 心身障害者施設でのレクリエーション援助</li> <li>22 精神病院でのレクリエーション援助</li> <li>23 知的障害者施設でのレクリエーション援助</li> <li>24 児童施設でのレクリエーション援助</li> <li>25 地域ボランティアとしてのレクリエーション援助</li> <li>26 福祉レクリエーションワーカー・プログラム計画書の作成</li> <li>27 個人への直接のレクリエーション援助の実技試験クリニック</li> <li>28 グループへのレクリエーション援助の実技試験クリニック</li> <li>29 福祉レクリエーションワーカー模擬筆記試験</li> <li>30 福祉レクリエーションワーカー学内審査</li> </ol>			
[使用テキスト] 楽しさの追求を支えるための介入技術 ～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
[参考文献] よく分かる福祉レクリエーションサービス実施 マニュアル 3			

# 平成31年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																														
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 4年 前期																															
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術のとして概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。</p>																																	
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の全体像をふりかえる</li> <li>・実習で行った支援をふりかえる</li> <li>・学んだこと、感じたことをまとめ、整理し、共有する</li> <li>・自己の課題に気づく</li> </ul>																																	
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の全体像をふりかえり、客観的に評価できる</li> <li>・実習で行った支援をふりかえり、今後の支援のイメージが持てる</li> <li>・考察洞察を深め、実習報告会で発表する</li> <li>・自己の課題に気づくことができる</li> </ul>																																	
<p>〔授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">1</td><td>4年次実習のねらいの確認</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td>3年次実習の振り返り、積み残しの確認、倫理綱領</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td>実習機関・施設の概要整理</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td>目的・目標の整理</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td>実習プログラムの作成 1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6</td><td>実習プログラムの作成 2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">7</td><td>実習の全体像の振り返り</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8</td><td>実習で行った支援の振り返り</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">9</td><td>ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">10</td><td>実習評価の理解・今後の学習課題</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">11</td><td>実習報告書の作成 1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12</td><td>実習報告書の作成 2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">13</td><td>実習報告会 1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">14</td><td>実習報告会 2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">15</td><td>実習の全体総括</td></tr> </table>				1	4年次実習のねらいの確認	2	3年次実習の振り返り、積み残しの確認、倫理綱領	3	実習機関・施設の概要整理	4	目的・目標の整理	5	実習プログラムの作成 1	6	実習プログラムの作成 2	7	実習の全体像の振り返り	8	実習で行った支援の振り返り	9	ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める	10	実習評価の理解・今後の学習課題	11	実習報告書の作成 1	12	実習報告書の作成 2	13	実習報告会 1	14	実習報告会 2	15	実習の全体総括
1	4年次実習のねらいの確認																																
2	3年次実習の振り返り、積み残しの確認、倫理綱領																																
3	実習機関・施設の概要整理																																
4	目的・目標の整理																																
5	実習プログラムの作成 1																																
6	実習プログラムの作成 2																																
7	実習の全体像の振り返り																																
8	実習で行った支援の振り返り																																
9	ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める																																
10	実習評価の理解・今後の学習課題																																
11	実習報告書の作成 1																																
12	実習報告書の作成 2																																
13	実習報告会 1																																
14	実習報告会 2																																
15	実習の全体総括																																
〔使用テキスト〕 「社会福祉士 相談援助実習」中央法規		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況20% 授業態度20% 口答試験60%																															
〔参考文献〕																																	

# 平成31年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子																																
授業の回数	時間数 120時間	配当学年・時期 社会福祉科 4年 通年																																	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p>																																			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>巡回指導等を通して、次に掲げる事項について学生及び実習指導者との連絡調整を蜜に行い、実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成</p> <p>エ 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価</p> <p>オ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>カ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任の理解</p> <p>キ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>ク 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>																																			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>上記目的・ねらいの達成</p>																																			
<p>[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">コマ数</td> <td></td> </tr> <tr><td>1</td><td style="text-align: right;">16</td></tr> <tr><td>2</td><td style="text-align: right;">17</td></tr> <tr><td>3</td><td style="text-align: right;">18</td></tr> <tr><td>4</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td>5</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>6</td><td style="text-align: right;">21</td></tr> <tr><td>7</td><td style="text-align: right;">22</td></tr> <tr><td>8</td><td style="text-align: right;">23</td></tr> <tr><td>9</td><td style="text-align: right;">24</td></tr> <tr><td>10</td><td style="text-align: right;">25</td></tr> <tr><td>11</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>12</td><td style="text-align: right;">27</td></tr> <tr><td>13</td><td style="text-align: right;">28</td></tr> <tr><td>14</td><td style="text-align: right;">29</td></tr> <tr><td>15</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> </table>				コマ数		1	16	2	17	3	18	4	19	5	20	6	21	7	22	8	23	9	24	10	25	11	26	12	27	13	28	14	29	15	30
コマ数																																			
1	16																																		
2	17																																		
3	18																																		
4	19																																		
5	20																																		
6	21																																		
7	22																																		
8	23																																		
9	24																																		
10	25																																		
11	26																																		
12	27																																		
13	28																																		
14	29																																		
15	30																																		
<p>[使用テキスト]</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度、出席率、提出物、試験等、総合的に評価</p>																																	
<p>[参考文献]</p>																																			

# 平成31年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">教育原理</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義・演習・実習)</p>	授業担当者 <p style="text-align: center;">渡辺 博文</p>
授業の回数 <p style="text-align: center;">15回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護保育科1年 前期</p>
[授業の目的・ねらい] 教育に対する熱意や倫理、子ども理解、授業指導力、保護者連携など教員・保育士(以下教員等)に求められる資質・能力の基本となる教育の原理に関する理論と実際について学び、教員等に必要となる基本的資質を身につける。		
[授業全体の内容の概要] 教育という営みの歴史的・思想的変遷、我が国の学校教育制度や今後の教育改革、今日の教育事情や保護者の教育及び学校に対する意識などを学び、教育等としての資質及び専門性の向上に資する内容を履修する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 成長・発達期にある子どもに関わる責任の重い、喜びの大きい職務の基本的な視座となる教育の原理を知り、教員等を志すための自己研鑽に努めることができるようになる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 実態調査からみる教育の現状 2 教育の意義と目的 ～教育とは何か①～ 3 諸外国における教育の歴史と思想 ～教育とは何か②～ 4 日本の教育(保育)の歴史と思想 ～学校とは何か①～ 5 学校の成立と学校教育制度の変遷 ～学校とは何か②～ 6 改正教育基本法の背景と要点 ～これから学校教育～ 7 幼稚園教育要領(保育所保育指針)と学習指導要領 8 発達の原理・法則と発達のとらえ方 ～こころとからだを育てる～ 9 子ども理解の視座と方法 ～いじめ・不登校問題を考える～ 10 学習理論と教育活動 ～よりよい授業の在り方を考える～ 11 教師の資質と仕事・役割 12 教育の原点とされる特別支援教育とは 13 学校教育と児童福祉の在り方 ～子どもの権利条約・児童虐待から考える～ 14 現代社会とこれからの教育の諸課題 ～社会教育・生涯教育とは～ 15 まとめ		
[使用テキスト] ・田嶋 一 他編著 やさしい教育原理 有斐閣アルマ	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  広島福祉専門学校学則第26条による。(出席状況・考査・学習態度)	
[参考文献] ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領 ほか		

# 平成31年度 授業概要

科目名 児童家庭福祉		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 後期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもしっかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 テキストを中心に進めるが、単元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』)</li> <li>2 現代社会と子ども家庭の問題</li> <li>3 子どものための福祉の原理</li> <li>4 日本の児童福祉の歴史</li> <li>5 戦後の児童福祉の歩み</li> <li>6 児童福祉法</li> <li>7 児童相談所と関連機関</li> <li>8 児童福祉施設</li> <li>9 児童の社会的養護サービス</li> <li>10 児童虐待の定義</li> <li>11 児童虐待の実態</li> <li>12 子どもを虐待から保護する仕組み</li> <li>13 子ども家庭への相談援助活動</li> <li>14 施設ケアの内容</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>			
<p>〔使用テキスト〕 社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(中央法規出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕</p>			

## 平成31年度 授業概要

科目名 情報機器の操作 I		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 西津 和幸
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 後期	
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーソナルコンピュータの基本操作と実践的な文書作成</li> <li>・ワープロソフト・表計算ソフトを効率的に操作する技術の修得</li> </ul>			
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>①Windows 基本操作(マイコンピュータ・フォルダの管理)</li> <li>②ワープロソフト(ビジネス文書の作成・図形)</li> <li>③表計算ソフトの活用</li> </ul>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロソフト及び表計算ソフトの基本操作を習得する。</li> <li>・ビジネス文書の基本構成を理解する。</li> </ul>			
[授業終了時の日程と各階のテーマ・内容・授業方法] <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・Windows の起動・タイピングソフトの使い方</li> <li>2. Microsoft Word の基本操作・文字入力</li> <li>3. 文章入力</li> <li>4. 編集機能(ボールド体・囲み線・イタリック体・フォントの種類等)</li> <li>5. 編集機能(右寄せ・センタリング・倍角文字等)</li> <li>6. 簡単なビジネス文書の作成</li> <li>7. 表の挿入</li> <li>8. 実技試験(Word)</li> <li>9. Microsoft Excel の基本操作</li> <li>10. 関数1(合計・平均)体裁</li> <li>11. 表示・絶対番地 4級</li> <li>12. 関数2(最大・最小・件数)</li> <li>13. 関数3(条件分岐)</li> <li>14. 関数4(並べ替え・順位付け) 3級</li> <li>15. 実技試験(Excel)・筆記試験</li> </ol>			
[使用テキスト] <ul style="list-style-type: none"> <li>・30時間でマスター Word・Excel2016(実教出版)</li> </ul>		[単位認定の方法及び基準] <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験・実技試験・出席点・FD・課題ファイル提出・検定受験を考慮し、総合的に評価する。</li> </ul>	
[参考文献]			

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 講義		授業担当者 森川 史恵	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (15コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>より良い人間関係を形成するために、人間関係に影響を及ぼす因子について学習する。</li> <li>より良い人間関係を形成するために、人間関係の障壁になる因子について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、コミュニケーションの構成要素について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、傾聴テクニックについて学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、言語的コミュニケーションの基本について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、非言語コミュニケーションの基本について学習する。</li> <li>円滑なコミュニケーションを行うために、電話でのコミュニケーションの基本について学習する。</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人間関係に影響を及ぼす因子について理解する。</li> <li>人間関係の障壁になる因子について理解する。</li> <li>コミュニケーションの構成要素について理解する。</li> <li>傾聴テクニックについて理解する。</li> <li>言語的コミュニケーションの基本について理解する。</li> <li>非言語コミュニケーションの基本について理解する。</li> <li>電話でのコミュニケーションの基本について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●人間関係の形成	1	人間関係の形成 1	人間関係の形成にとって必要なことについて、これまでに学んだこと及び学生自らの体験に照らし、考える	講	
	2	人間関係の形成 2		講	
	3	支援関係における人間関係の形成	支援関係における人間関係形成の必要性について	講	
	4	人間関係に影響を及ぼす因子	偏見、欲求不満、行動、人生経験	講	
	5	人間関係形成の障壁となるもの	ラベリング、感覚器障害、言語不明瞭	講	
	6	人間関係とコミュニケ	対人関係におけるコミュニケーション(準言語・非言語)について	講	
●コミュニケーションの基礎	7	コミュニケーションの構成因子	メッセージ、送り手、受け手	講	
	8	受容・共感・傾聴	これまで学んだ言語的・準言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、「受容的」、「共感」、「傾聴」を学ぶ	講	
	9	言語的コミュニケーション①	受動的、能動的、攻撃的コミュニケーション	講	

10	言語的 コミュニケーション②	適切な敬語の練習、質問及び言葉が利用者に及ぼす影響を考える	講
11	記述による コミュニケーション	模擬的記録を作成し、記録作成留意点を確認する。また、記録の活用場面を鑑みて、記録の重要性を考える	講
12	非言語的 コミュニケーション①	適切な表情・目線・動作・姿勢・装い等を考える	講
13	非言語的 コミュニケーション②	適切な対人距離・位置を考える	講
14	電話での コミュニケーション	電話の応対	講
15	模擬面談	生活・介護場面における相談場面を想定し、模擬面接を行う	ロール プレイ
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 人間の理解」(メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「コミュニケーション学入門」(松柏社) 「声かけ・応答ハンドブック」(中央法規)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護の基本 I-2		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 45回	<b>時間数(単位数)</b> 90時間 (45コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 社会福祉、介護福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について学習する。 2. 介護福祉の基本的理念について学習する。 3. 介護福祉の対象となる人について学習する。 4. 介護福祉サービスについて学習する。 5. 他職種との連携、共働について学習する。 6. 介護福祉の倫理について学習する。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 社会福祉、介護福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について理解する。 2. 介護福祉の基本的理念について理解する。 3. 介護福祉の対象となる人について理解する。 4. 介護福祉サービスについて理解する。 5. 他職種との連携、共働について理解する。 6. 介護福祉の倫理について理解する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護福祉士を取り巻く状況	1	オリエンテーションー 介護福祉士のイメージ	授業の内容と進め方。介護・介護福祉士に対するイメージを膨らませる	講	
	2	介護福祉士を取り巻く状況①	世界の中の日本、少子高齢化と社会福祉、社会保障	講	
	3	介護福祉士を取り巻く状況②介護の歴史	日本の介護の歴史 養老院、寮母、家庭奉仕員、家族中心の介護措置制度	講	
	4	介護福祉士を取り巻く状況③介護問題の背景	平均寿命、合計特殊出生率、少子高齢化の推移、核家族化、女性の社会進出、家族機能の変化	講	
	5	介護福祉士を取り巻く状況④介護問題の背景	老老介護、高齢者の自殺、介護殺人・心中、高齢者虐待の実態と背景	講	
	6	介護福祉士を取り巻く状況⑤介護問題の背景	生活の価値観の変化、2015年の高齢者像、団塊の世代、介護保険制度の改正、尊厳の保持	講	
	7	介護福祉士を取り巻く状況⑥	利用者中心主義、身体拘束禁止、事故処理、苦情処理	講	
	8	介護福祉士を取り巻く状況⑦	労働環境、介護者の不足	講	
●介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法の改正、介護福祉士の定義、心身の状況に応じた介護	講	

	1 0	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ② 社会福祉士及び介護福祉士法 専門職能団体の活動	介護福祉士の専門性、名称独占・業務独占、専門職能団体の活動、日本介護福祉士会倫理綱領	講
	1 1	介護実践における連携① 多職種連携（チームアプローチ）	介護を必要とする人の持つ生活課題の理解、介護実践するための職種の理解	講
	1 2	介護実践における連携② 多職種連携（チームアプローチ）	生活課題解決のための多職種連携の必要性	講
	1 3	介護実践における連携③ 多職種連携（チームアプローチ）	介護福祉士の気づきをどのように連携につなげるか（具体的な事例をもとに）	講
	1 4	介護実践における連携④ 多職種連携（チームアプローチ）	他の職種から期待される連携のあり方と介護福祉士の役割	講
	1 5	介護実践における連携⑤ 地域連携	在宅重視、生活の場、地域連携の意義目的、利用者の生活する場・周辺のインフォーマルサービスの機能と連携	講
	1 6	介護実践における連携⑤ 地域連携	障害を持って1人で在宅生活を送っている人がどのような生活を願い実践しているか	講
	1 7	介護実践における連携⑥ 地域連携	在宅重視、地域包括支援センターとの連携、市町村・都道府県の機能と役割	講
●尊厳を支える介護	1 8	尊厳を支える介護① 介護のイメージ	「介護とは何か」、「家族とは」、「老いとは」、「生老病死」、ともに学びあう行為としての介護	講
	1 9	尊厳を支える介護② 介護とは何 QOL	人間尊重・人間の尊厳について、介護の本質・特性、QOLの考え方、自己実現の過程、潜在的可能性・発達の可能性	講
	2 0	尊厳を支える介護③ ノーマライゼーション	平等主義・機会均等の思想に立脚したノーマライゼーションの考え方、歴史的背景と概念、ノーマライゼーションの実現	講
	2 1	尊厳を支える介護④ 利用者主体	「主体性尊重の原理」、「選択意思の尊重」、利用者主体の考え方とその具体的な取り組み	講
●自立に向けた介護	2 2	自立に向けた介護① 自立支援	自立・自律の考え方、自己決定・自己選択、自立生活の概念、自立支援の考え方	講
	2 3	自立に向けた介護② 自立支援	自立支援の具体的展開、生活意欲への働きかけとエンパワメント	講

	24	自立に向けた介護③ 個別ケア	「個別化の原理」、個別ケアの考え方 とその具体的な展開	講
	25	自立に向けた介護④ ICF	ICF（国際生活機能分類）の考 え方、ICFの視点に基づく利用者の アセスメント	講
	26	自立に向けた介護⑤ リハビリテーション	リハビリテーションの考え方・概念・ 実際 ①病院・施設におけるリハビリテ ーション、。 ②在宅におけるリハビリテ ーション、。	講
	27	自立に向けた介護⑥ リハビリテーション	見学、。	講
	28	自立に向けた介護⑦ リハビリテーション	③介護予防、リハビリテーション専 門職との連携	講
	29	介護従事者の倫理① 職業倫理	介護の持つ倫理性、介護と人権、介 護福祉士の倫理性	講
	30	介護従事者の倫理② 利用者の人権と介護	身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐 待、その他	講
	31	介護従事者の倫理③ プライバシーの保護・まとめ	個人情報保護、プライバシーの保護、 「介護」とは？	講
●介護を必要とする人の 理解	32	介護を必要とする人の 理解②高齢者の生活	人間の多様性・複雑について①	講
	33	介護を必要とする人の 理解③生活習慣と生活様式	人間の多様性・複雑について②	講
	34	介護を必要とする人の 理解④生活のリズム	高齢のくらしの理解の実際①	講
	35	介護を必要とする人の 理解⑤住まいと環境	高齢のくらしの理解の実際②	講
	36	介護を必要とする人の 理解⑥余暇活動	高齢のくらしの理解の実際③	講
	37	介護を必要とする人の 理解⑦レクリエーション	高齢のくらしの理解の実際④	講
	38	介護を必要とする人の 理解⑧障害者支援	障害のある人のくらしの理解①	講
	39	介護を必要とする人の 理解⑨各種保険年金	障害のある人のくらしの理解②	講
	40	介護を必要とする人の 理解⑩介護保険	障害のある人のくらしの理解③	講
	41	介護を必要とする人の 理解⑪生活環境	障害のある人のくらしの理解④	講
	42	介護を必要とする人の 理解⑫家族の役割	障害のある人のくらしの理解⑤	講
	43	介護を必要とする人の 理解⑬地域の結びつき ①	障害のある人のくらしの理解⑥	講

4 4	介護を必要とする人の理解④地域の結びつき②	障害のある人のくらしの理解⑦	講
4 5	まとめ	高齢者のくらしを振り返る、介護福祉士と高齢者について	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護の基本」(メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 講義		授業担当者 山崎 年幸	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種共働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは何かについて学習する。</li> <li>2. 言語コミュニケーションについて学習する。</li> <li>3. 非言語コミュニケーションについて学習する。</li> <li>4. 面接技法について学習する。</li> <li>5. 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて学習する。</li> <li>6. 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて学習する。</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは何かについて理解する。</li> <li>2. 言語コミュニケーションについて理解する。</li> <li>3. 非言語コミュニケーションについて理解する。</li> <li>4. 面接技法について理解する。</li> <li>5. 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて理解する。</li> <li>6. 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護におけるコミュニケーションの基本	1	オリエンテーション	授業概要の説明。グループ分けと関係づくり	講	
	2	介護におけるコミュニケーションの基本①	・介護におけるコミュニケーションの意義と目的 ・メッセージの共有	講	
	3	介護におけるコミュニケーションの基本②	・介護におけるコミュニケーションの役割 ・コミュニケーション効果	講	
	4	介護におけるコミュニケーションの基本③	利用者・家族との関係づくり	講	
	5	介護におけるコミュニケーションの基本④	非言語コミュニケーション	講	
	6	介護におけるコミュニケーションの基本⑤	援助者としての自己理解を深める	講	
	7	介護におけるコミュニケーションの基本⑥	価値観と他者への理解	講	
●介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①	話を聴く技法(傾聴)	講 演	
	9	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②	話を聴く技法(受容)	講 演	

	1 0	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション③	話を聴く技法（共感）	講 演
	1 1	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション④	話を聴く技法（質問の技法）	講 演
	1 2	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑤	話を聴く技法（相づち、繰り返し、明確化、要約）	講 演
	1 3	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑥	話を聴く技法（沈黙）	講 演
	1 4	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑦	利用者の感情表現を察する技法	講 演
	1 5	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑧	利用者の納得と同意を得る技法	講 演
	1 6	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑨	利用者への助言と指導	講 演
	1 7	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑩	利用者の意欲を引き出す技法	講 演
	1 8	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑪	利用者本人と家族の意向の調整を図る技法	講 演
	1 9	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑫	感覚機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 0	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑬	運動機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 1	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑭	認知・知覚機能が低下している人とのコミュニケーション	講 演
	2 2	介護場面における利用者・ 家族とのコミュニケーション⑮	コミュニケーション再考と学習方法	講
●介護におけるチームのコミュニケーション	2 3	介護におけるチームのコミュニケーション①	対人援助職種間のコミュニケーション	講
	2 4	介護におけるチームのコミュニケーション②	介護における記録の意義・目的、記録の管理、共有化と活用	講
	2 5	介護におけるチームのコミュニケーション③	介護に関する記録の種類、方法、留意点	講
	2 6	介護におけるチームのコミュニケーション④	情報通信技術（IT）を活用した記録の意義、活用の留意点	講

27	介護におけるチームのコミュニケーション⑤	報告の意義・目的、報告・連絡・相談の方法、留意事項	講
28	介護におけるチームのコミュニケーション⑥	会議の意義・目的、会議の種類	講
29	介護におけるチームのコミュニケーション⑦	会議の方法・留意点	講
30	まとめ	これまでの授業をふまえてのまとめ。	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 コミュニケーション技術」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「コミュニケーション学入門」(松柏社) 「声かけ・応答ハンドブック」(中央法規)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術 I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 森脇 克樹 上原 尚子 後藤 和子 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間 (30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 1年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. ICF と生活支援の関連について学習する。 2. 居住環境に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 家事に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. ICF と生活支援の関連について習得する。 2. 居住環境に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 家事に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●生活支援	1	人生と生活	人生・生活とは	講	
	2	生活環境	社会福祉の法と在宅・施設	講	
	3	生活支援	ICF における生活支援と多職種共働、自立とは	講	
	4	生活支援における理念、倫理と法	生活支援における理念、倫理と法	講	
	5	生活支援における対人援助技術	生活支援における対人援助技術	講	
	6	生活支援における他職種共働	多職種共働とチームケア	講	
●自立に向けた居住環境の整備	7	居住環境整備の意義と目的	生活における居住環境整備の意義と目的	講	
	8	居住環境のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講	
	9	環境整備	環境整備とバリアフリー	講	
	10	事故防止	転倒・転落防止、外傷防止、火傷防止、ボディメカニクス	講 演	
	11	身体拘束の禁止と事故防止	身体拘束の禁止と事故防止、事故処理	講	
	12	火事・災害防止	火事・災害防止	講	
	13	感染防御	細菌、ウイルス、感染防御の基本	講	
	14	安全で心地よい生活の場づくり	安全で心地よい生活の場づくり、バリアフリー、住宅改修	講	
	15	居住環境整備	居住環境整備	演	
●自立に向けた家事の介護	16	家事の意義	生活における家事の意義	講	
	17	家事に関する利用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講	

18	家事の支援①	調理①	講演
19	家事の支援②	調理②	講演
20	家事の支援③	調理③	講演
21	家事の支援④	洗濯①	講演
22	家事の支援⑤	洗濯②	講演
23	家事の支援⑥	掃除・ゴミ捨て	講演
24	家事の支援⑦	掃除・ゴミ捨て	講演
25	家事の支援⑧	裁縫①	講演
26	家事の支援⑨	裁縫②	講演
27	家事の支援⑩	衣類・寝具の衛生管理	講演
28	家事の支援⑪	買い物	講演
29	家事の支援⑫	家庭経営、家計の管理	講演
30	多職種共働	家事支援における多職種共働	講
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 生活支援技術Ⅰ」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習 I		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 野村 裕之	
<b>授業の回数</b> 6日間	<b>時間数(単位数)</b> 4.5時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 後期		<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 訪問介護事業所、通所介護事業所、グループホームでの実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者や障害者に関わる</li> <li>2. 施設の役割を理解し、業務の流れを学ぶ</li> <li>3. 利用者の日々の変化、日内変化を知る</li> <li>4. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>5. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> </ol> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設・事業等を体験し、施設などの機能や基本的なケアを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特徴や支援体制を把握する。</li> <li>・利用者の疾病や障害を学習する。</li> <li>・介護職の業務の流れを理解する。</li> <li>・マナーや職務規定を理解して守る。</li> </ul> </li> <li>2. 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の程度や思いに応じた介護技術を丁寧に判断、実施し、毎日の技術を自己評価する。</li> <li>・基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。</li> </ul> </li> <li>3. 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活やそのリズムを知る。</li> <li>・利用者と積極的にコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションが心身の活性化に及ぼす影響について考察する。</li> </ul> </li> <li>4. 多様な介護サービスの中で多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や申し送り等の場面で健康や生活に関する問題について知る。</li> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> </ol>				
<p><b>【使用テキスト】</b> 「実習のしおり」 広島福祉専門学校 「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>			<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>	

# シラバス

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者	
こころとからだのしくみI		講義	崎井 真弓	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
15回	30時間 (15コマ)	介護保育科1年 前期	必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            こころのしくみについて、心理学的理解と脳科学的理解を深める。それによって、こころについての既知と未知の知識を整理できるようにする。さらに介護で自己や他者のこころを考慮する上において、既知の部分については知識を応用できる能力を養い、未知の部分については誤用を避けることができる能力を養う。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こころ」の心理学的、精神医学的、脳科学的理解の相違を理解する。</li> <li>2. 精神分析学の歴史と理論を理解する。</li> <li>3. 行動主義心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>4. 認知心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>5. 人間性心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>6. 発達心理学の歴史と理論を理解する。</li> <li>7. 脳機能からみたこころを理解する。</li> <li>8. 精神医学的にみたこころを理解する。</li> <li>9. 死の受容について学ぶ。</li> <li>10. 介護業務上での知識の応用を学ぶ。</li> </ol>				
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●こころのしくみの理解	1	こころとは何か	こころの心理学的、精神医学的、脳科学的理解	講
	2	心理学の歴史	心理学の歴史	講
	3	精神分析学①	精神分析学の歴史と精神分析的心理学モデル①	講
	4	精神分析学②	精神分析学の歴史と精神分析的心理学モデル②	講
	5	行動主義心理学①	行動主義心理学の歴史と行動理論的心理モデル①	講
	6	行動主義心理学②	行動主義心理学の歴史と行動理論的心理モデル②	講
	7	認知心理学①	認知心理学の歴史と認知心理モデル①	講
	8	認知心理学②	認知心理学の歴史と認知心理モデル②	講
	9	人間性心理学	人間性心理学の歴史と理論	講
	10	発達心理学①	発達心理学①	講

	1 1	発達心理学②	発達心理学②	講
	1 2	ストレスとコーピング	ストレスとコーピング	講
	1 3	脳とこころ①	大脳皮質の機能局在	講
	1 4	脳とこころ②	脳と精神症状	講
●死にゆく人のこころと からだのしくみ	1 5	死の受容	死の受容過程	講
<b>【使用テキスト】</b> 「介護福祉学5こころとからだのしくみ」中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社 「からだのしくみ事典」成美堂			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# 平成31年度 授業概要

科目名 健康・スポーツ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 木嶋 眞之祐
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 I年 前期	
[授業の目的・ねらい] 健康と身体活動の関係について、基本的な生活習慣・発育段階における運動の量と質・目的に応じたトレーニング内容等それぞれの視点から考え、人生におけるスポーツ活動の役割を理解する。また、実技においてはバドミントン・バレーボール及び体力づくり運動などを実践し、各種競技の公式なルールを学ぶとともに、それを行う人の年齢や体力によってどのような特別ルールが必要かを考える。			
[授業全体の内容の概要] 歩く、走る、跳ぶ、投げる、掴むなどの基礎的な動作を各種の運動やスポーツに発展させることの必要性を知り、発育段階やその場の環境に適応した身体活動を効率的に展開していく方法を理解させる。さらに、そのようにして得た体力や適応力を現代社会の中でどのように発揮し、よりよい健康的な生活に結びつけていくかを考察する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 運動スポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]コマ数			
1 健康であるとは1 2 健康であるとは2 3 生活習慣病について 4 こころの健康について 5 福祉社会と健康 6 人生と基本的な生活習慣とスポーツ 7 発育段階に応じた運動とトレーニング方法 8 バドミントン 9 バドミントン 10 バレーボール 11 バレーボール 12 ソフトボール 13 ソフトボール 14 体力づくり運動 15 体力づくり運動			
[使用テキスト] 大学生の健康・スポーツ科学研究会 「大学生の健康・スポーツ科学 第5版」道和書院		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  試験、レポートの成績だけでなく、授業への取り組み態度や意欲等も評価の対象とする。	
[参考文献]			

# 平成31年度 授業概要

科目名 レクリエーション理論		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当 砂橋 昌義
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 介護保育科 1年 前期	
【授業の目的・ねらい】 レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。			
【授業全体の内容の概要】 介護福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につける			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。			
【授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法】 コマ数 1.レクリエーションの意義 2.レクリエーション・インストラクターの役割 3.楽しさを通じた心の元気づくり 4.ライフステージと対象にあわせた心の元気づくり 5.心の元気と地域のきずな 6.人間交流のための交流分析(TA) 7.コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 8.良好な集団作りの理論 9.自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 10.レクリエーション活動の安全管理			
【使用テキスト】 楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 公益財団法人日本レクリエーション協会編		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)  出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
【参考文献】			

# 平成31年度 授業概要

<b>科目名</b> レクリエーション・ワーク(実技・実習)	<b>授業の種類</b> (実技・演習)	<b>授業担当者</b> 砂橋 昌義
<b>授業の回数</b> 25駒	<b>時間数</b> 50時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 1年 通年
<b>【授業の目的・ねらい】</b> レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける		
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 福祉支援者として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。 また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を通して支援技術を身につける。		
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 福祉現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。		
<b>【授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法】</b> コマ数 <ol style="list-style-type: none"> <li>1.レクリエーション事業とは</li> <li>2.事業計画Ⅰ(個人にアプローチする事業のつくり方)</li> <li>3.事業計画Ⅱ(市民を対象にした事業のつくり方)</li> <li>4.事業計画の作成と発表</li> <li>5.コミュニケーションワーク ～ホスピタリティとは～</li> <li>6.コミュニケーションに必要な態度等</li> <li>7.ホスピタリティの示し方</li> <li>8.アイスブレイキングの意義と基本技術</li> <li>9.アイスブレイキングのプログラミング</li> <li>10.アイスブレイキングのプログラムの立案</li> <li>11.レクリエーションワークの理解</li> <li>12.目的に合わせたレクリエーションワーク</li> <li>13.素材アクティビティの選択</li> <li>14.素材アクティビティの提供と相互作用の活用</li> <li>15.対象にあわせたレクリエーションワークの基本技術</li> <li>16.段階的アレンジ法の応用</li> <li>17.歌を活かすレクリエーションワークの応用</li> <li>18.ゲーム等を活かすレクリエーションワークの応用</li> <li>19.テキストで使われている素材アクティビティ</li> <li>20.総合演習の進め方(イベントプログラムの作成)</li> <li>21.イベントプログラムの試行(対人交流技術)</li> <li>22.レクリエーション支援技術のクリニック</li> <li>23.人間開発トレーニングⅠ(情報管理・的あてゲーム)</li> <li>24.人間開発トレーニングⅡ(リーダーシップ・スリーテン)</li> <li>25.レクリエーション技術研修のまとめ</li> </ol>		
<b>【使用テキスト】</b> 楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 公益財団法人日本レクリエーション協会編	<b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
<b>【参考文献】</b>		

# 平成31年度 授業概要

<b>科目名</b> 保育内容総論	<b>授業の種類</b> 演習	<b>授業担当者</b> 富田 雅子
<b>授業の回数</b> 15回	<b>時間数</b> 30時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 1年 後期
[授業の目的・ねらい] 教科目の教授内容<目的> 1 保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。 2 保育内容の歴史的な変遷について学び、保育内容について理解する。 3 子どもや子ども集団の、発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容や子どもとのかかわりについて学ぶ。 4 子どもの生活全体を通して、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(領域:健康・人間関係・環境・言葉・表現)が一体的に展開することを具体的に保育の実践につなげて理解する。 5 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。		
[授業全体の内容の概要] 1 保育の基本と保育内容 2 保育内容の歴史的変遷 3 保育内容と子ども理解 4 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5 多様な保育等		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保育内容の5つの領域(「養護」的内容が加わる)は保育実践で分断されて行われるのではなく一体的に行なわれるものであると理解する。具体的な生活や学びの中に、それらが丸ごと含まれていることを理解していき、実践の中で総合的に捉えていく視点を持って保育を進めて行く事ができる様になる。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] 1 保育内容総論とはなにか ・保育の基本 科目全体の内容の確認をする。 2 保育内容の意味 保育所保育指針に基づく保育内容の領域について確認する。 3 保育内容の変容とその背景 保育内容の歴史的な内容について確認する。 4 保育方法と保育内容 多様な保育形態、保育方法、内容を確認する。 多様な保育ニーズと、地域と家庭との相互関係について身近なものを挙げて考察をする。 5 子どもの育ちをどのように見るか 子どもの育ち・発達・遊び・環境について事例や映像等から考える。 保育場面等をグループで話し合う。 6 3歳児未満時の保育内容と指導計画のポイント 3歳児未満児の保育内容と保育所保育指針との関係を見る。 保育指導計画の作成のポイントを整理確認。 7 3・4・5歳児の保育内容と指導計画のポイント 3・4・5歳児の保育内容を整理し、保育所保育指針との関係を見る。 3・4・5歳児の指導計画の作成のポイントを整理・確認をする。 8 1・2歳児の保育の展開について 1・2歳児の保育の展開についてポイントを整理していく。 9 年少児の保育展開について 年少児の保育の展開について事例などからポイントを整理する。 10 年中児の保育展開について 年中児の保育展開について事例などからポイントを整理する。 11 年長児の保育展開 について 年長児の保育展開について事例などからポイントを整理する。 12 学校教育の基本としての保育 13 多様な保育 14 保育内容の振り返り 15 ノート整理及び、内容振り返り		
[使用テキスト] 関口はつえ・岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価規準など) ・復習等の振り返り、考察ができていないか、最終時に全プリントへの記入、整理内容を確認。(総点のうちの40点満点、紛失・記入無し・書き方の不備等を減点対象とする) ・最終講義に試験を行う。 ・設題数20問(60点満点) ・内容については、教科書・配布物・講義中に重要としたことより出題。	
[参考文献] 厚生労働省『保育所保育指針』 倉橋惣三『倉橋惣三選集』フレーベル他		

# 平成31年度 授業概要

<b>科目名</b> 保育実習指導 I (事後)(保育所)		<b>授業の種類</b> (講義・演習)	<b>授業担当者</b> 池田 淑子
<b>授業の回数</b> 8コマ	<b>時間数</b> 16時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科 2年 後期	
<b>[授業の目的・ねらい]</b>  保育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
<b>[授業全体の内容の概要]</b> ・保育実習の振り返りと自己評価。 ・実習報告レポートの作成。 ・次の実習課題の作成。			
<b>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</b>  保育実習の総括を行う。			
<b>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</b> コマ数 1 自己の実習を振り返り、自習記録の整理。 2 実習レポートの作成。 3 自己課題の振り返りと振り返りレポートの作成。 4 " " 5 実習事後報告会。 6 実習事後報告会。 7 自己評価と次の実習課題の作成。 8 「評価表」による個別面接指導。			
<b>[使用テキスト]</b> 関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書  福本俊『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> (試験やレポートの評価基準など)  出席状況 授業態度	
<b>[参考文献]</b> 汐見稔幸監修『保育所保育指針ハンドブック』2017告示版 学研  子櫃智子他著『幼稚園・保育所・認定子ども園パーフェクトガイド』わかば社			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育実習指導 I (事前)(保育所)		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 池田 淑子
授業の回数 8 駒	時間数 16時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解する。保育現場の保育を体験的かつ実践的に学ぶことができるように、必要な準備について、講義や資料請求を通して具体的に知り、実践する実際に保育の記録・指導計画を書いてみる。また、保育に必要な教材について調べ、活用方法を理解し実践してみる。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義・目的について理解し、自らの課題を明確にする。</li> <li>・観察や記録の仕方・内容について理解する。</li> <li>・実習の心構えや意欲的に学ぶ姿勢を身につける。</li> </ul>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>保育実習 I に臨むための基礎的な理解を図る。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の意義(実習目的・実習概要・留意事項)を理解する。(関係書類作成)</li> <li>2 保育所の機能と役割・事前訪問について。自己課題を明確にする。</li> <li>3 保育所保育の実際、保育の一日の流れを知り理解する。</li> <li>4 実習日誌の意義と記録方法、保育士の職務と子ども観察のポイントを学ぶ。</li> <li>5 教材と保育において教材を生かす方法を知る。</li> <li>6 保育の記録の書き方及び指導計画作成の考え方と立案手順について学ぶ。</li> <li>7 保育記録を書いてみる。</li> <li>8 部分指導案、一日指導案の作成。実習直前指導(心構えと準備の確認)。</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書</p> <p>福本俊『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席状況 授業態度</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>汐見稔幸監修『保育所保育指針ハンドブック』2017告示版 学研</p> <p>子櫃智子他著『幼稚園・保育所・認定子ども園パーフェクトガイド』わかば社</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">社会的養護</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">講義</p>	授業担当者 <p style="text-align: center;">上栗 明男</p>
授業の回数 <p style="text-align: center;">15回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護保育科 2年 後期</p>
【授業の目的・ねらい】 児童養護における家庭養育と社会的養護の関係および役割を理解しながら、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について理解する。殊に児童福祉施設が持つ「集団生活の利点」についての積極的意義についても、実践例を紹介しながら学ぶ。		
【授業全体の内容の概要】 テキストを中心に授業を進めるが、入所児童の作文集を紹介したり、映画を視聴する。		
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。		
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』)</li> <li>2 児童養護と施設養護</li> <li>3 社会的養護の変遷</li> <li>4 映画「石井のおとうさんありがとう」(前編)</li> <li>5 映画「石井のおとうさんありがとう」(後編)</li> <li>6 現代の社会的環境と児童の問題</li> <li>7 児童養護の原理</li> <li>8 施設集団のもつ利点</li> <li>9 援助技術の実践的スキル</li> <li>10 日常生活の援助「衣食住」</li> <li>11 インケアとアフターケア</li> <li>12 児童相談所及び関係機関との連携</li> <li>13 保育者としての資質</li> <li>14 望ましい保育者像</li> <li>15 まとめとレポート作成</li> </ol>		
【使用テキスト】 小野澤昇他 子どもの生活を支える社会的養護 <p style="text-align: center;">ミネルヴァ書房</p>	【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 科目終了試験ポイント①～⑤を試験として実施し、その結果を基準とするが、授業中の質疑応答の内容も加味する。	
【参考文献】 山縣文治他 よくわかる社会福祉 ミネルヴァ書房 新社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度 中央法規出版 片山義弘 相談援助 北大路書房		

# 平成31年度 授業概要

科目名 社会的養護内容		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 後期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 各事例から養護問題の実際を正しく認識し、施設入所児童の入所に至った経緯を体験的に理解して、より実践的なケアワーカーとしての感覚を養う。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 要養護児童・被虐待児童・情緒的問題を抱える児童について、事例研究や事例問題を通してその社会的背景や家庭的背景をさぐり、そして子ども役と援助者役を演ずる模擬面接により子どもが抱える問題とその対応方法について学ぶ。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 面接技法とコミュニケーション技法</li> <li>2 模擬面接 事例1「家出・非行をもった女兒のケース」</li> <li>3 " 事例2「不登校・非行をもった男児のケース」</li> <li>4 " 事例3「家庭内暴力・非行をもった女兒のケース」</li> <li>5 " 事例4「性的虐待を受けた女兒のケース」</li> <li>6 虐待が与える子どもへの影響</li> <li>7 タイムアウト法(ビデオ視聴)</li> <li>8 セラピューティックホールド法(ビデオ視聴)</li> <li>9 ビデオ視聴による記録の取り方</li> <li>10 子ども虐待のサインとチェックポイント</li> <li>11 作詩療法 事例5「被虐待児童の詩」</li> <li>12 児童自立支援計画表作成 事例6「児童自立支援施設における援助」</li> <li>13 事例研究 事例7「息子を好きになれない母親」</li> <li>14 児童福祉施設接遇マニュアル</li> <li>15 まとめとレポート作成</li> </ol>			
<p>〔使用テキスト〕 小田兼三他 養護内容の理論と実際 ミネルヴァ書房</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) レポートを基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー・質問に対する応答等10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕 「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会 こどもが語る施設の暮らし 明石書店 長谷川真人 児童養護施設の子どもたちはいま—過去・現在・未来を語る— 三学出版</p>			

## 平成31年度 授業概要

科目名 こどもの食と栄養		授業の種類 (講義・演習(実習))	授業担当者 奥田 和子
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい] 小児期における食物の内容が、小児の発育の健康を左右する要因であることを学ぶ。 また保育指導者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深める。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要] 1、小児の心身の健やかな成長に対する、栄養の重要性と、学問的基礎について理解する。 2、食生活全般の知識と調理技術も理解する。 3、小児の成長は著しく発育、発達をとげる、乳児期の栄養「母乳」が「こころ」と「からだ」のバランスのとれた最も優れた栄養であることを理解する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保育指導者として必要な、小児の栄養を中心とした実践力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 こどもの食と栄養概論</li> <li>2 小児の健康な生活と食生活の意義</li> <li>3 小児の発育、発達と栄養、食生活</li> <li>4 五大栄養素と食生活の基礎知識</li> <li>5 ビタミンと無機質の働き</li> <li>6 妊娠、授乳期の栄養と食生活</li> <li>7 乳児期の栄養と食生活</li> <li>8 離乳の意義と進め方、注意事項</li> <li>9 幼児期の栄養と食生活</li> <li>10 学童期、思春期の栄養と食生活</li> <li>11 小児の病気と食生活と食育について</li> <li>12 障害がある小児の食生活</li> <li>13 児童福祉施設における食生活</li> <li>14 離乳食実習</li> <li>15 試験・こどもの食と栄養まとめ</li> </ol>			
<p>[使用テキスト] 保育士養成講座 第8巻 こどもの食と栄養</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席状況、レポート、ノート提出、期末試験により総合評価します。</p>	
<p>[参考文献] 「新小児栄養実習書」 医歯薬出版 「小児栄養」 近畿大学豊岡短大 「食品成分表」 教育図書</p>			

# 令和1年度 授業概要

科目名 障害児保育		授業の種類 (講義)	授業担当者 鏡原 崇史
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>近年、個のニーズに合わせた保育への関心が高まってきている。本科目では、人間発達の理論と保育実践の方法論をふまえた講義を行う。まず講義前半では、発達理論及びさまざまな障害の特性、また、障害・保育に関わる法律・制度を学ぶ。そして、後半では、障害の特性や個のニーズに合わせた保育・支援方法を学ぶ。また、授業の中では、単に講義を聞くだけでなく、事例を使った課題やグループ・ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れ、汎用性の高い実践力を養うことをねらいとする。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①障害に関わる法律・制度 障害や保育に深く関わる法律・制度、またそれらの変遷について理解を深める。</p> <p>②障害の種類と特性 さまざまな障害に関する基本的な特性や生じる可能性のある2次障害について理解を深める。</p> <p>③障害特性と個のニーズに合わせた保育・支援 学んだ発達理論や障害の特性をふまえ、個のニーズに合わせた保育実践について理解を深める。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>1.障害やそれにかかわる法律・制度の基本的な理解ができるようになる。 2.障害特性や個のニーズに合わせた保育・支援計画が作れるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 障害の理解 テーマ:障害とは、障害の種類、ICFの理念、障害のある子どもの保育を保障する法律等</p> <p>2 障害のある子どもの生活を支える福祉や医療の制度 テーマ:福祉の制度と医療の制度</p> <p>3 障害のある子どもの発達 テーマ:発達の偏り、言語・運動・情緒・社会性の発達、将来を見通した関わり教育における家庭への子育て支援 テーマ:ライフステージ、障害受容、療育の意義、障害児療育のねらい、早期療育の意義と内容、障害児と家族と地域支援</p> <p>4 教育の種類と支援・専門家との連携 テーマ:インクルーシブ保育、分離保育、交流保育/並行通園、居宅訪問型保育</p> <p>5 地域における専門家との連携 テーマ:児童発達支援センター、保育所・幼稚園、今後の専門機関との連携</p> <p>6 就学への移行と特別支援教育 テーマ:就学までの支援、特別支援教育</p> <p>7 よりよい療育実践のために テーマ:療育実践の留意点、障害を理解する諸側面、療育プログラムの構築</p> <p>8 肢体不自由児への支援 テーマ:肢体不自由の種類と原因、健康特性と支援の配慮点、日常生活における援助と配慮点</p> <p>9 知的障害児への支援 テーマ:知的障害の特性、知的障害児の認知、記憶</p> <p>10 自閉症を伴う子どもへの支援 テーマ:自閉症とその周辺の障害、ASDに合併しやすい他の障害、ASDに気付くきっかけ、ASDと保護者、ASDを伴う幼児とのコミュニケーション</p> <p>「気になる子ども」への支援 テーマ:落ち着きがない子ども、虐待を受けている疑いのある子ども</p> <p>「問題」行動の分析 テーマ:応用行動分析を用いた「個のニーズ」に応じた支援</p> <p>教材・教具と発達支援 テーマ:「教材・教具」とは、療育における実践、個別学習における基本的留意点、教材・教具の手に入れ方、作り方</p> <p>運動遊びと発達支援 テーマ:運動の重要性、運動機能の発達、ムーブメント教育・療法、実践例</p> <p>まとめ テーマ:振り返り</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>小林保子・立松英子『保育者のための障害児療育一理論と実践をつなぐー』改訂2版、学術出版会。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>○レポート 総合点の50%</p> <p>・事例問題についてA4用紙2~3枚程度</p> <p>○授業中の態度、積極性 総合点の30%</p> <p>○修了試験 総合点の20%</p> <p>・キーワード理解確認テスト</p> <p>総合点 100点</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>七木田敦「キーワードで学ぶ障害児保育入門」保育出版社。</p> <p>七木田敦・松井剛太「つながる・つなげる障害児保育ーかわりあうクラスづくりのためにー」保育出版社。</p> <p>七木田敦「特別支援教育のプロが通常学級の気になる子の「困った」を解決します！」学研教育出版。</p> <p>P.A.アルバート・A.C.トルートマン著、佐久間徹・谷晋二・大野裕史訳「はじめての応用行動分析」二瓶社。</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育士・教師論		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 富田 雅子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]                      人格形成において重要な時期とされる乳幼児期の保育を携わる専門家としての自覚と責任を持つ。                      保育・養育・教育に対する社会的要請を認識し、子育て文化を担う人材を育成することをねらいとする。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]                      保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。また、乳幼児保育の基礎知識・技能・保護者支援の方法など、具体的な保育方法の学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つ人材を育成する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>日本の保育制度を理解する。保育者としての専門的な知識を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 現代社会の保育の現状</li> <li>3 保育観・子ども観の重要性①(日本)</li> <li>4 保育観・子ども観の重要性②(西欧)</li> <li>5 保育観・子ども観の重要性③(世界の動向)</li> <li>6 保育者と制度について①学校教育法、児童福祉法</li> <li>7 保育者と制度について②保育士資格取得の要件、幼稚園教諭免許の取得要件 など</li> <li>8 保育者の専門性①(幼稚園教諭)</li> <li>9 保育者の専門性②(保育士)</li> <li>10 保育者に求められる役割と専門性①</li> <li>11 保育者に求められる役割と専門性②</li> <li>12 期待される保育者・成長する保育者</li> <li>13 これからの保育者に求められる資質</li> <li>14 保育者の職務と倫理(全国保育士会倫理要領の内容についての理解)</li> <li>15 まとめと科目終了試験対策</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>民秋言編『保育者論』建帛社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>○授業中の態度、積極性 総合点の30%</p> <p>○提出物の状況 総合点の10%</p> <p>○スクーリング終了試験 総合点の60%</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>『幼稚園教育要領解説』 文部科学省                      『保育所保育指針解説』 厚生労働省</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 こどもの保健Ⅱ		授業の種類 (講義)(演習)(実習)	授業担当者 吉田 八千代
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 2年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ知識が実践できる(判断し速やかに)能力を習得する</li> <li>・健康管理全般について観察、指導できる実践力を学ぶ</li> </ul>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小児各期の発達、発育に応じた生理機能の測定と身体計測及び評価についてその意義を理解する</li> <li>② 身体の清潔と全身観察の方法について理解する</li> <li>③ 小児のかかりやすい病気とその症状の看護について理解する</li> <li>④ 救急処置と心肺蘇生法について理解する</li> <li>⑤ 事故防止と安全教育について理解させる</li> </ol>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>小児保健で学んだ知識を基礎として、保育の場において保育者として実践できる応用力と指導力を養う知識と技術を学ぶ</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児保健Ⅱで学んだ実習の必要性和計画の意義</li> <li>2 健康状態の観察と生理機能のポイントと意義</li> <li>3 身体発育の測定方法と評価(体重・身長・胸囲・頭囲)</li> <li>4 精神運動機能の発達、発育順序と評価について</li> <li>5 子どもの保健と環境の重要性和保育所の設備について</li> <li>6 子どもの生活習慣(睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔)と援助方法について</li> <li>7 子どもの養護(乳児の抱き方、背負い方、寝せ方、オムツ交換)について</li> <li>8 子どもの養護 身体(全身、口腔、手指)の清潔の方法 日光浴と外気浴</li> <li>9 疾病と適切な対応(体調不良、感染症)</li> <li>10 保育における看護と応急処置(看護方法、消毒、薬の与え方)</li> <li>11 救急処置と心肺蘇生法(成人、小児、乳児)</li> <li>12 救急処置の方法(運搬方法、包帯の目的)を学習する</li> <li>13 起こりやすい事故と応急処置</li> <li>14 安全教育について事例を使って子どもにわかりやすく学習</li> <li>15 総合して、現場における保育者としての考えを作成</li> </ol>			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験(素点)にて評価	
[参考文献]			

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅱ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 12日間	<b>時間数(単位数)</b> 90時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 前期		<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設、原爆養護ホーム、障害者支援施設での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者や障害者に関わる</li> <li>2. 施設の役割を理解し、業務の流れを学ぶ</li> <li>3. 利用者の日々の変化、日内変化を知る</li> <li>4. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>5. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設・事業等を体験し、施設などの機能や基本的なケアを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特徴や支援体制を把握する。</li> <li>・利用者の疾病や障害を学習する。</li> <li>・介護職の業務の流れを理解する。</li> <li>・マナーや職務規定を理解して守る。</li> </ul> </li> <li>2. 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の程度や思いに応じた介護技術を丁寧に判断、実施し、毎日の技術を自己評価する。</li> <li>・基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。</li> </ul> </li> <li>3. 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活やそのリズムを知る。</li> <li>・利用者と積極的にコミュニケーションを図る。</li> <li>・コミュニケーションが心身の活性化に及ぼす影響について考察する。</li> </ul> </li> <li>4. 多様な介護サービスの中で多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や申し送り等の場面で健康や生活に関する問題について知る。</li> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> </ol>				
<b>【使用テキスト】</b> 「実習のしおり」広島福祉専門学校 「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価		
<b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録15講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)				

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅲ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸
<b>授業の回数</b> 18日間	<b>時間数(単位数)</b> 135時間	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 後期	<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                      介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                      特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設、障害者支援施設での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様な介護現場においてその役割を学ぶ</li> <li>2. 多様な介護現場においてその基本的ケアを学ぶ</li> <li>3. 利用者理解をはじめ、関わり方を学び、利用者・家族とのコミュニケーション実践</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理や介護予防の場面、または身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の役割を知る。</li> </ul> </li> <li>2. 人間関係を形成しながら慣れ親しんだ地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設などの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。またその生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を理解する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や家族の生活状況を把握して理解し、介護福祉士の関わり方について学ぶ。</li> <li>・介護保険制度における訪問介護の位置づけと機能を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>3. 介護過程に関する既習の知識・技術を基に、担当する利用者の情報収集・アセスメントをして、生活上の課題を抽出し、介護計画立案ができる。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護計画の仕組みを理解し、受け持ち利用者の生活ニーズに基づき介護計画を作成する。</li> <li>・カンファレンスに参加して介護計画の作成過程を理解する。</li> </ul> </li> </ol>			
<p><b>【使用テキスト】</b>                      「実習のしおり」 広島福祉専門学校                      「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                      「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                      「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規)                      「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                      学則に定めるとおり、評価の基準に従い実習指導者と教員で評価</p>	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 野村 裕之 山崎 年幸	
授業の回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (60コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前・後期 介護保育科2年 前・後期 介護保育科3年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を学習する。            2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を学習する。            3. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を学習する。            4. 終末期に関連するアセスメントと介護技術を学習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>            1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を習得する。            2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を習得する。            3. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を習得する。            4. 終末期に関連するアセスメントと介護技術を習得する。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●自立に向けた身じたくの介護	1	身じたくの意義と目的	生活における身じたくの意義と目的	講	
	2	身じたくに関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	
	3	外皮系の解剖・生理学	外皮系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講	
	4	整容①	洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等	講 演	
	5	整容②	洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等	講 演	
	6	口腔、歯の解剖・生理学	口腔、歯の解剖生理学と年齢・環境による変化	講	
	7	口腔ケア	口腔ケア	講 演	
	8	衣服着脱①	装いの意義、楽しみ、衣服着脱	講 演	
	9	衣服着脱②	装いの意義、楽しみ、衣服着脱	講 演	
	10	褥瘡予防	褥瘡のリスクファクター、褥瘡発生リスクの評価(ブレーデンスケール)	講 演	
	11	褥瘡予防方法	褥瘡予防方法	講 演	
	12	褥瘡ケア	褥瘡ケア	講	
	13	温罨法	温罨法の意義と方法	講 演	

●自立に向けた移動の介護

1 4	冷罨法	冷罨法の意義と方法	講演
1 5	身じたくについての多職種共働	介護福祉士の役割と多職種共働	講
1 6	移動の意義と目的	生活における移動の意義と目的	講
1 7	移動に関する利用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
1 8	骨格系の解剖・生理学	骨格系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
1 9	筋肉系の解剖・生理学	筋肉系の解剖・生理学と年齢・環境による変化	講
2 0	関節の構造と関節可動域	関節の構造と関節可動域 (ROM)	講
2 1	関節可動域訓練	自動・他動関節可動域訓練	講演
2 2	移動に支援を要する病態①	頻度の高い骨折と骨粗鬆症 脳出血、脳梗塞	講
2 3	移動に支援を要する病態②	パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、脳性麻痺、重症心身障害、視覚障害	講
2 4	ボディメカニクス	ボディメカニクス	講演
2 5	各種体位	各種体位	講演
2 6	モビリティの支援	ベッドあるいは寝具上でのモビリティの支援	講演
2 7	移乗の支援①	立位移乗①	講演
2 8	移乗の支援②	立位移乗②	講演
2 9	移乗の支援③	座位移乗①	講演
3 0	移乗の支援④	座位移乗②	講演
3 1	移乗の支援⑤	リフティング①	講演
3 2	移乗の支援⑥	リフティング②	講演
3 3	移乗のための介護機器	移乗のための介護機器	講演
3 4	車いす→床、床→車いすへの移乗	車いす→床、床→車いすへの移乗	講演
3 5	歩行の支援②	歩行補助具①	講演
3 6	歩行の支援③	歩行補助具②	講演
3 7	歩行の支援④	平行棒訓練	講演
3 8	歩行の支援⑤	基本歩行パターン	講演
3 9	自立活動①	立位・座位の自立	講演
4 0	自立活動②	歩行の自立	講演
4 1	安全と事故防止に配慮した移動	安全と事故防止に配慮した移動	講演

	4 2	車いす①	車いすの種類、構造と選び方	講演
	4 3	車いす②	車いす不適合によるリスク、車いすのメンテナンス	講演
	4 4	車いすでの移動・移乗①	介助による車いすでの移動・移乗	講演
	4 5	車いすでの移動・移乗②	自力による車いすでの移動・移乗	講演
●自立に向けた睡眠の介護	4 6	睡眠の意義	生活における睡眠の意義	講
	4 7	睡眠に関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講
	4 8	睡眠の種類、パターン	睡眠の種類、パターン、不眠の原因	講
	4 9	不眠の原因	不眠の原因	講
	5 0	睡眠の支援	安眠のための介護	講
●終末期の介護	5 1	終末期とは	人生の意義と人生の終末	講
	5 2	終末期における利用者	ICFの視点に基づくアセスメント	講
	5 4	疾患と終末期①	呼吸器疾患、心・循環器疾患と終末期	講
	5 5	疾患と終末期③	腎・泌尿器疾患、肝疾患と終末期	講
	5 6	終末期における身体的症状と対応	呼吸・循環抑制、食欲不振、疲労、衰弱	講
	5 7	終末期における精神的症状と対応	悲哀、抑鬱、不安、恐怖、混乱	講
	5 8	終末期における栄養・水分補給	終末期における栄養・水分補給	講
	5 9	死の受容	死の受容の過程	講
	6 0	死後の処置と家族への配慮	死後の処置と家族への配慮	講
	<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 生活支援技術Ⅱ」 (メヂカルフレンド社) 「最新介護福祉全書 障害別生活支援技術」 (メヂカルフレンド社)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり
<b>【参考文献】</b> 「介護技術指導マニュアル」(中央法規) 「生活援助のための介護手引き」(中央法規)				

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 医療的ケア		<b>授業の種類</b> 講義・演習		<b>授業担当者</b> 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 後期 介護保育科3年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケア実施の基礎</li> <li>2. 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</li> <li>3. 経管栄養(基礎的知識・実施手順)</li> <li>4. 演習</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。</p>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●医療的ケア実施の基礎	1	尊厳と倫理	個人の尊厳、医療倫理、利用者家族の気持ちの理解	講	
	2	保健医療制度とチーム医療	保健医療と介護保険に関する制度 医療行為とは	講	
	3		チーム医療とその実際 喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職の連携	講	
	4	安全な療養生活	安全に喀痰吸引、経管栄養を提供する重要性	演	
	5		リスクマネジメントとヒヤリハット報告	講	
	6	清潔保持と感染予防	感染予防、消毒法、滅菌	講	
	7	健康状態の把握	平常状態、バイタルサイン、急変状態、急変時の対応と事前準備	演	
●医療的ケア実施	8	喀痰吸引	呼吸の仕組みとはたらき	講	
	9		いつもと違う呼吸状態 呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害	講	
	10		喀痰吸引とは	講	
	11		人工呼吸器と吸引	講	
	12		子どもの吸引について	講	
	13		吸引を受ける利用者や家族の気持ちと、その対応・説明と同意	講	
	14		呼吸器系の感染と予防(吸引に関して)	講	

15		喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	講
16		急変・自己発生時の対応と事前対策	講
17		喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）演習	演
18		喀痰吸引（気管カニューレ内部）演習	演
19	経管栄養	消化器系器官の仕組みと役割・機能	講
20		消化・吸収とよくある消化器の症状	講
21		経管栄養とは	講
22		注入する内容に関する知識	講
23		子どもの経管栄養について	講
24		経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと、その対応・説明と同意	講
25		経管栄養に関する感染と予防	講
26		経管栄養により生じる危険、事後の安全確認	演
27		経管栄養（胃ろう・腸ろう）演習	演
28		経管栄養（経鼻）演習	演
29	救急蘇生法	救急蘇生法について理解し、説明できるようになる	講
30		救急蘇生法 演習	演
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
介護福祉士養成テキスト4 医療的ケア 日本介護福祉士養成施設協会編 法律文化社		学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 生活支援技術Ⅲ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 山崎 年幸 上原 尚子 澤田 祥子 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 60回	<b>時間数(単位数)</b> 120時間 (60コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前期 介護保育科2年 前・後期 介護保育科3年 後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. 食事に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 2. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 入浴・清潔保持に関連するアセスメントと介護技術を学習する。					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> 1. 食事に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 2. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 入浴・清潔保持に関連するアセスメントと介護技術を習得する。					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●自立に向けた食事の介護	1	食事の意義	生活における食事の意義	講	
	2	食事に関する利用者のアセスメント	ICFの視点に基づくアセスメント	講	
	3	消化器系の解剖・生理学	消化器系の解剖、消化・吸収のしくみ	講	
	4	食事に支援を要する病態①	胃炎、胃・十二指腸潰瘍	講	
	5	食事に支援を要する病態②	胆石症、肝硬変	講	
	6	食事に支援を要する病態③	糖尿病	講	
	7	食事に支援を要する病態④	消化器系手術後	講	
	8	食事に支援を要する病態⑤	脳血管障害	講	
	9	食事に支援を要する症状	食欲不振、嚥下困難、便秘、悪心、嘔吐	講	
	10	栄養ケア①	栄養素、栄養バランス、カロリー計算①	講	
	11	栄養ケア②	栄養素、栄養バランス、カロリー計算②	演	
	12	栄養ケア③	経管栄養のしくみ・種類と治療食の種類	講	
	13	栄養ケア④	輸液	講	
	14	食事の準備と提供	環境整備と食事提供手順	講	

	1 5	食事の支援①	食事の介助（一部介助の場合）①	講演
	1 6	食事の支援②	食事の介助（一部介助の場合）②	講演
	1 7	食事の支援③	食事の介助（全介助の場合）①	講演
	1 8	食事の支援④	食事の介助（全介助の場合）②	講演
	1 9	食事の支援⑤	食事の介助 （麻痺や視覚障害がある場合）	講演
	2 0	食事の自立と補助具	食事の自立と補助具	講演
●自立に向けた排泄の 介護	2 1	排泄の意義	生活における排泄の意義	講
	2 2	排泄に関する利用者のア セスメント	ICF の視点に基づくアセスメント	講
	2 3	排泄方法の選択	アセスメントに基づく排泄方法の 選択	講
	2 4	泌尿器系の解剖・生理学	泌尿器系の解剖・生理学	講
	2 5	水・電解質バランス①	水分バランス・脱水	講
	2 6	水・電解質バランス②	浸透圧、電解質バランス	講
	2 7	便秘と便失禁①	便秘の原因と対応	講
	2 8	便秘と便失禁②	便失禁の原因と対応	講
	2 9	尿失禁①	尿失禁の分類と対応①	講
	3 0	尿失禁②	尿失禁の分類と対応②	講
	3 1	正常な排泄を維持する ための支援	生活課題解決のための多職種連携の 必要性	講
	3 2	排泄支援①	トイレの介護手順①	講演
	3 3	排泄支援②	トイレの介護手順②	講演
	3 4	排泄支援③	ポータブルトイレの介護手順①	講演
	3 5	排泄支援④	ポータブルトイレの介護手順②	講演
	3 6	排泄支援⑤	尿器・便器の介護手順	講演
	3 7	排泄支援⑥	おむつの種類、構造	講演
	3 8	排泄支援⑦	おむつの介護手順①	講演
	3 9	排泄支援⑧	おむつの介護手順②	講演
		4 0	尿留置カテーテルとスマ	尿留置カテーテルの 管理とストマの構造・管理
●自立に向けた入浴・ 清潔保持の介護	4 1	入浴・清潔保持の意義と目 的排泄	生活における入浴・清潔保持の意義と 目的	講
	4 2	入浴・清潔保持に関する利 用者のアセスメント	ICF の視点に基づくアセスメントと 入浴・清潔保持方法の選択	講
	4 3	不潔になりやすい箇所と 疾病との関係	不潔になりやすい箇所と疾病との関 係	講
	4 4	入浴中の生理的変化	入浴中の生理的変化	講

4 5	入浴前の健康チェック	入浴前の健康チェック①	講演
4 6	入浴前の健康チェック	入浴前の健康チェック②	講演
4 7	入浴・清潔保持手段の種類①	入浴（器械浴と一般浴）、シャワー浴、全身清拭	講演
4 8	入浴・清潔保持手段の種類②	陰部洗浄、足浴・手浴、洗髪	講演
4 9	入浴・清潔保持支援時の観察と記録	入浴・清潔保持支援時に観察・記録すべき事項	講
5 0	入浴・清潔保持の支援①	器械浴の手順①	講演
5 1	入浴・清潔保持の支援②	器械浴の手順②	講演
5 2	入浴・清潔保持の支援	一般浴の手順①	講演
5 3	入浴・清潔保持の支援④	一般浴の手順②	講演
5 4	入浴・清潔保持の支援⑤	シャワー浴の手順	講演
5 5	入浴・清潔保持の支援⑥	全身清拭の手順	講演
5 6	入浴・清潔保持の支援⑦	陰部洗浄の手順	講演
5 7	入浴・清潔保持の支援⑧	足浴・手浴の手順	講演
5 8	入浴・清潔保持の支援⑨	洗髪の手順	講演
5 9	入浴に関連して起こりやすい事故と対応①	入浴中の体調悪化に対する対応	講演
6 0	入浴に関連して起こりやすい事故と対応②	入浴に関連して起こりやすい事故と対応	講演
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 障害別生活支援技術」 （メヂカルフレンド社）  <b>【参考文献】</b> 「介護技術指導マニュアル」（中央法規） 「生活援助のための介護手引き」（中央法規）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護過程 I		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。					
<b>【授業全体の内容の概要】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアプラン、介護過程とは何かについて学習する。</li> <li>2. 介護過程と看護過程の類似と相違について学習する。</li> <li>3. ICFの視点について学習する。</li> <li>4. 介護過程を展開する上での介護福祉の法と職業倫理について学習する。</li> <li>5. 利用者の人権と人格の尊重について学習する。</li> <li>6. 各アセスメントツールの特徴について学習する。</li> <li>7. 各利用者の生活について学習する。</li> <li>8. 社会資源について学習する。</li> </ol>					
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアプラン、介護過程とは何かについて理解する。</li> <li>2. 介護過程と看護過程の類似と相違について理解する。</li> <li>3. ICFの視点について理解する。</li> <li>4. 介護過程を展開する上での介護福祉の法と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 利用者の人権と人格の尊重について理解する。</li> <li>6. 各アセスメントツールの特徴について理解する。</li> <li>7. 各利用者の生活について理解する。</li> <li>8. 社会資源について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程の意義	1	「介護過程」の展開を学ぶ前に	生活の過程を展開するとはどのようなことか、その理由を考える	講	
	2	「介護過程」の意義	「とりあえず何でもかんでも手伝うこと」はケアなのか？ 支援者が導くケアは利用者の能力に沿ったものであるはず	講	
	3	「介護過程」の意義	生活上における目標と目的の意義を理解する	講	
●介護過程の展開	4	アセスメントとケアプラン	ケアプラン、アセスメントの意義の理解、「介護過程の展開」という思考過程の理解	講	
	5	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方①	事実の客観的な把握と正確に記録する(他者への伝達)ことの意義を理解する	講	
	6	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方②	同上	講	
	7	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方③	同上	講	
	8	アセスメントに必要な	医学モデルとICFの視点で事実を	講	

	「事実」のとらえ方④	えることの違いを理解する	
9	介護過程の中の「事実」のとらえ方①	実際に展開されている支援の根底にある介護過程の理解	講
10	介護過程の中の「事実」のとらえ方②	実際に展開されている支援の根底にある介護過程の理解	講
11	とらえた「事実」を解釈するために①	援助技術としてのコミュニケーション①	講
12	とらえた「事実」を解釈するために②	援助技術としてのコミュニケーション②	講
13	とらえた「事実」を解釈するために③	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解①	講
14	とらえた「事実」を解釈するために④	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解②	講
15	とらえた「事実」を解釈するために⑤	高齢者の生きてきた時代、生活背景についての理解③	講
16	とらえた「事実」を解釈するために⑥	高齢者の現状の理解、高齢者像の拡大	講
17	解釈した「事実」を計画に活かす①	利用者の「現在」を切り取る	講
18	解釈した「事実」を計画に活かす②	事例を元に把握した情報を適切に解釈し、本人の希望に沿う計画を立て	講
19	解釈した「事実」を計画に活かす③	本人の希望をさらに拡大するために①	講
20	解釈した「事実」を計画に活かす④	本人の希望をさらに拡大するために②	講
21	解釈した「事実」を計画に活かす⑤	使える制度と社会資源の理解①	講
22	解釈した「事実」を計画に活かす⑥	使える制度と社会資源の理解②	講
23	解釈した「事実」を計画に活かす⑦	使える制度と社会資源の理解③	講
24	解釈した「事実」を計画に活かす⑧	家族、介護者を支える制度と社会資源の理解	講
25	事実のとらえ方（復習）	事実の客観的な把握と正確に記録する（他者への伝達）ことの再確認	講
26	事実のとらえ方（復習）	同上	講
27	事実のとらえ方（復習）	同上	講
28	事実のとらえ方（復習）	「生活支援技術」で学んだ技術を介護過程の展開に利用する	講
29	介護過程の実践的展開①	介護実習Ⅱで行う介護過程の展開の実施について確認する	PBL
30	介護過程の実践的展開②	同上	PBL
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」（メヂカルフレンド社） <b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」（日総研）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シ ラ バ ス

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 山崎 年幸 崎井 真弓	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科2年 後期 介護保育科3年 前・後期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 介護現場で頻度の高いケースのケーススタディを問題基盤型チュートリアル(PBL)の形式で行う。学生が実際に問題点を抽出しながら、ケアプランを作成・発表し、発表内容をチューターを交えてグループディスカッションを行うことにより、介護過程展開の実践力を養う。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害ケースの介護過程について理解する。</li> <li>2. 認知症ケースの介護過程について理解する。</li> <li>3. 神経変性疾患ケースの介護過程について理解する。</li> <li>4. 脊髄損傷ケースの介護過程について理解する。</li> <li>5. 脳性麻痺ケースの介護過程について理解する。</li> <li>6. 関節リウマチケースの介護過程について理解する。</li> <li>7. がんのケースの介護過程について理解する。</li> <li>8. 心疾患のケースの介護過程について理解する。</li> <li>9. 呼吸器疾患のケースの介護過程について理解する。</li> <li>10. ストマや経管栄養のケースの介護過程について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●介護過程の実践的展開	1	脳血管障害ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	2	脳血管障害ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	3	脳血管障害ケース②	学生によるケース理解、アセスメントとケアプラン作成	PBL	
	4	脳血管障害ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	5	脳血管障害ケース③	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	6	脳血管障害ケース③	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	7	脳血管障害ケース④	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	8	脳血管障害ケース④	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	9	認知症ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	
	10	認知症ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL	
	11	認知症ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL	

1 2	認知症ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 3	認知症ケース③	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 4	認知症ケース③	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 5	神経変性疾患ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 6	神経変性疾患ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 7	神経変性疾患ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
1 8	神経変性疾患ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
1 9	脊髄損傷ケース①	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 0	脊髄損傷ケース①	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 1	脊髄損傷ケース②	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 2	脊髄損傷ケース②	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 3	脳性麻痺ケース	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 4	脳性麻痺ケース	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 5	関節リウマチケース	学生によるケース理解、アセスメント、とケアプラン作成	PBL
2 6	関節リウマチケース	ケアプラン発表とチューターを交えたグループディスカッション	PBL
2 7	がんのケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
2 8	心疾患のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
2 9	呼吸器疾患のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
3 0	ストマや経管栄養のケース	ケアプラン作成とグループディスカッション	PBL
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護過程」 (メヂカルフレンド社)		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「施設・居宅ケアプラン事例展開集」(日総研)			

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護総合演習Ⅰ	<b>授業の種類</b> 講義	<b>授業担当者</b> 野村 裕之 山崎 年幸	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前・後期	<b>必修・選択</b> 必修

## 【授業の目的・ねらい】

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習語の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。

## 【授業全体の内容の概要】

1. 実習の意味と意義について学習する。
2. 介護福祉士の職業倫理を学習する。
3. 実習施設の種別、内容、特徴等について学習する。
4. 対人援助技術、コミュニケーション技術の基本について学習する。
5. 介護記録、実習記録の書き方について学習する。
6. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。
7. 実習後、事例について介護過程を展開する。

## 【授業終了時の達成課題(到達目標)】

1. 実習の意味と意義について理解する。
2. 介護福祉士の職業倫理を確認する。
3. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。
4. 対人援助技術、コミュニケーション技術の基本について理解する。
5. 介護記録、実習記録の書き方について理解する。
6. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。
7. 実習後、事例について介護過程を展開できる。

## 【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●実習オリエンテーション	1	実習とは何か	実習の意義と目的	講
	2	介護福祉士の職業倫理	求められる介護福祉士像及び関連法	講
	3	介護活動の場と介護の特性	多様なニーズと介護サービス	講
	4	施設理解①訪問介護	訪問介護事業と利用者の生活像	講
	5	施設理解②通所介護	通所介護事業と利用者の生活像	講
	6	施設理解③小規模多機能型施設	小規模多機能型事業と利用者の生活像	講
	7	コミュニケーション・マナー・接遇	社会・組織の中で求められる人物像	講
	8	記録①	観察記録の方法	講
	9	記録②	プロセスレコードの説明と活用法	講
	10	記録③	実習関連の記録	講
	11	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演

	1 2	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演
	1 3	実習オリエンテーション①	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講
	1 4	実習オリエンテーション②	先輩の体験談・質疑応答	講
	1 5	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講 演
●実習報告・反省	1 6	実習報告会①	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	1 7	実習報告会②	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	1 8	実習報告会③	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	1 9	実習報告会④	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	2 0	実習報告会⑤	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	2 1	実習報告会⑥	実習 I の振り返りと学びの共有化	事例
	2 2	実習事後指導①実習記録	実習記録の再検討	
	2 3	実習事後指導② プロセスレコード	プロセスレコードの再検討	
	2 4	実習事後指導③	困難事例の検討	
	2 5	実習事前指導①	障害の種類と自立支援	
	2 6	実習事前指導②	障害者施設と利用者の生活像	
	2 7	実習事前指導③ 個別介護計画	利用者の個性	
	2 8	介護過程の展開 情報収集	情報収集の目的と活用	
	2 9	記録①	収集した情報を活用する	
	3 0	記録②	実習関連の記録	
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護総合演習」 (メヂカルフレンド社) 「介護福祉用具事典」医学評論社  <b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護総合演習Ⅱ		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 山崎 年幸 崎井 真弓	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科2年 後期 介護保育科3年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。</li> <li>2. 実習施設の種別、内容、特徴等について学習する。</li> <li>3. ケアプラン、介護過程の展開について学習する。</li> <li>4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について学習する。</li> <li>5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>6. 実習後、事例について介護過程を展開する。</li> <li>7. 的確な記録について学習する。</li> </ol> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。</li> <li>2. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。</li> <li>3. ケアプラン、介護過程の展開について理解する。</li> <li>4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について理解する。</li> <li>5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。</li> <li>6. 実習後、事例について介護過程を展開できる。</li> <li>7. 的確な記録を行うことができる。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	
●実習オリエンテーション	1	個人票・計画書の書き方	個人票・計画書の作成	講 演	
	2	共感的・受容的に接する技術	ヴァイステックの7原則	講	
	3	他職種との連携	チームケア	講	
	4	緊急時の対応	緊急時の対応に求められること	講	
	5	実習施設の施設長を招いて	施設長として実習施設が実習生に求めるもの	講	
	6	実習施設の実習指導者を招いて	実習指導者として実習施設が実習生に求めるもの	講	
	7	実習オリエンテーション①	実習施設の種別、特徴の確認	講	
	8	実習オリエンテーション②	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講	
	9	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講 演	
●実習報告・反省	10	実習報告会①	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例	

	1 1	実習報告会②	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 2	実習報告会③	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 3	実習報告会④	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 4	実習報告会⑤	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 5	実習報告会⑥	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	1 6	実習事後指導①実習記録	実習記録の再検討	講演
	1 7	実習事後指導②プロセスレコード	プロセスレコードの再検討	講演
	1 8	実習事後指導③	困難事例の検討	講演
●実習オリエンテーション	1 9	施設と居宅のケアプラン、介護過程①	居宅のアセスメントツールとケアプラン	講演
	2 0	施設と居宅のケアプラン、介護過程②	施設のアセスメントツールとケアプラン	講演
	2 1	実習オリエンテーション①	実習施設の種別、特徴の確認	講
	2 2	実習オリエンテーション②	実習に当たっての心構え、注意点の再確認	講
	2 3	実習壮行会	実習目標の発表と仲間意識の共有	講演
●実習報告・反省	2 4	実習報告会①	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 5	実習報告会②	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 6	実習報告会③	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 7	実習報告会④	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 8	実習報告会⑤	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	2 9	実習報告会⑥	実習Ⅱの振り返りと学びの共有化	事例
	3 0	実習事後指導	困難事例の検討	講演
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 介護総合演習」 (メヂカルフレンド社) 「介護福祉用具事典」医学評論社			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	
<b>【参考文献】</b> 「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会) 「介護福祉のための記録 15 講」(中央法規) 「実習生のための対人援助技術」(中央法規)				

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 発達と老化の理解		<b>授業の種類</b> 講義		<b>授業担当者</b> 河野 ひろ子	
<b>授業の回数</b> 30回	<b>時間数(単位数)</b> 60時間(30コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科1年 前・後期 介護保育科2年 前・後期		<b>必修・選択</b> 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          小児・成人の発達と老化を心身両面から学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の成長と発達について理解する。</li> <li>2. 先天性疾患、小児期に多い疾患について理解する。</li> <li>3. 老化に伴うこころとからだの変化について理解する。</li> <li>4. 高齢者に多い疾患について理解する。</li> <li>5. 高齢者の保健・医療・福祉施策について理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●人間の成長と発達の基礎的理解	1	人間の成長と発達	総論	講	
	2	子どもの成長と発達①	総論・形態的成長	講	
	3	子どもの成長と発達②	機能的成長	講	
	4	子どもの疾病①	新生児・乳児期の疾病	講	
	5	子どもの疾病②	児童・生徒の病気	講	
	6	発達心理学①	乳児期・幼児期・児童期	講	
	7	発達心理学②	思春期から成人	講	
	8	児童福祉制度	児童福祉施策	講	
●老年期の発達と成熟 ●老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	9	老化とは何か	老化とは何か	講	
	10	老化に伴うこころの変化	老化に伴うこころの変化	講	
	11	老化に伴うからだの変化	老化に伴うからだの変化	講	
●高齢者と健康	12	高齢者に多い疾病①	がん	講	
	13	高齢者に多い疾病②	心臓病	講	
	14	高齢者に多い疾病③	脳血管障害	講	
	15	高齢者に多い疾病④	骨折、運動器疾患	講	
	16	高齢者に多い疾病⑤	内分泌・代謝疾患	講	
	17	高齢者に多い疾病⑥	老化に伴うその他の疾患	講	
	18	高齢者の精神疾患①	高齢者の精神疾患	講	

	19	高齢者の精神疾患②	高齢者の精神疾患	講
●高齢者の保健医療	20	高齢者の保健・医療・福祉施策①	高齢者の保健政策	講
	21	高齢者の保健・医療・福祉施策②	高齢者の医療政策	講
	22	高齢者の保健・医療・福祉施策③	高齢者の福祉政策	講
	23	ケーススタディ①	小児ケーススタディ①	PBL
	24	ケーススタディ②	小児ケーススタディ②	PBL
	25	ケーススタディ③	高齢者ケーススタディ①	PBL
	26	ケーススタディ④	高齢者ケーススタディ②	PBL
	27	事例発表①	小児例①	事例
	28	事例発表②	小児例②	事例
	29	事例発表③	高齢者例②	事例
	30	事例発表④	高齢者例③	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 発達と老化の理解」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「幼児期と社会」(E・H・エリクソン) 「看護のための最新医学講座第17巻老人の医療」 (中山書店)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 障害の理解		授業の種類 講義		授業担当者 河野 ひろ子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前期		必修・選択 必修	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            障害の概念と施策について理解した上で、心身の障害について、その原因疾患それぞれの概要と、それぞれのリハビリテーションについて学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICIDH、ICF について理解する。</li> <li>2. わが国の障害者施策について理解する。</li> <li>3. 視覚障害、聴覚・平衡覚障害、音声・言語・咀嚼機能障害について理解する。</li> <li>4. 肢体不自由について理解する。</li> <li>5. 内部障害について理解する。</li> <li>6. 脳血管障害とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>7. 神経疾患とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>8. 脳性麻痺とそのリハビリテーションについて理解する。</li> <li>9. 精神障害とそのリハビリテーションについて理解する。</li> </ol>					
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>					
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法	
●障害の基礎的理解	1	障害とは	ICIDH、ICF、障害者基本法、障害者統計	講	
	2	障害者福祉の歴史と基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション	講	
	3	障害の受容の過程	障害の受容の過程	講	
	4	リハビリテーションの基礎	障害の評価、理学療法、作業療法等	講	
●障害の医学的側面の基礎的知識	5	身体障害を理解する①	身体障害者認定基準	講	
	6	身体障害を理解する②	視覚のしくみと疾病・障害	講	
	7	身体障害を理解する③	聴覚・平衡覚のしくみと疾病・障害	講	
	8	身体障害を理解する④	音声・言語・咀嚼機能のしくみと疾病・障害	講	
	9	身体障害を理解する⑤	肢体不自由	講	
	10	身体障害を理解する⑥	内部障害①	講	
	11	身体障害を理解する⑦	内部障害②	講	
	12	知的障害を理解する	知的障害とは	講	
	13	発達障害を理解する	発達障害とは	講	
	14	疾病から障害を理解する①	脳血管障害①	講	
	15	疾病から障害を理解する②	脳血管障害②	講	

	16	疾病から障害を理解する③	脊髄損傷	講
	17	疾病から障害を理解する④	神経変性疾患・筋疾患	講
	18	疾病から障害を理解する⑤	関節リウマチその他	講
	19	疾病から障害を理解する⑥	先天性疾患	講
	20	疾病から障害を理解する⑧	脳性麻痺、重症心身障害児	講
	21	精神障害を理解する①	精神疾患①	講
	22	精神障害を理解する②	精神疾患②	講
	23	精神障害を理解する③	精神疾患③	講
	24	精神障害を理解する④	精神疾患④	講
	25	精神障害を理解する⑤	精神疾患の治療法・リハビリテーション	講
●連携と協働	26	障害者の福祉施策①	身体障害児・者の福祉施策、地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
	27	障害者の福祉施策②	知的障害者、精神障害者の福祉施策、地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
●家族への支援	28	家族への支援	家族への教育、介護力の評価、レスパイト	講
	29	ケーススタディ	ケーススタディ	PBL
	30	事例発表	事例発表	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「介護福祉学4 障害の理解」中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社  「からだのしくみ事典」成美堂			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解		授業の種類 講義		授業担当者 内平 八重子 上本 義博																																																												
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(30コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 後期 介護保育科2年 前期		必修・選択 必修																																																												
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 脳疾患である認知症を理解するために、まず神経解剖・生理学の基礎を教授する。次いで、認知症の症状を脳機能障害の観点から教授する。認知症患者への対応については、科学的根拠の有無を明確にした上で正しい対応を教授する。さらにケースマネジメント及び家族に対する制度的、心理的サポートを教授する。最後に、ケーススタディと学生自身が実習で経験した事例の発表で、知識・技術と実践を統合する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の疫学の習得</li> <li>2. 神経解剖学の習得</li> <li>3. 脳の機能の習得</li> <li>4. 脳疾患としての認知症の習得</li> <li>5. 認知症の症状の習得</li> <li>6. 認知症の原因疾患（アルツハイマー病、脳血管性認知症、レビー小体型認知症その他）の習得</li> <li>7. 認知症患者への対応の習得</li> <li>8. 認知症に対する社会的対策の習得</li> <li>9. 認知症ケースマネジメントと家族へのサポート方法の習得</li> </ol>																																																																
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>大テーマ</th> <th>コマ数</th> <th>小テーマ</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●認知症を取り巻く状況</td> <td>1</td> <td>認知症を取り巻く状況</td> <td>認知症の疫学、介護保険上の認知症</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">●医学的側面から見た認知症の基礎</td> <td>2</td> <td>神経解剖・生理学①</td> <td>ニューロン、中枢神経系と末梢神経系</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>神経解剖・生理学②</td> <td>脳の解剖・生理学①</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>神経解剖・生理学③</td> <td>脳の解剖・生理学②</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>神経解剖・生理学④</td> <td>脳の解剖・生理学③</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>神経解剖・生理学⑤</td> <td>脳の解剖・生理学④</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>神経解剖・生理学⑥</td> <td>脳の解剖・生理学⑤</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>神経解剖・生理学⑦</td> <td>運動・知覚機能</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>神経解剖・生理学⑧</td> <td>高次脳機能①</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>神経解剖・生理学⑨</td> <td>高次脳機能②</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>神経解剖・生理学⑩</td> <td>末梢神経、自律神経</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>神経解剖・生理学⑪</td> <td>神経薬理学、神経伝達物質</td> <td>講</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>精神と神経</td> <td>脳とこころ</td> <td>講</td> </tr> </tbody> </table>						大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法	●認知症を取り巻く状況	1	認知症を取り巻く状況	認知症の疫学、介護保険上の認知症	講	●医学的側面から見た認知症の基礎	2	神経解剖・生理学①	ニューロン、中枢神経系と末梢神経系	講	3	神経解剖・生理学②	脳の解剖・生理学①	講	4	神経解剖・生理学③	脳の解剖・生理学②	講	5	神経解剖・生理学④	脳の解剖・生理学③	講	6	神経解剖・生理学⑤	脳の解剖・生理学④	講	7	神経解剖・生理学⑥	脳の解剖・生理学⑤	講	8	神経解剖・生理学⑦	運動・知覚機能	講	9	神経解剖・生理学⑧	高次脳機能①	講	10	神経解剖・生理学⑨	高次脳機能②	講	11	神経解剖・生理学⑩	末梢神経、自律神経	講	12	神経解剖・生理学⑪	神経薬理学、神経伝達物質	講	13	精神と神経	脳とこころ	講
大テーマ	コマ数	小テーマ	内 容	授業方法																																																												
●認知症を取り巻く状況	1	認知症を取り巻く状況	認知症の疫学、介護保険上の認知症	講																																																												
●医学的側面から見た認知症の基礎	2	神経解剖・生理学①	ニューロン、中枢神経系と末梢神経系	講																																																												
	3	神経解剖・生理学②	脳の解剖・生理学①	講																																																												
	4	神経解剖・生理学③	脳の解剖・生理学②	講																																																												
	5	神経解剖・生理学④	脳の解剖・生理学③	講																																																												
	6	神経解剖・生理学⑤	脳の解剖・生理学④	講																																																												
	7	神経解剖・生理学⑥	脳の解剖・生理学⑤	講																																																												
	8	神経解剖・生理学⑦	運動・知覚機能	講																																																												
	9	神経解剖・生理学⑧	高次脳機能①	講																																																												
	10	神経解剖・生理学⑨	高次脳機能②	講																																																												
	11	神経解剖・生理学⑩	末梢神経、自律神経	講																																																												
	12	神経解剖・生理学⑪	神経薬理学、神経伝達物質	講																																																												
	13	精神と神経	脳とこころ	講																																																												

	1 4	認知症とは何か①	認知とは、認知障害、高次脳機能障害	講
	1 5	認知症とは何か②	I C I D H、DSMの定義	講
	1 6	認知症の原因疾患①	認知症はどのような病気で起こるか	講
	1 7	認知症の原因疾患②	治癒可能な認知症	講
●認知症に伴うことろとからだの変化と日常生活	1 8	認知症の症状①	記憶障害、失語、失行、失認、実行機能障害	講
	1 9	認知症の症状②	B P S D	講
	2 0	認知症の診断、評価	テスト法、行動評価法、リスク評価	講
	2 1	認知症の治療と予防	薬物、行動療法	講
	2 2	認知症の原因疾患①	アルツハイマー病、F A S T stage	講
	2 3	認知症の原因疾患②	脳血管性認知症	講
	2 4	認知症の原因疾患③	レビー小体型認知症その他の認知症	講
	2 5	認知症の鑑別診断	認知症と間違えられやすい病態	講
	2 6	認知症への対応	認知症への対応	講
●連携と協働	2 7	認知症の社会的対策	地域におけるサポート体制、チームアプローチ	講
●家族への支援	2 8	ケースマネジメントと家族への支援	介護力の評価、家族への教育、レスパイト	講
	2 9	ケーススタディ	ケーススタディ	PBL
	3 0	事例発表	事例発表	事例
<b>【使用テキスト】</b> 「最新介護福祉全書 認知症の理解と介護」 (メヂカルフレンド社) <b>【参考文献】</b> 「中枢神経系の理解」(医歯薬出版) 「痴呆症のすべて」(永井書店) 「脳研究の最前線上・下」(講談社)			<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 学則に定めるとおり	

# シラバス

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義	授業担当者 崎井 真弓	
授業の回数 37回	時間数(単位数) 74時間(37コマ)	配当学年・時期 介護保育科1年 前・後期 介護保育科2年 前期 介護保育科3年 前期		必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 人体の解剖・生理学を体系的に学習する。 ADLの介護に必要な解剖・生理学を学習する。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の解剖・生理学が体系的に理解できる。</li> <li>2. 心身の異常について、医学的に考えることができる思考力を身につける。</li> <li>3. 解剖・生理学の理解を通じて、安全、快適な介護ができるようになる。</li> </ol>				
<b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
大テーマ	コマ	小テーマ	内 容	授業方法
●からだのしくみの理解	1	人間とは何か	宇宙、生命、進化	講
	2	人体の構造と機能①	人体の構造と機能総論	講
	3	人体の構造と機能②	細胞、組織、器官、器官系	講
●移動に関連したところとからだのしくみ	4	筋・骨格系①	筋・骨格系の解剖・生理学①	講
	5	筋・骨格系②	筋・骨格系の解剖・生理学②	講
	6	筋・骨格系③	筋・骨格系症状と疾患・障害①	講
	7	筋・骨格系④	筋・骨格系症状と疾患・障害②	講
	8	筋・骨格系⑤	体位、関節可動域 (ROM)	講
	9	筋・骨格系⑥	ボディメカニクス、補装具	講
●身じたくに関連したところとからだのしくみ ●入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	10	上皮系①	上皮系の解剖・生理学	講
	11	上皮系②	上皮系症状と疾患・障害	講
	12	上皮系③	褥瘡	講
	13	循環器系①	循環器系の解剖・生理学①	講
	14	循環器系②	循環器系の解剖・生理学②	講
	15	循環器系③	循環器系症状と疾患・障害	講
	16	呼吸器系①	呼吸器系の解剖・生理学	講
	17	呼吸器系②	呼吸器系症状と疾患・障害	講
	18	ヴァイタルサイン	ヴァイタルサインの測定と異常の解釈	講
●食事に関連したところ	19	消化器系①	消化器系の解剖・生理学	講

とからだのしくみ ●排泄に関連したところ とからだのしくみ	2 0	消化器系②	歯科・口腔学	講
	2 1	消化器系③	栄養学、経管栄養	講
	2 2	消化器系④	消化器系症状と疾患・障害①	講
	2 3	消化器系⑤	消化器系症状と疾患・障害②	講
	2 4	消化器系⑥	口腔、排便等の観察と記録	講
	2 5	泌尿器系①	泌尿器系の解剖・生理学	講
	2 6	泌尿器系②	泌尿器系症状と疾患・障害①	講
	2 7	泌尿器系③	泌尿器系症状と疾患・障害②	講
	2 8	泌尿器系④	体液バランス、水分摂取と排尿及びその計量と記録	講
●睡眠に関連したところ とからだのしくみ	2 9	内分泌系①	内分泌系の解剖・生理学	講
	3 0	内分泌系②	内分泌系症状と疾患・障害	講
	3 1	内分泌系③	糖尿病の理解	講
	3 2	生殖器系①	生殖器系の解剖・生理学	講
	3 3	生殖器系②	生殖器系症状と疾患・障害	講
	3 4	生活習慣病とメタボリックシンドローム①	生活習慣病とメタボリックシンドロームの概念	講
	3 5	生活習慣病とメタボリックシンドローム②	生活習慣病に属する疾患	講
	3 6	悪性腫瘍	がんの疫学、病態、治療	講
	3 7	救急対応①	ショック、心肺停止、窒息、誤嚥等	講
	3 8	救急対応②	ファーストエイド、心肺蘇生	講
●死にゆく人のところ とからだのしくみ	3 9	救急対応③	脳卒中、心原性ショック、けいれん発作、熱傷、中毒等	講
	4 0	疾患と終末期	呼吸器疾患、心・循環器疾患、腎・泌尿器疾患、肝疾患と終末期	講
	4 1	終末期における身体的症状と対応	呼吸・循環抑制、食欲不振、疲労、衰弱	講
	4 2	ケーススタディ	ケーススタディ①	PBL
	4 3	ケーススタディ	ケーススタディ②	PBL
	4 4	事例発表	事例発表①	事例
	4 5	事例発表	事例発表②	事例

**【使用テキスト】**

「介護福祉学5 こころとからだのしくみ」  
中川義基編著 広島福祉専門学校発行 主婦の友社  
「からだのしくみ事典」 成美堂

**【単位認定の方法及び基準】**

学則に定めるとおり

# シ ラ バ ス

<b>授業のタイトル(科目名)</b> 介護実習Ⅳ		<b>授業の種類</b> 実習	<b>授業担当者</b> 崎井 真弓 山崎 年幸
<b>授業の回数</b> 24日間	<b>時間数(単位数)</b> 180時間(90コマ)	<b>配当学年・時期</b> 介護保育科3年 後期	<b>必修・選択</b> 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  専門職としての実践力を修得するための体験学習をすること。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、老人保健施設での実習                  利用者ごとの介護計画の作成、実施と評価、計画の修正を含めた一連の介護計画の実践。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の生活背景や生活リズムの理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の展開ができる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち利用者の生活ニーズに基づき介護計画を作成し、実施する。</li> <li>・利用者主体とした的確な実践により、その結果を見届け、再アセスメントや介護計画の妥当性および個別性の介護について考察する。</li> </ul> </li> <li>2. チームの一員として介護に関わり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録ができる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理や介護予防の場面、また身体的、精神的疾患の発生に対して、それぞれの職種の連携や介護職の機能を知る。また一連の介護に対する評価と記録をする。</li> </ul> </li> <li>3. 介護福祉士としての自己の介護観が述べられる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業を意識した介護実習をする。</li> </ul> </li> </ol>			
<p><b>【使用テキスト】</b>                  「実習のしおり」広島福祉専門学校                  「最新介護福祉全書 各書」(メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【参考文献】</b>                  「介護福祉士実習指導マニュアル」(大阪府介護福祉士会)                  「介護福祉のための記録15講」(中央法規)                  「実習生のための対人援助技術」(中央法規)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  学則に定めるとおり、評価の基準に従い                  実習指導者と教員で評価</p>	

# 平成31年度 授業概要

科目名 <b>専門演習 I</b>		授業の種類 (講義)	授業担当者 <b>富田 雅子</b>
授業の回数 <b>15 駒</b>	時間数 <b>30時間</b>	配当学年・時期 <b>介護保育科3年 前期</b>	
[授業の目的・ねらい] 現代社会における子育ての現状を理解し、子どもや保護者の子育てを行う環境について学習し、必要とされる保育士の専門性について考える。			
[授業全体の内容の概要] 保育・子育て支援について具体的な事例・課題を取り上げながら、演習形式にて調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。また、それらを有機的に関連付けることによって保育実習 I にも備える。保育の現場で「保育」「子育て支援」「多文化の理解」の3つの視点を学生同士で調べたり討論を交えたりしながら学習していく。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保育実習生としての学ぶ姿勢や観察と記録の重要性について理解し、その技術を学ぶこと、子どもへの関わり方や保育者との関わり方について学ぶことを目標とします。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 現代社会の子どもの育ち① 2 現代社会の子どもの育ち② 3 幼児期の発達と遊び 4 レポート対策1 子どもを知るることについて 5 レポート対策2 子どもを理解するための臨床心理学的な視点と方法 6 レポート対策3 子どもを知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について 7 レポート対策4 子どもを理解するための基本的な考え「カウンセリングマインド」について 8 地域子育て支援センターでの保育実践準備 9 地域子育て支援センターでの保育実践 10 実践編1 保育者による保育の組立について 11 実践編2 保育者による子どもへの対応について 12 実践編3 保育者による保護者への対応及び保護者からの質問について 13 実践編4 実習中の指導・援助について 14 実践編5 実習生・初任者が抱える子どもへの対応のわからなさや園や保育者との関わりかたについて 15 まとめ これまでの学習を踏まえ、保育における保育臨床相談の有効性を考察する			
[使用テキスト] 小田 豊 他 保育臨床相談 北大路書房		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  ○授業中の態度、積極性 総合点の30%  ○提出物の状況 総合点の10%  ○スクーリング終了試験 総合点の60%	
[参考文献] 藤崎真知代 他 育児・保育現場での発達とその支援 ミネルヴァ書房 吉田直子 他 子どもの発達心理学を学ぶ人のために 世界思想社			

# 平成31年度 授業概要

科目名 専門演習Ⅱ		授業の種類 (講義)	授業担当者 富田 雅子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科3年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育実習時における子どもを観察する方法や、観点について学ぶ。 保育実習時における子どもや保護者の問題について考察し、保育現場における支援の実際について学び身につけることを目標とする。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育実習Ⅰを振り返りながら保育実習Ⅱ、Ⅲに備えるとともに、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、グループで課題を設定し、学習を行うことを通じて、問題解決能力を養う</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>保育実習時における子どもや保護者の問題について考察し、保育現場における支援の実際について学び身につけることを目標とする。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 これまでの実習を振り返って自己の課題について考え、グループで解決策について話し合う</li> <li>3 実習前の準備について 保育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの意味と学びの深化について</li> <li>4 実習日誌の重要性について 日誌の書き方について学ぶ</li> <li>5 指導案の作成について① 指導案を作成する際の留意点について</li> <li>6 指導案の作成について② 実習で行う指導案を作成する</li> <li>7 実習終了後について 学校への提出物と実習先へのお礼状、次への実習への心構えについて</li> <li>8 実習中に学んだことのまとめ 自己課題の達成度について確認し、今後の自己課題の設定を行う</li> <li>9 レポート対策【1】 保育実習の問題点とその対応法について考察しまとめる。</li> <li>10 保育実習時における子どもを観察する方法について観察する際の着眼点に焦点をあてて学ぶ</li> <li>11 保育実習時における子どもの問題について考察し、実習生としての対応や問題点の解決策について考察する</li> <li>12 保育実習時における保護者等の問題について考察し、実習生としての対応や問題点の解決策について考察する</li> <li>13 現代社会での子育ての現状と子育て支援の役割についての関係性を考察する</li> <li>14 保育現場で行われている様々な支援について知り、その技術について学ぶ</li> <li>15 これまでの学習を振り返りまとめを行う科目終了試験への対策とレポート課題対策</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>関口はつ江 実習のハンドブック 大学図書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>○授業中の態度、積極性 総合点の30%</p> <p>○提出物の状況 総合点の10%</p> <p>○スクーリング終了試験 総合点の60%</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>藤崎真知代 他 育児・保育現場での発達とその支援 ミネルヴァ書房 吉田直子 他 子どもの発達心理学を学ぶ人のために 世界思想社</p>			

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育相談支援演習		授業の種類 (演習)	授業担当者 富田 雅子						
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科3年 後期							
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代社会での「ともに育てる」という概念について学習し、保護者との信頼関係の構築や地域社会における諸機関との連携の仕方を学び、児童福祉施設全般の保育相談への対応と展開ができるようにする。</p>									
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>現代社会における子育ての現状を理解し、保護者に対する支援の必要性について考える。また、保育士の専門性を生かした支援の特徴とはどんなものかを知り、子どもの最善の利益を守り、保護者の子育てに関する問題解決を図るための支援の実際を知り、その技術を学ぶ。</p>									
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>様々な家庭環境の子どもや保護者に対して、安心して子育てができるような人的環境の一つとして保育者としての専門的な知識を身に付ける。保護者の相談を受容し適切なアドバイスができるよう、専門な技術を身につける。</p>									
<p>[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育相談支援の基本①</li> <li>3 保育相談支援の基本②</li> <li>4 事例で学ぶ保育所入所児童の保護者への相談支援①</li> <li>5 事例で学ぶ保育所入所児童の保護者への相談支援②</li> <li>6 レポート対策【1】</li> <li>7 レポート対策【2】</li> <li>8 事例で学ぶ子育て支援センターにおける相談支援①</li> <li>9 事例で学ぶ子育て支援センターにおける相談支援②</li> <li>10 レポート対策【3】</li> <li>11 レポート対策【4】</li> <li>12 事例で学ぶ児童福祉保育園における相談支援①</li> <li>13 事例で学ぶ児童福祉保育園における相談支援②</li> <li>14 事例で学ぶ特別な対応を要する家庭への相談支援</li> <li>15 保育相談支援の計画</li> </ol>									
<p>[使用テキスト]</p> <p>咲間まり子編著 事例で学ぶ「保育相談支援」大学図書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">○授業中の態度、積極性</td> <td style="text-align: right;">総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>○提出物の状況</td> <td style="text-align: right;">総合点の10%</td> </tr> <tr> <td>○スクーリング終了試験</td> <td style="text-align: right;">総合点の60%</td> </tr> </table>		○授業中の態度、積極性	総合点の30%	○提出物の状況	総合点の10%	○スクーリング終了試験	総合点の60%
○授業中の態度、積極性	総合点の30%								
○提出物の状況	総合点の10%								
○スクーリング終了試験	総合点の60%								
<p>[参考文献]</p> <p>柏女霊峰 他 保育相談支援 ミネルヴァ書房 小林育子 演習保育相談支援 萌文書林</p>									

## 平成31年度 授業概要

科目名 保育・教育実践演習		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 池田 淑子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護保育科 3年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針などから、保育所保育の基本となることを学ぶ。          保育の専門的基礎を基盤にし、更なる知識・技術の向上と、課題に取り組む意義を学ぶ。          現代社会の変化や、保育環境の変化が、子どもに及ぼす影響を分析し課題を学ぶ。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育の専門的基礎力を基盤に、実践の応用及び現代社会において抱えている諸課題について、積極的に発見・分析・解決能力を養う。現代社会の抱える保育の諸問題を挙げ具体化したものを、グループで討議し、相互的に学ぶことを理解する。多様化する社会において「保育者の役割」「個々における育ちを理解と援助方法」「生活と遊び」等が、保育所保育に求められていることを認識し、再構築・協働することの必要性を理解する。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>保育所保育指針の改定の要点と、各章を読み解き理解する。          保育の専門的基礎力を基に、知識・技能の実践への応用と課題解決の方法を理解する。          子ども・子育て環境の諸問題を抽出し方策を考え、実践に活かす意義を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「保育」することの意義 ・保育職・教育職の意義と役割 ・保育者の倫理</li> <li>2 保育者の職務と課題 ・保育者の専門性と倫理観 ・子どもの特性の理解と課題</li> <li>3 保育者に求められる現状と課題 ・子育て環境の変化 ・児童虐待の現状と対応</li> <li>4 保育制度と課題 ・国の保育施策 ・子ども・子育て新制度 ・保育制度の課題</li> <li>5 保育者の保育意識と保育所の役割1 ・ワークライフバランス ・保育ニーズ</li> <li>6 保育所の保育意識と保育所の役割2 ・保護者の子育て環境 ・保育環境の問題意識</li> <li>7 保育環境の改善1 ・子どもの安全・安心な環境 ・保育の環境と保育の改善の視点</li> <li>8 保育環境の改善2 ・子どもの活動と環境 ・環境を通して行う保育</li> <li>9 総合的な実践1 ・保育者としての保育の基本 ・子どもの見方、捉え方</li> <li>10 総合的な実践2 ・子どもの内面理解と信頼関係の形成 ・事例から学ぶ</li> <li>11 総合的な実践3 ・現代社会における幼児教育の問題点 ・多文化共生の保育</li> <li>12 総合的な実践4 ・子どもを取り巻く食育と実践 ・子どもの体力と運動遊び</li> <li>13 保育環境の構成 ・創意工夫のある環境構成 ・各年齢に応じた玩具</li> <li>14 保育者としての向上1 ・全体的な計画の作成・実践 ・保育の省察とカンファレンス</li> <li>15 保育者としての向上2 保育の動向からの施策 ・保育者の研鑽</li> </ol>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>保育・教職実践演習―保育理論と保育実践の手引き          (大学図書出版)          幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック          (大学図書出版)          保育所保育指針ガイドブック(学研)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]          (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験 60%          態度・積極性 30%          ワークシート・提出物 10%</p>	
<p>[参考文献]</p>		<p>総合点 100点</p>	

# 平成31年度 授業概要

科目名 保育実習 I (保育所)		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 奥野 治子
授業の回数 60 駒	時間数	配当学年・時期 介護保育科 3年 前期	
[授業の目的・ねらい]			
<p>保育所の役割や機能を具体的に理解する。子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。既習学習を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について学ぶ。保育の計画、記録、及び自己評価について具体的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
以下の内容			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
保育実習の総括を行う。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 保育所の役割と機能。			
2 子ども理解。			
3 保育内容・保育環境。			
4 保育の計画、観察、記録。			
5 専門職としての保育士の役割と職業倫理。			
6			
↑ ↓			
7 保育実習 I (保育所) 実習期間12日間			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書		(試験やレポートの評価基準など)	
福本俊『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版		出席状況 授業態度	
[参考文献]			
汐見稔幸監修『保育所保育指針ハンドブック』2017告示版 学研			
子櫃智子他著『幼稚園・保育所・認定子ども園パーフェクトガイド』わかば社			

# 平成31年度 シラバス

科目名 アメリカの文化と言語 I		授業の種類 <b>講義</b> 演習・実習	授業担当者 田中 健							
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 前期 <b>後期</b> 通年						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>これからの国際社会に対応していくためには世界的公用言語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。表現力を重視した、読む・書く・聴く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解する。アメリカを中心とした英語圏の文化を理解する。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>これからの国際社会に対応していくためには世界的公用言語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語や学習とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聴く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。</p>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解する。英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化を理解する。</p>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学修の始めに、レポート設題と科目終了試験学修のポイントを熟読すること。</li> <li>2 レポート設題の求める解答記述の作成に際して</li> <li>3 レポート設題の学修のポイント意見の論述 [その1]</li> <li>4 レポート設題の学修のポイント意見の論述 [その2]</li> <li>5 レポート設題の学修のポイント意見の論述 [その3]</li> <li>6 科目終了試験学修のポイント1について [その1]</li> <li>7 科目終了試験学修のポイント1について [その2]</li> <li>8 科目終了試験学修のポイント2について [その1]</li> <li>9 科目終了試験学修のポイント2について [その2]</li> <li>10 科目終了試験学修のポイント3について [その1]</li> <li>11 科目終了試験学修のポイント3について [その2]</li> <li>12 科目終了試験学修のポイント4について [その1]</li> <li>13 科目終了試験学修のポイント4について [その2]</li> <li>14 科目終了試験学修のポイント5について [その1]</li> <li>15 科目終了試験学修のポイント5について [その2]</li> </ol>										
<p>[使用テキスト]</p> <p>ピーター・セラフィン、根間弘海『Twenty American Heroes』三修社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>・修了試験</td> <td style="text-align: right;">60%</td> </tr> <tr> <td>・授業中の態度、積極性</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>・提出物の状況</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table>			・修了試験	60%	・授業中の態度、積極性	30%	・提出物の状況	10%
・修了試験	60%									
・授業中の態度、積極性	30%									
・提出物の状況	10%									
<p>[参考文献]</p> <p>梶原寿『マーティン=L=キング』清水書院 コレッタ・スコット・キング、梶原寿、他『キング牧師の言葉』日本基督教団出版局 辻内鏡人、他『キング牧師』岩波ジュニア新書</p>										

# 平成31年度 シラバス

科目名 健康・スポーツ		授業の種類 <b>講義</b> 演習・実習	授業担当者 木嶋 眞之祐	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 <b>前期</b> ・後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。また、場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>人間の真の健康とは何かを探り、各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようになる。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「健康・スポーツ」の考え方とこれから必要となる健康感の大まかな把握</li> <li>2 スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解1(青年期)</li> <li>3 スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解1(壮年期)</li> <li>4 スポーツテストの実施方法の理解・各テスト種目の実施方法の理解3(高齢者)</li> <li>5 スポーツテストが意味するもの詳細とその意義 ・各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点</li> <li>6 スポーツテストの分析① ・体力の総合的な分析(方法論)</li> <li>7 分析の実際② ・体力の総合的な分析(統計処理1)※Excel を使った統計処理の理解</li> <li>8 分析の実際③ ・応用編(統計処理2)※Excel を使った統計処理の理解</li> <li>9 分析の実際④ ・分析結果の考察および相互における分析(分析結果から見えてくるもの)</li> <li>10 対象者(各現場の視点からによる)の体力・健康における近年の傾向</li> <li>11 各種トレーニングの理解と期待される効果 ・トレーニング効果の意味するものおよびその重要性</li> <li>12 近年における健康感 ・健康感の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康感の展望</li> <li>13 スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画(実践も含む)</li> <li>14 スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画(実践も含む)</li> <li>15 本科目のまとめ</li> </ol> <p>①基礎体力の具体的な分析能力 ②基本的な生活習慣の重要性 ③理想的な健康感 ④各現場において自分がすべきこと</p>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和本書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修了試験 60%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> <li>・提出物の状況 10%</li> </ul>		
<p>[参考文献]</p> <p>上杉尹宏、他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 高年齢者福祉論		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 中山 勇氣			
授業の駒数 30	時間数 60	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 前期・後期・ <b>通年</b>		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>急速な高齢化の進展に伴い21世紀半ばには3人に1人が65歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに高齢者の精神的・身体的特徴や障害および高齢者福祉の社会的背景について考察する。</p>						
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を取り巻く社会状況について</li> <li>・要介護高齢者の状況について</li> <li>・老人福祉法、後期高齢者医療制度、介護保険法について</li> <li>・高齢者の相談援助の特徴について</li> </ul>						
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>高齢者を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて学習し、それらに対するサービス体系や法制度及びサービスの現状について理解できる。</p>						
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者福祉とは</li> <li>2 ライフサイクルから見た高齢者に対する理解</li> <li>3 少子高齢社会と社会的問題①</li> <li>4 少子高齢社会と社会的問題②</li> <li>5 少子高齢社会と社会的問題③</li> <li>6 高齢者を取り巻く諸問題</li> <li>7 高齢者保健福祉制度の歩み①</li> <li>8 高齢者保健福祉制度の歩み②</li> <li>9 高齢者保健福祉制度の歩み③</li> <li>10 高齢者支援関連法(老人福祉法①)</li> <li>11 高齢者支援関連法(老人福祉法②)</li> <li>12 高齢者支援関連法(老人福祉法③)</li> <li>13 高齢者支援関連法(後期高齢者医療制度①)</li> <li>14 高齢者支援関連法(後期高齢者医療制度②)</li> <li>15 高齢者支援関連法(高齢社会対策基本法ほか)</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>16 高齢者支援関連法(高齢者虐待防止法)</li> <li>17 高齢者支援関連法(高齢者居住安定法①)</li> <li>18 高齢者支援関連法(高齢者居住安定法②)</li> <li>19 介護保険制度の全体像/目的と理念</li> <li>20 介護保険財政</li> <li>21 介護保険の保険者と被保険者</li> <li>22 介護保険制度の仕組み</li> <li>23 介護保険制度の仕組み</li> <li>24 介護保険サービスの体系</li> <li>25 介護保険サービスの体系</li> <li>26 地域支援事業</li> <li>27 地域支援事業</li> <li>28 地域包括支援センターの役割と機能</li> <li>29 高齢者を支援する組織</li> <li>30 講義振り返り・試験</li> </ul> </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者福祉とは</li> <li>2 ライフサイクルから見た高齢者に対する理解</li> <li>3 少子高齢社会と社会的問題①</li> <li>4 少子高齢社会と社会的問題②</li> <li>5 少子高齢社会と社会的問題③</li> <li>6 高齢者を取り巻く諸問題</li> <li>7 高齢者保健福祉制度の歩み①</li> <li>8 高齢者保健福祉制度の歩み②</li> <li>9 高齢者保健福祉制度の歩み③</li> <li>10 高齢者支援関連法(老人福祉法①)</li> <li>11 高齢者支援関連法(老人福祉法②)</li> <li>12 高齢者支援関連法(老人福祉法③)</li> <li>13 高齢者支援関連法(後期高齢者医療制度①)</li> <li>14 高齢者支援関連法(後期高齢者医療制度②)</li> <li>15 高齢者支援関連法(高齢社会対策基本法ほか)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16 高齢者支援関連法(高齢者虐待防止法)</li> <li>17 高齢者支援関連法(高齢者居住安定法①)</li> <li>18 高齢者支援関連法(高齢者居住安定法②)</li> <li>19 介護保険制度の全体像/目的と理念</li> <li>20 介護保険財政</li> <li>21 介護保険の保険者と被保険者</li> <li>22 介護保険制度の仕組み</li> <li>23 介護保険制度の仕組み</li> <li>24 介護保険サービスの体系</li> <li>25 介護保険サービスの体系</li> <li>26 地域支援事業</li> <li>27 地域支援事業</li> <li>28 地域包括支援センターの役割と機能</li> <li>29 高齢者を支援する組織</li> <li>30 講義振り返り・試験</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者福祉とは</li> <li>2 ライフサイクルから見た高齢者に対する理解</li> <li>3 少子高齢社会と社会的問題①</li> <li>4 少子高齢社会と社会的問題②</li> <li>5 少子高齢社会と社会的問題③</li> <li>6 高齢者を取り巻く諸問題</li> <li>7 高齢者保健福祉制度の歩み①</li> <li>8 高齢者保健福祉制度の歩み②</li> <li>9 高齢者保健福祉制度の歩み③</li> <li>10 高齢者支援関連法(老人福祉法①)</li> <li>11 高齢者支援関連法(老人福祉法②)</li> <li>12 高齢者支援関連法(老人福祉法③)</li> <li>13 高齢者支援関連法(後期高齢者医療制度①)</li> <li>14 高齢者支援関連法(後期高齢者医療制度②)</li> <li>15 高齢者支援関連法(高齢社会対策基本法ほか)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16 高齢者支援関連法(高齢者虐待防止法)</li> <li>17 高齢者支援関連法(高齢者居住安定法①)</li> <li>18 高齢者支援関連法(高齢者居住安定法②)</li> <li>19 介護保険制度の全体像/目的と理念</li> <li>20 介護保険財政</li> <li>21 介護保険の保険者と被保険者</li> <li>22 介護保険制度の仕組み</li> <li>23 介護保険制度の仕組み</li> <li>24 介護保険サービスの体系</li> <li>25 介護保険サービスの体系</li> <li>26 地域支援事業</li> <li>27 地域支援事業</li> <li>28 地域包括支援センターの役割と機能</li> <li>29 高齢者を支援する組織</li> <li>30 講義振り返り・試験</li> </ul>					
<p>[使用テキスト]</p> <p>『新・社会福祉士養成講座⑬高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 期末試験を実施、本校の学則に従って評価する。</p>				
<p>[参考文献]</p>						

# 平成31年度 シラバス

科目名 人体の構造と機能及び疾病		授業の種類 <u>講義</u> ・演習・実習	授業担当者 天道 俊孝	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 前期 <u>後期</u> ・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、日常業務で生かせる基本的な医学的知識を習得する。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>近年、医学・医療に関するニーズは高まっており、医療、介護、保健、福祉といった専門的分野はもちろろん、教育や一般社会組織の現場でも最低限の知識と技術が要求される。本科目では人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、日常業務で生かせる基本的な医学的知識を習得。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、基本的な医学的知識を習得し日常業務で生かせる。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション: 命と医学・医療、医学・医療の歴史</li> <li>2 心身機能と身体構造①: 人体各部の名称と機能の概要</li> <li>3 心身機能と身体構造②: 消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患</li> <li>4 心身機能と身体構造③: 骨格系、筋系。代表的な関連疾患</li> <li>5 心身機能と身体構造④: 神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患</li> <li>6 疾病と障害①: 生活習慣病(がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム)</li> <li>7 疾病と障害②: 先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害</li> <li>8 疾病と障害③: 感染症とその対策</li> <li>9 疾病と障害④: 精神障害、高次脳機能障害</li> <li>10 疾病と障害⑤: 加齢と老化(老化性疾患、認知症、生活不活発病)</li> <li>11 疾病と障害⑥: 老化性疾患(骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など)</li> <li>12 疾病と障害⑦: ストレス性疾患、免疫異常、難病</li> <li>13 日本人の健康状態と寿命: 現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測</li> <li>14 健康づくり: 健康度の向上、健康寿命延長のための活動</li> <li>15 最新の医学情報 生きること、また命をめぐる様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。</li> </ol> <p>総括 医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点で考察する。</p>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修了試験 60%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> <li>・提出物の状況 10%</li> </ul>		
<p>[参考文献]</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 <p style="text-align: center;">社会福祉原論</p>	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 <p style="text-align: center;">奥野 治子</p>
授業の駒数 <p style="text-align: center;">30</p>	時間数 <p style="text-align: center;">60</p>	配当学科 <p style="text-align: center;">社会福祉科</p>
		学年 <p style="text-align: center;">1</p>
		配当時期 <p style="text-align: center;">前期・後期・<b>通年</b></p>
[授業の目的・ねらい]  現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能を理解し、福祉専門職として必要な基礎知識を習得する。		
[授業全体の内容の概要]  社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学修する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]  社会福祉専門職としての社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。また、日本の社会福祉の動向や今後の課題などについて考える。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数		
1 社会福祉の概念 2 社会福祉の理念 3 社会福祉の関連諸施策 4 日本における社会福祉の史的展開(欧米) 5 日本における社会福祉の史的展開(欧米) 6 日本における社会福祉の史的展開(日本) 7 社会福祉の援助対象 8 社会福祉のニーズ 9 社会福祉の法制度(1) 10 社会福祉の法制度(2) 11 社会福祉の法制度(3) 12 社会保障制度(1) 13 社会保障制度(2) 14 社会福祉の行財政 15 社会福祉と民間福祉活動	16 社会福祉の専門職と専門職制度 17 地域福祉の推進(1) 18 地域福祉の推進(2) 19 社会福祉援助の意味(相談援助) 20 社会福祉援助の方法 21 社会福祉機関の組織と運営 22 社会福祉援助の利用と支援 23 社会福祉援助の評価システム 24 社会福祉援助の評価システム 25 戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性 26 社会福祉の国際動向(イギリス) 27 社会福祉の国際動向(アメリカ) 28 社会福祉の国際動向(ドイツ) 29 社会福祉の国際動向(北欧) 30 21世紀の社会福祉の展望	
[使用テキスト] 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規。	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  ・試験 70% ・授業中の態度、積極性 30%	
[参考文献] 京極高宣『改定 社会福祉学とは何か』全国社会福祉協議会。 ミネルヴァ書房編集委員会『社会福祉小六法(最新版)』ミネルヴァ書房。		

# 平成31年度 シラバス

科目名 社会福祉入門		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 東田 卓也	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 前期・後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>少子高齢化の進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、社会福祉とはどのようなものなのかを学習していく。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学習する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>社会福祉の役割や理念について理解できている。 社会福祉の歴史的な流れについて理解できている。 社会福祉の実際について理解できている。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉とは何か</li> <li>2 イギリスにおける社会福祉の発達</li> <li>3 アメリカにおける社会福祉の発達</li> <li>4 日本における社会福祉の発達</li> <li>5 わが国の社会福祉制度の展開</li> <li>6 わが国の社会福祉行政</li> <li>7 社会福祉援助とソーシャルワーク、援助の原則</li> <li>8 ソーシャルワークの種類</li> <li>9 わが国の高齢者福祉の現状</li> <li>10 わが国の児童福祉の現状</li> <li>11 わが国の障害者福祉の現状</li> <li>12 地域福祉活動の重要性</li> <li>13 貧困問題と社会福祉</li> <li>14 社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>15 社会福祉士・介護福祉士の職場と福祉専門職に求められる資質</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>大島侑、他『シリーズ・はじめて学ぶ社会福祉① 社会福祉概論』ミネルヴァ書房</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 期末試験を実施し、本校学則に従って評価を行う。</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>今村理一『新しい時代の社会福祉施設論』ミネルヴァ書房 京極高宣『社会福祉学小辞典(改訂版)』ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習 I		授業の種類 (講義)演習・実習	授業担当者 内平 八重子	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 (前期)後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>ソーシャルワークにおけるニーズについて理解し、地域社会におけるニーズについて考察を深める。 さらに、地域社会の診断、ニーズの予測、地域ニーズの探索から地域アセスメント、地域福祉支援計画を作成することを通して、地域における包括的支援方法を身につける。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストに沿って、相談援助の流れを学習する。</li> <li>・新聞等、種々の情報を収集し、自分の意見を持つ、整理する。</li> <li>・グループワーク等で他者と意見交換し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。</li> <li>・障害者の通所施設において、基礎福祉演習を行う。</li> <li>・基礎福祉演習により、対象者理解、スタッフの関わり方、支援の方向性などについて学習する。</li> </ul>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握について理解する。</li> <li>・地域福祉の計画について理解する。</li> <li>・ネットワーキングについて理解する。</li> <li>・社会資源の活用、調整、開発について理解する。</li> <li>・サービスの評価について理解する。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉とは何か、また社会福祉援助活動について</li> <li>2 社会福祉援助活動の共通展開過程について(1)</li> <li>3 社会福祉援助活動の共通展開過程について(2)</li> <li>4 個人のニーズについて(1)</li> <li>5 個人のニーズについて(2)</li> <li>6 個人のニーズについて(3)</li> <li>7 福祉ニーズについて</li> <li>8 コミュニティとその診断(1)</li> <li>9 コミュニティとその診断(2)</li> <li>10 地域社会におけるニーズ探索とその段階について</li> <li>11 現地調査の実施方法</li> <li>12 計画立案と満たされていないニーズ</li> <li>13 計画の実践</li> <li>14 評価の方法</li> <li>15 成果発表について</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>「はじめての社会福祉」編集委員会 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験           70 点 授業態度      15 点 提出物        15 点</p>		
<p>[参考文献]</p> <p>新聞記事等随時配布</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅱ		授業の種類 講義 <u>演習</u> ・実習	授業担当者 先野 祐史							
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 前期 <u>後期</u> 通年						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① 「人間」に関する理解                  ② 「人間のこころ」の理解                  ③ 「人間の気持ち」の理解                  ④ 「人間の行動」の理解                  ⑤ 面接の理解                  ⑥ コミュニケーション技法の理解</p>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>社会福祉士に求められる自己覚知の促進、基本的なコミュニケーション技術・面接技術の習得を目指す。</p>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事例を通じて「人間」について理解する</li> <li>2 「クライアント」とはどのような「人間」か理解する</li> <li>3 他者のこころを理解する</li> <li>4 自己のこころを理解する</li> <li>5 他者の気持ちを理解する</li> <li>6 自己の気持ちを理解する</li> <li>7 他者の行動について、実習記録を通じ理解する</li> <li>8 他者の行動について、面接を想定し理解する</li> <li>9 自己の行動について理解する</li> <li>10 事例を基に面接の特性について理解する</li> <li>11 事例を基に共感や支持の大切さについて理解する</li> <li>12 応答技法の種類と目的について理解する</li> <li>13 基本的応答技法の用い方について理解する</li> <li>14 事例を基に面接の展開過程について理解する</li> <li>15 非言語コミュニケーションの意義・効力を理解する</li> </ol>										
<p>[使用テキスト]</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助演習』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">授業態度</td> <td style="text-align: right;">70</td> </tr> <tr> <td>出席状況</td> <td style="text-align: right;">15</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td style="text-align: right;">15</td> </tr> </table>			授業態度	70	出席状況	15	提出物	15
授業態度	70									
出席状況	15									
提出物	15									
<p>[参考文献]</p> <p>社会福祉士養成校座編集委員会                  『相談援助の理論と方法Ⅰ』                  『相談援助の理論と方法Ⅱ』                  中央法規</p>										

# 平成31年度 シラバス

科目名 <p style="text-align: center;">日本史</p>		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 <p style="text-align: center;">森脇 浩子</p>	
授業の駒数 <p style="text-align: center;">15</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30</p>	配当学科 <p style="text-align: center;">社会福祉科</p>	学年 <p style="text-align: center;">1</p>	配当時期 前期・後期・通年
[授業の目的・ねらい] 授業の目的は自分の国の歴史を理解することである。すなわち、歴史の流れや事柄の内容を深く正しく理解することである。歴史には必ず転換点、つまりターニングポイントがあるので、その転換点を正しく把握することを目的とする。				
[授業全体の内容の概要] 大化の改新から幕藩体制の崩壊までを順に学んでいく。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 事柄をできるだけ多角的に捉え、歴史的考察能力の習得をめざす。				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション・大化の改新から律令国家形成まで 2 平城京について 3 平安京の確立・平安初期の政治改革について 4 藤原氏北家の発展と摂関政治について 5 荘園制度・地方の反乱と武士の成長 6 院政の開始・平氏政権について 7 鎌倉幕府の成立について 8 武士の社会・執権主導の政治体制の確立 9 室町幕府の成立 10 室町幕府の衰退と庶民の台頭 11 戦国時代について 12 幕藩体制の成立について 13 幕藩体制の動揺 14 開国と幕末の動乱について 15 明治維新・新たな時代について				
[使用テキスト] 山川出版社「改訂版 詳説 日本史研究」			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
[参考文献] 新星出版社「日本史」			・レポート 30% ・試験 20% ・課題 30% ・授業中の態度、積極性 20%	

# 平成31年度 シラバス

科目名 文章表現		授業の種類 <b>講義</b> 演習・実習	授業担当者 奥野 治子	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 <b>前期</b> 後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レポート作成に必要な「書く」技術の基礎を習得する。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔明快な表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点を置いて学修していく。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>「文章表現」のレポート設題に即し、上記内容を踏まえレポートを作成する。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。</li> <li>2 レポートで必要とされる文章を知る。</li> <li>3 レポートで求められる文章の構造を理解する。</li> <li>4 レポートの主題を設定する。</li> <li>5 レポートを設計する。</li> <li>6 情報を集める。</li> <li>7 必要な情報を整理し、要約する。</li> <li>8 レポートにおける段落の役割と構造を知る。</li> <li>9 レポートを組み立てる。</li> <li>10 引用方法を知る。</li> <li>11 ポイントを押さえてレポートを作成する。</li> <li>12 参考文献リストの書き方を理解する。</li> <li>13 レポートの表記の方法を知る。</li> <li>14 文章・表現・形式を点検する。</li> <li>15 レポートを自己評価する。</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>古郡廷治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート 70%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> </ul>		
<p>[参考文献]</p> <p>大島弥生、他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 ボランティア論		授業の種類 <u>講義</u> ・演習・実習	授業担当者 東田 卓也	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 1	配当時期 <u>前期</u> ・後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「何か自分たちにもできることがあるに違いない」、「他者や社会の助けになりたい」という内的動機に支えられた活動には、そのための準備、トレーニング、実践体験の裏づけが必要である。ボランティアについての基礎理論を学習した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例を基に学習する。また、ボランティア活動を実際に体験し、その経験をもとに、より効果的にボランティア活動を行うために必要なことを考察していく。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ボランティア活動の歴史を踏まえ、様々な福祉分野でのボランティア活動の実体、さらに専門機関との連携について学習する。また、ボランティア活動を行う上で必要な視点、留意点について学習する。さらに、各分野でのボランティア活動の実際について学習する。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>ボランティア活動の歴史について理解できている。                  様々な福祉分野や関係機関とボランティアの関係について理解できている。                  ボランティア活動を行う上で必要な視点や留意点について理解できている。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティアとは何か</li> <li>2 ボランティア活動の歴史(1)</li> <li>3 ボランティア活動の歴史(2)</li> <li>4 ボランティア活動の歴史(3)</li> <li>5 NPOについて</li> <li>6 高齢者問題とボランティア</li> <li>7 障害者問題とボランティア</li> <li>8 児童問題とボランティア</li> <li>9 災害とボランティア</li> <li>10 環境問題とボランティア</li> <li>11 国際問題と国際ボランティア</li> <li>12 行政とボランティア</li> <li>13 福祉施設職員とボランティア</li> <li>14 ボランティアと人権の視点</li> <li>15 ボランティア活動を行う際の留意点</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>巡静一、他『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>期末試験を実施し、本校学則に従って評価を行う。</p>		
<p>[参考文献]</p> <p>安藤雄太『まるごとガイドシリーズ⑩ ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房                  大坂ボランティア協会編『ボランティア—参加する福祉』ミネルヴァ書房                  金子郁容『ボランティア—もうひとつの情報社会』岩波書店                  巡静一『在宅福祉とボランティア—ふくしのまちづくり』勁草書房</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 児童家庭福祉論		授業の種類 <b>講義</b> 演習・実習	授業担当者 上栗 明男	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 2	配当時期 <b>前期</b> ・後期・通年
[授業の目的・ねらい] 児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育成支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。				
[授業全体の内容の概要] 少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育成支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 少子高齢社会と次世代育成支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などを理解し、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開ができる。				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
1 第1章 「現代社会と子ども家庭」: 子ども家庭福祉を取り巻く現状・子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状				
2 第1章 「現代社会と子ども家庭」: 子どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズ・支援の基本的視点				
3 第2章 「子ども家庭福祉とは」: 子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障				
4 第2章 「子ども家庭福祉とは」: 子ども家庭福祉の定義、原理、理念、児童福祉の歴史				
5 第3章 「子ども家庭福祉にかかわる法制度」: 児童福祉六法や子ども家庭福祉に深く関連する法律				
6 第3章 「子ども家庭福祉にかかわる法制度」: 子ども家庭福祉行政の実施主体となる実施機関、児童福祉施設、子ども家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源				
7 第4章 「子ども家庭にかかわる福祉・保障」: (母子保健)母子保健法、母子保健施策の現状、今後の課題等				
8 (障害・難病のある子どもと家庭への支援): 障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもへの支援に関する制度				
9 (児童健全育成): 児童健全育成施策の現状や今後の課題				
10 (保育): 保育施策の現状、待機児童問題など今後の課題				
11 (子育て支援): 子育て支援に対する社会的支援、子育て支援施策の動向				
12 (ひとり親過程の福祉、児童の社会的擁護サービス): 母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要や近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設等				
13 (非行児童・情緒障害児への支援): 非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害児とその家族への支援の課題				
14 (児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉): 児童虐待の定義、子どもを虐待から保護する仕組み、ドメスティック・バイオレンスの対応等				
15 第5章 「子どもと家庭への援助活動」: ソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学修				
[使用テキスト] 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		
[参考文献] 厚生労働省『厚生労働白書』 柏女霊峰『現代児童福祉論』誠心書房		・修了試験 60%		
		・授業中の態度、積極性 30%		
		・提出物の状況 10%		

# 平成31年度 シラバス

科目名 <p style="text-align: center;">社会調査法</p>	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 <p style="text-align: center;">内平 八重子</p>
授業の駒数 <p style="text-align: center;">15</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30</p>	配当学科 <p style="text-align: center;">社会福祉科</p>
		学年 <p style="text-align: center;">2</p>
		配当時期 <p style="text-align: center;">前期 (後期) 通年</p>
[授業の目的・ねらい] 社会調査の基本的性格を考察し、代表的な調査技法である統計調査法と事例調査法の基本原理と方法、手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析の方法、質問紙、調査票の作成の手順、観察や面接の技法といった具体的な方法論も学ぶ。		
[授業全体の内容の概要] ・社会調査の歴史や基本的性格の考察から、現在の福祉活動における社会福祉調査の必要性を学ぶ。 ・量的調査と質的調査の特徴を学び、調査結果の意味について学習する。 ・量的調査、質的調査の概要が分かり、できるようになる。 ・観察調査、面接調査の演習を行い、実際にどのように行われているか理解する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 ・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 社会調査の歴史(1:ヨーロッパ) 2 社会調査の歴史(2:日本) 3 調査の手順 4 社会調査の種類 5 量的調査と質的調査の比較 6 量的調査(1)…調査の手順概要、依頼文書の作り方 7 量的調査(2)…質問紙の作成、ワーディングの注意点 8 量的調査(3)…標本数と標本誤差、代表値、偏差、分散などの概要 9 量的調査(4)…量的変数間の特徴、度数分布図、信頼性と妥当性、クロス集計など 10 質的調査(1)…質的調査の特徴、種類 11 質的調査(2)…調査手法 12 質的調査(3)…質的調査のデータ分析 13 社会調査における倫理 14 報告書のまとめ方(1) 15 報告書のまとめ方(2)		
[使用テキスト] 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座5 社会福祉の基礎』 中央法規	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  試験            70 点 授業態度      15 点 提出物        15 点	
[参考文献]		

# 平成31年度 シラバス

科目名 社会保障論 I		授業の種類 ①講義・演習・実習	授業担当者 森脇 克樹	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 2	配当時期 ①前期・後期・通年
[授業の目的・ねらい] 社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得する。社会保障の体系や機能、財政に加えて、具体的な制度としては年金・雇用・労災保険を中心に学修。				
[授業全体の内容の概要] 社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。社会保障の体系や機能、財政に加えて、具体的な制度としては年金・雇用・労災保険を中心に学修する。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得。				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 社会保障制度の体系・機能・方法(テキスト第1週) 2 社会保障給付の方法(テキスト第1週) 3 社会保障制度の財源(テキスト第2週) 4 国際的な社会保障の流れ(テキスト第4週) 5 日本の社会保障の発展(テキスト第4週) 6 年金保険制度の概要(テキスト第5週) 7 年金保険制度の沿革(テキスト第5週) 8 国民年金(基礎年金)制度の保険者・被保険者と費用負担(テキスト第6週) 9 国民年金(基礎年金)制度の保険給付(テキスト第6週) 10 厚生年金保険の保険者・被保険者と費用負担(テキスト第7週) 11 厚生年金保険の保険給付(テキスト第7週) 12 旧共済年金と被用者年金一元化(テキスト第7週) 13 雇用保険(テキスト第12週) 14 労災保険(テキスト第13週) 15 保険の意義と企業年金(テキスト第15週)				
[使用テキスト] 喜多村悦史『「社会保障論」テキスト』東京福祉大学出版会		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  ・修了試験                  60% ・授業中の態度、積極性  30% ・提出物の状況          10%		
[参考文献] 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ』有斐閣アルマ 今井伸編『わかる・みえる社会保障論 事例でつかむ 社会保障入門』みらい 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障』中央法規 厚生労働省『厚生労働白書(各年版)』				



# 平成31年度 シラバス

科目名 障害者福祉論		授業の種類 (講義)演習・実習	授業担当者 渡辺 博文	
授業の駒数 30	時間数 60	配当学科 社会福祉科	学年 2	配当時期 前期・後期(通年)
[授業の目的・ねらい] 福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で生きる理解を深める。				
[授業全体の内容の概要] 今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、生涯の種類の多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で生きる理解を深める。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で活かせる。				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者を取り巻く社会情勢①(国際情勢とその影響を受けてのわが国の状況)</li> <li>2 障害者を取り巻く社会情勢②(国際情勢とその影響を受けてのわが国の状況)</li> <li>3 障害者を取り巻く生活実態(1)－1環境因子が社会生活にもたらす影響</li> <li>4 障害者を取り巻く生活実態(1)－2環境因子が社会生活にもたらす影響</li> <li>5 障害者を取り巻く生活実態(2)－1 WHOのICFにみる障害の考え方の変化</li> <li>6 障害者を取り巻く生活実態(2)－2 WHOのICFにみる障害の考え方の変化</li> <li>7 障害者にかかわる法体系(1)－1 障害者基本法、身体障害者福祉法</li> <li>8 障害者にかかわる法体系(1)－2 障害者基本法、身体障害者福祉法</li> <li>9 障害者にかかわる法体系(2)－1 障害者福祉法、精神保健福祉法</li> <li>10 障害者にかかわる法体系(2)－2 障害者福祉法、精神保健福祉法</li> <li>11 障害者にかかわる法体系(3)－1 発達障害者支援法、障害者虐待防止法等</li> <li>12 障害者にかかわる法体系(3)－2 発達障害者支援法、障害者虐待防止法等</li> <li>13 障害者自立支援制度(1)－1 理念・考え方、自立支援給付</li> <li>14 障害者自立支援制度(1)－2 理念・考え方、自立支援給付</li> <li>15 障害者自立支援制度(2)－1 支給決定のプロセス、自立支援医療費、舗装具等</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16 障害者自立支援制度(2)－2 支給決定のプロセス、自立支援医療費、舗装具等</li> <li>17 障害者自立支援制度(3)－1 地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決等</li> <li>18 障害者自立支援制度(3)－2 地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決等</li> <li>19 障害児に対する支援(1)－1 施策の歴史</li> <li>20 障害児に対する支援(1)－2 施策の歴史</li> <li>21 障害児に対する支援(2)－1 最近の動向</li> <li>22 障害児に対する支援(2)－2 最近の動向</li> <li>23 組織・機関の役割(1)－1 行政機関の役割、その他事業者等の役割</li> <li>24 組織・機関の役割(1)－2 行政機関の役割、その他事業者等の役割</li> <li>25 専門職の役割(1)－1 専門職の価値と倫理、主な専門職員と役割</li> <li>26 専門職の役割(1)－2 専門職の価値と倫理、主な専門職員と役割</li> <li>27 他職種連携(1)－1 連携の実際 保健・医療福祉の連携、チームケアの実際</li> <li>28 他職種連携(1)－2 連携の実際 保健・医療福祉の連携、チームケアの実際</li> <li>29 ネットワーキングの動向(1)－1 地域自立生活支援の視点から、障害児・者に対するネットワーキングの実際</li> <li>30 ネットワーキングの動向(1)－2 地域自立生活支援の視点から、障害児・者に対するネットワーキングの実際</li> </ol>			
[使用テキスト] 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		
[参考文献] 大野智也『障害者はいま』岩波新書 佐藤久夫『障害者福祉論』誠信書房		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了試験 60%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> <li>・提出物の状況 10%</li> </ul>		

# 平成31年度 シラバス

科目名 法学 I (憲法)		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 和久野 藍	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 2	配当時期 前期 後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会に役立つ人材となるために、諸法令を理解し、それらを運用するための基礎的な能力を身に付ける。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>将来の目標がいかなるものであっても、社会に役立つ人材となるためには、諸法令を理解し、それらを運用するための基礎的な能力を身に付けることが必要である。すなわち、諸法令の根源にある憲法、行政法、民法などについて、一般的な知識を習得しなければならない。諸法令の理解を容易にするために、その基盤となっている法学概論(法 の概念、法の効力、法の運用・解釈、諸法令の内容)を勉強し、そのあとで、国家の政治体制と国民の基本的な人権を定めている最高法規としての憲法の学習へと進んでいく。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>諸法令の根源にある憲法、行政法、民法などについて、一般的な知識を習得。法学概論(法 の概念、法の効力、法の運用・解釈、諸法令の内容)を勉強し、最高法規としての憲法を理解。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法の本質と目的(テキスト1頁～) 社会生活の秩序を図ることが法の本質。法の目的、法と道徳のちがいを</li> <li>2 法源(テキスト7頁～) 成文法と不文法という法 の存在形式(法源)</li> <li>3 慣習法と判例法(テキスト10頁～) 不文法の中の慣習法と判例法 の重要性</li> <li>4 法 の体系(テキスト14頁～) 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称する。法は①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類</li> <li>5 法 の効力(テキスト18頁～) 法 の妥当性と実効性を考察する</li> <li>6 法 の適用と解釈(テキスト21頁～) 法 の解釈方法の違 いを見きわめる</li> <li>7 憲法 の基礎(テキスト26頁～) 憲法 の意味とその基本原理</li> <li>8 立法 と国会(テキスト39頁～) 国会 の権限</li> <li>9 行政 と内閣(テキスト50頁～) 内閣 の機能</li> <li>10 司法 と裁判所(テキスト60頁～) 裁判所 の役割</li> <li>11 人権 の概念とその限界(テキスト65頁～) 基本的な人権 の思想史とその種類</li> <li>12 自由権(テキスト83頁～) 自由権 の種類とその内容を研究</li> <li>13 社会権(テキスト96頁～) 社会権 の種類とその存在価値を検討</li> <li>14 受益権(テキスト108頁～) 受益権 の種類とその事例を考察</li> <li>15 参政権(テキスト112頁～) 参政権 の種類とその意義</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p>		
<p>[参考文献]</p> <p>『図解による法律用語辞典』自由国民社 丹羽重博『やさしい法学・第3版』法学書院 伊藤正己『憲法入門・第4補訂版』有斐閣 山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了試験 60%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> <li>・提出物の状況 10%</li> </ul>		

# 平成31年度 シラバス

科目名 介護概論		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 山崎 年幸	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 前期(後期)通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉の専門職は倫理・多様なニーズに応える実践力が求められるため、介護に関わる職種の理解とチームアプローチについて理解を深めなければならない。社会福祉の視点を持ちながら、介護実践を学ぶ内容とするためにも、自立支援に向けた介護のあり方について理解を深め、さらには認知症ケア、終末期ケア、住環境、医療的ケアなど求められるケアが多様なため、支援のあり方について理解できる学習としたい。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① 専門職として求められる介護の意義・目的を学ぶ ② 介護の機能と役割を学ぶ ③ 介護を必要とする人間の理解と尊厳について学ぶ ④ 介護予防の基本的な考え方を学ぶ ⑤ 介護過程の意義や目的、展開方法について学ぶ ⑥ 自立に向けた具体的な支援方法について学ぶ ⑦ 認知症ケア、終末期ケア、住環境、医療的ケアについて学ぶ ⑧ 介護に関わる関係職種と理解と連携について学ぶ</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>① 専門職として求められる介護の意義・目的を理解する ② 介護の機能と役割を理解する ③ 介護を必要とする人の理解と尊厳について理解する ④ 介護予防の基本的な考え方について理解する ⑤ 介護過程の意義や目的、展開方法について理解する ⑥ 自立に向けた具体的な支援方法について理解する ⑦ 多様なケアのあり方について理解する ⑧ 介護に関わる関係職種の役割と連携について理解する</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護の概念と範囲</li> <li>2 介護の理念</li> <li>3 介護の対象</li> <li>4 介護の予防</li> <li>5 介護過程の展開</li> <li>6 自立に向けた介護</li> <li>7 家事における自立支援</li> <li>8 身支度・移動・睡眠の介護</li> <li>9 食事・口腔衛生の介護</li> <li>10 入浴・清潔・排泄の介護</li> <li>11 認知症ケア</li> <li>12 終末期ケア</li> <li>13 住環境</li> <li>14 医療的ケア</li> <li>15 介護における専門職の役割と連携 高齢者福祉の課題とまとめ</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編集 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 新・社会福祉士養成講座第5版 第13巻 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>筆記試験および出席状況、授業態度、提出物等を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定める通り。</p>		
<p>[参考文献]</p> <p>日本介護福祉士養成施設協会編 『医療的ケア』 介護福祉士養成テキスト4 法律文化社出版</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 <b>就労支援</b>		授業の種類 <b>講義 演習・実習</b>	授業担当者 <b>森脇 浩子</b>									
授業の駒数 <b>15</b>	時間数 <b>30</b>	配当学科 <b>社会福祉科</b>	学年 <b>3</b>	配当時期 <b>前期 後期・通年</b>								
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>就労について、その意義の把握と雇用・就労の動向、労働法規等の法律の理解を踏まえて理解させる。そして具体的に、障害者・低所得者に対する就労支援制度について組織、団体の役割と実際を学び理解させる。</p>												
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>昨今のライフスタイル変化や、働き方の多様化のなかで、働くことは、教育、納税と並んで国民が果たさなければならない義務であるとともに、権利主体が保障されるべき基本的権利である。そこで、就労支援を必要とする人びとに対する人権擁護、労働福祉施策としての就労支援について理解を深める。</p>												
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>就労支援制度の概要、関係機関との連携の方法について理解する。対象者の就労を効果的かつ効率的に支援することのできる実践力を習得する。</p>												
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 働くことの意味と社会福祉士の役割</li> <li>2 雇用・就労の動向と労働施策の概要</li> <li>3 労働法規の概要①</li> <li>4 労働法規の概要②</li> <li>5 就労支援にかかわる法律</li> <li>6 障害者に対する就労支援①</li> <li>7 障害者に対する就労支援②</li> <li>8 障害者への就労支援に係る組織、団体の役割と実際①</li> <li>9 障害者への就労支援に係る組織、団体の役割と実際②</li> <li>10 低所得者に対する就労支援①</li> <li>11 低所得者に対する就労支援②</li> <li>12 ひとり親家庭に対する就労支援</li> <li>13 低所得者への就労支援に係る組織、団体の役割と実際</li> <li>14 就労支援におけるケアマネジメントの留意点</li> <li>15 就労支援における連携・ネットワーキングの実際</li> </ol>												
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会「就労支援サービス」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・試験</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・課題</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・授業中の態度、積極性</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> </table>			・レポート	30%	・試験	20%	・課題	30%	・授業中の態度、積極性	20%
・レポート	30%											
・試験	20%											
・課題	30%											
・授業中の態度、積極性	20%											
<p>[参考文献]</p>												

# 平成31年度 シラバス

科目名 障害児・者の心理		授業の種類 (講義)演習・実習	授業担当者 森脇 浩子									
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 (前期)後期・通年								
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>発達期の障害児は、それぞれに個性があり発達の可能性を十分にもっていることを前提にしながら、その心理を障害の種類ごとに学習する。また、成人期の障害者の心理を、家族とのかかわりや地域との関連性を踏まえながら、社会を構成する一員としての立場から考察する。</p>												
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>発達期の障害の種類(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥・多動)について理解を深めさせる。成人期の障害については、障害者を社会の働き手として捉えながら、社会生活上の問題について現状を理解させ、求められる支援について学ばせる。</p>												
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>障害の種類について正しい知識を取得する。障害児・者の心理を把握し、どういった点に支援が必要か、どのように支援を行うかについて理解を深める。</p>												
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・障害徳性を理解することの重要性について</li> <li>2 障害受容(本人の立場、家族の立場)について</li> <li>3 身体障害児・者の心理特性と援助</li> <li>4 視覚障害児・者の心理特性と援助</li> <li>5 聴覚障害児・者の心理特性と援助</li> <li>6 知的児・者の心理特性と援助</li> <li>7 発達障害児・者の心理特性と援助①</li> <li>8 発達障害児・者の心理特性と援助②</li> <li>9 精神障害者の心理特性と援助①</li> <li>10 精神障害者の心理特性と援助②</li> <li>11 精神障害者の心理特性と援助③</li> <li>12 心理テストの活用について</li> <li>13 障害児への援助と家庭、学校、医療機関との連携</li> <li>14 障害者への援助と家庭、職場、医療機関との連携</li> <li>15 まとめ</li> </ol>												
<p>[使用テキスト]</p> <p>「障害者の心理・こころ」学術図書出版社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・試験</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・課題</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・授業中の態度、積極性</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> </table>			・レポート	30%	・試験	20%	・課題	30%	・授業中の態度、積極性	20%
・レポート	30%											
・試験	20%											
・課題	30%											
・授業中の態度、積極性	20%											
<p>[参考文献]</p>												

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅲ		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 森脇 浩子	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 前期・後期・通年
[授業の目的・ねらい] 社会福祉援助に必要な援助技術を実践力として修得させる。				
[授業全体の内容の概要] 個別援助技術の内容や展開過程を実践的に学ぶ。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 具体的な課題別の相談援助事例を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。 具体的な相談援助場面及び相談援助の過程のロールプレイから、個別援助技術を身につける。				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション・社会的排除に関する相談援助について 2 障害者の就労支援に関する相談援助について 3 ひとり親家庭の就労支援に関する相談援助について 4 病院からの退院に関する相談援助について 5 家庭内暴力(DV)に関する相談援助について 6 高齢者への虐待に関する相談援助について 7 学校でのいじめ問題に関する相談援助について 8 低所得者への相談援助について 9 ホームレスへの相談援助について 10 要介護高齢者とその家族への相談援助について 11 認知症高齢者とその家族への相談援助について 12 身体障害者とその家族への相談援助について 13 知的障害者とその家族への相談援助について 14 児童養護施設入所児童とその家族への相談援助について 15 在住外国人への相談援助について・まとめ				
[使用テキスト] 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)「新・社会福祉士 相談援助演習」中央法規			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・レポート 30% ・試験 20% ・課題 30% ・授業中の態度、積極性 20%	
[参考文献] 社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規 養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規				

## 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅳ		授業の種類 講義・演習・ <b>実習</b>	授業担当者 奥野 治子	
授業の駒数 10	時間数 20	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 前期 <b>後期</b> 通年
[授業の目的・ねらい]				
個別・集団の援助技術と関連援助技術について学修する。				
[授業全体の内容の概要]				
個別・集団の援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
個別・集団の援助技術と関連援助技術について理解し、実践技術を身につける。				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
1 ケースマネジメント				
2 コーディネーションとネットワーキング				
3 社会資源の活用・調整・開発				
4 ケースカンファレンス				
5 地域福祉計画の策定に関する相談援助実践				
6 地域におけるサービス提供に関する相談援助の実践				
7 地域におけるネットワーキングに関する相談援助の実践				
8 地域における権利擁護活動に関する相談援助の実践				
9 社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助の実践				
10 住民参加と組織化活動に関する相談援助の実践				
[使用テキスト]			[単位認定の方法及び基準]	
一般社団法人日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士 相談援助演習』中央法規。			(試験やレポートの評価基準など)	
			・レポート 70%	
			・授業中の態度、積極性 30%	
[参考文献]				
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。				

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク実習指導 I		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 内平 八重子							
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 前期・後期・通年						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉実習現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる関連業務や実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学修し、学生一人ひとりの実習に望む動機や学修目標を明確化する。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の重要性を理解する。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動機の明確化を図る。</li> <li>・実習記録の意義や内容を学習し、演習を行う。</li> <li>・個別支援計画作成について学び、演習を行う。</li> </ul>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>相談援助に係る知識、技術、関連業務を理解する。 記録の意義や内容を理解でき、書けるようになる。 プライバシー保護と守秘義務の重要性を理解する。</p>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習申込みまでの流れの理解</li> <li>2 専門職養成と実習の関係を明確化する</li> <li>3 相談援助実習の位置づけと内容</li> <li>4 ソーシャルワーカーとしての社会福祉士</li> <li>5 実習の場と形態</li> <li>6 契約関係のなかにある実習</li> <li>7 実習スーパービジョンの理解</li> <li>8 実習評価の理解</li> <li>9 事前学習として実習先を理解する意義</li> <li>10 実習先機関・施設、地域の理解</li> <li>11 実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(1)</li> <li>12 実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(2)</li> <li>13 実習先機関・施設の基本的な理解</li> <li>14 社会福祉士資格取得に関する動機および実習先種別に対する動機の明確化</li> <li>15 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解</li> </ol>										
<p>[使用テキスト]</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">試験</td> <td>70 点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>15 点</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>15 点</td> </tr> </table>			試験	70 点	授業態度	15 点	提出物	15 点
試験	70 点									
授業態度	15 点									
提出物	15 点									
<p>[参考文献]</p> <p>加藤幸雄他『相談援助実習ソーシャルワークを学ぶ人のための学習テキスト』中央法規 『福祉・保育実習の手引き』</p>										

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		授業の種類 <u>講義</u> ・演習・実習	授業担当者 内平 八重子							
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 前期 <u>後期</u> ・通年						
<p>[授業の目的・ねらい]            実習の事前学習として、実習先の利用者理解、分野理解を行う。            施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]            ・実習先の利用者理解、職種理解を行う。            ・実習計画の意味と必要性を学び、立案及び修正を行う。            ・一連の支援の流れを理解する。            ・基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成を理解するために、演習を行う。</p>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]            実習の事前学習として、実習先の利用者理解、分野理解ができる。            施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解ができる。            相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得する。</p>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]            コマ数            1 相談援助実習の仕組み            2 配属先決定後から実習開始までの流れを理解する            3 配属先実習機関・施設の理解            4 施設概要の作成            5 実習計画の作成            6 実習計画書を作成する            7 事前訪問における確認            8 事前訪問における準備            9 相談援助技術の理解と実習における実践(1)            10 相談援助技術の理解と実習における実践(2)            11 相談援助技術の理解と実習における実践(3)            12 相談援助技術の理解と実習における実践(4)            13 実習評価の理解            14 実習記録の理解            15 実習スーパービジョン、訪問指導の理解</p>										
<p>[使用テキスト]            一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]            (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">試験</td> <td>70 点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>15 点</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>15 点</td> </tr> </table>			試験	70 点	授業態度	15 点	提出物	15 点
試験	70 点									
授業態度	15 点									
提出物	15 点									
<p>[参考文献]            加藤幸雄他『相談援助実習ソーシャルワークを学ぶ人のための学習テキスト』中央法規            『福祉・保育実習の手引き』            『福祉実習の学習ガイド』</p>										

# 平成31年度 シラバス

科目名 <b>地域福祉論</b>		授業の種類 <b>講義</b> 演習・実習	授業担当者 奥野 治子	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 <b>前期</b> 後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職の役割と実際、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実践について学修し、地域福祉の推進方法を理解する。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職の役割と実際、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実践について理解する。地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービス評価方法を含む)についても学ぶ。</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>地域福祉の基礎的理解に立ち、その推進方法を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新しい社会福祉システム</li> <li>2 新しい社会福祉システム</li> <li>3 地域福祉の基本的な考え方</li> <li>4 地域福祉の主体と福祉教育</li> <li>5 行政組織と民間組織の役割と実際</li> <li>6 行政組織と民間組織の役割と実際</li> <li>7 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割</li> <li>8 住民の参加と方法</li> <li>9 ソーシャルサポートネットワーク</li> <li>10 地域における社会資源の活用・調整・開発</li> <li>11 地域における福祉ニーズの把握方法と実際</li> <li>12 地域トータルケアシステムの構築と実際</li> <li>13 地域における福祉サービスの評価方法と実際</li> <li>14 災害支援と地域福祉</li> <li>15 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方</li> </ol>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法』中央法規。</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 70%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> </ul>	
<p>[参考文献]</p> <p>飯野音一『地域福祉の原理と展開』一橋出版 野口定久『新時代の地域福祉』みらい。 村田隆一『地域福祉の構想』筒井書房。</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 保健医療		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 内平 八重子							
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 3	配当時期 前期・後期・通年						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む)や保健医療サービスについて理解する。専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解する。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療サービスの変遷および今日的課題について学ぶ。</li> <li>・チーム医療を理解し、そのなかでの社会福祉専門職の役割が分かる。</li> <li>・保健医療サービス提供施設とシステムを学ぶ。</li> <li>・医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度について理解する。</li> <li>・地域包括ケアシステムの必要性や課題を学ぶ。</li> </ul>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>医療保険制度、保健医療サービスについて理解する。          専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。          保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について分かる。</p>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療とは何か</li> <li>2 医療関連職種について</li> <li>3 医療施設、介護施設について</li> <li>4 在宅支援のシステムについて</li> <li>5 医師の役割とインフォームドコンセントについて</li> <li>6 医療ソーシャルワーカーとその業務内容について</li> <li>7 医療保険制度について</li> <li>8 高額療養費制度について</li> <li>9 診療報酬制度について</li> <li>10 介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要</li> <li>11 保健医療サービスの連携の理論</li> <li>12 保健医療サービスの連携の実際</li> <li>13 地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識</li> <li>14 地域の保健医療ネットワークの実際</li> <li>15 保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割等のまとめ</li> </ol>										
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">試験</td> <td>70 点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>15 点</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>15 点</td> </tr> </table>			試験	70 点	授業態度	15 点	提出物	15 点
試験	70 点									
授業態度	15 点									
提出物	15 点									
<p>[参考文献]</p> <p>NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会 『医療福祉総合ガイドブック』医学書院</p>										

# 平成31年度 シラバス

科目名 社会保障政策論		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 奥野 治子	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 4	配当時期 前期 (後期) 通年
[授業の目的・ねらい]				
<p>社会保障の理念、目的、機能について学び、社会保険、公的扶助、社会福祉などの仕組みについて理解する。</p>				
[授業全体の内容の概要]				
<p>21世紀において社会保障が果たしている役割・機能、今後対応していかなければならない課題について学修する。社会保障の理念、目的、機能、社会保障の基本的なフレームワークとしての社会保険、公的扶助、社会福祉などの仕組みを学修する。その後、わが国における社会保障制度の体系上の特質を踏まえながら、これからわが国が取り組まなければならない社会保障の課題について学ぶ。</p>				
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
<p>社会保障が果たしている役割・機能、について理解する。具体的に、社会保険、公的扶助、社会福祉などの仕組みを理解する。その後、わが国における社会保障の課題について考える。</p>				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]				
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会保障の機能</li> <li>2 社会保障の財政</li> <li>3 世界の社会保障の歴史(救貧法から社会保障制度の確立と福祉国家への歩み)</li> <li>4 日本の社会保障の歴史(わが国の医療保険制度の歩み)</li> <li>5 医療保険(1)</li> <li>6 医療保険(2)</li> <li>7 生活保護制度</li> <li>8 社会福祉制度</li> <li>9 社会手当</li> <li>10 介護保険制度</li> <li>11 年金保険制度(1)</li> <li>12 雇用保険</li> <li>13 労働者災害補償保険</li> <li>14 社会保険と民間保険</li> <li>15 現在の社会保障の課題と今後の展望</li> </ol>				
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]		
<p>棕野美智子他『はじめての社会保障』有斐閣。</p>		<p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 70%</li> <li>・授業中の態度、積極性 30%</li> </ul>		
[参考文献]				
<p>山崎泰彦他『社会保障』中央法規。</p>				

## 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅴ		授業の種類 <del>講義</del> 演習・実習	授業担当者 中山 勇氣	
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 4	配当時期 <del>前期</del> 後期・通年
<p>[授業の目的・ねらい]            集団を活用した相談援助の意義、目的、方法、留意点について学習する。            特に高齢者、精神障害者、アルコール・薬物依存患者等に対する集団援助技術や自助グループについて事例を通して学び、各分野の個別領域への理解を深める。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]            ・高齢者領域におけるグループワークについて            ・精神障害者領域におけるグループワークについて            ・グループの種類や機能について            ・グループワークの展開過程について            ・ワーカーの役割について</p>				
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]            集団を活用した相談援助の意義、目的、方法、留意点について理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]            コマ数            1 人間・集団とグループワーク            2 福祉グループワーク            3 グループワークの歴史            4 グループワークの理論と動向            5 グループワークの原則と援助関係            6 グループワークの援助過程①            7 グループワークの援助過程②            8 グループワークのプログラム活動と社会資源            9 グループワークの記録と評価            10 高齢者領域におけるグループワーク            11 児童領域におけるグループワーク            12 知的障害者領域におけるグループワーク            13 精神障害者領域におけるグループワーク            14 ボランティア領域におけるグループワーク            15 講義振り返り・試験</p>				
<p>[使用テキスト]            『社会福祉士 相談援助演習』中央法規            『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]            (試験やレポートの評価基準など)            期末試験を実施し、本学の学則に従って評価する。</p>	
<p>[参考文献]</p>				

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習Ⅵ		授業の種類 講義 <u>演習</u> 実習	授業担当者 先野 祐史							
授業の駒数 10	時間数 20	配当学科 社会福祉科	学年 4	配当時期 前期 <u>後期</u> 通年						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>相談援助に係る知識と技術について、相談援助実習における個別的な体験を視野に入れつつ、それを一般化して実践的な技術として習得できるようにする。そのため、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 治療モデル・環境モデル・生活モデル・ストレングスモデルの理解</li> <li>② 心理社会的アプローチ・機能的アプローチの理解</li> <li>③ 問題解決アプローチ・危機介入アプローチの理解</li> <li>④ 行動変容アプローチ・エンパワメントアプローチの理解</li> <li>⑤ 家族システム論・ケアマネジメントの理解</li> <li>⑥ 事例研究・事例分析の理解</li> </ol>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>実習体験を通じた事例検討及びケース報告書の作成・発表等を通して実習の成果を振り返る。</p>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談援助のモデルについて理解し、実践する</li> <li>2 心理社会的アプローチについて理解し、実践する</li> <li>3 機能的アプローチについて理解し、実践する</li> <li>4 問題解決アプローチについて理解し、実践する</li> <li>5 危機介入アプローチについて理解し、実践する</li> <li>6 行動変容アプローチについて理解し、実践する</li> <li>7 エンパワメントアプローチについて理解し、実践する</li> <li>8 家族システム論について理解し、実践する</li> <li>9 ケアマネジメントについて理解し、実践する</li> <li>10 事例研究・事例分析について理解を促進する</li> </ol>										
<p>[使用テキスト]</p> <p>社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助演習』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="border: none;">授業態度</td> <td style="border: none; text-align: right;">70</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">出席状況</td> <td style="border: none; text-align: right;">15</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">提出物</td> <td style="border: none; text-align: right;">15</td> </tr> </table>			授業態度	70	出席状況	15	提出物	15
授業態度	70									
出席状況	15									
提出物	15									
<p>[参考文献]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ』 中央法規</p>										

# 平成31年度 シラバス

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 内平 八重子							
授業の駒数 15	時間数 30	配当学科 社会福祉科	学年 4	配当時期 前期・後期・通年						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>学生自身の現場実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められている資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。</p>										
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習全体の振り返り</li> <li>・実践事例の振り返り</li> <li>・実習報告書の作成と発表</li> <li>・実習報告の意見交換</li> </ul>										
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士として求められている役割を理解する。</li> <li>・価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。</li> <li>・実習を振り返り、体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、体系立てていく力が身につく。</li> </ul>										
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習終了後からの流れを理解する</li> <li>2 「実習のまとめ」を作成</li> <li>3 社会福祉専門職についての理解…各種手続き等</li> <li>4 社会福祉専門職についての理解…相談援助業務等</li> <li>5 社会福祉専門職についての理解…行事等の実施過程</li> <li>6 職種間連携についての理解</li> <li>7 実習先機関・施設の社会的連携についての理解</li> <li>8 専門職の倫理綱領と実践についての理解</li> <li>9 ソーシャルワーカーとしての自分についての理解を深める</li> <li>10 実習評価の理解</li> <li>11 実習後の学習課題</li> <li>12 実践事例の報告と検討</li> <li>13 実習の全体総括</li> <li>14 「実習報告書」の草稿作成</li> <li>15 「実習報告書」の作成</li> </ol>										
<p>[使用テキスト]</p> <p>一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修) 『社会福祉士 相談援助実習』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">試験</td> <td>70 点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>15 点</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>15 点</td> </tr> </table>			試験	70 点	授業態度	15 点	提出物	15 点
試験	70 点									
授業態度	15 点									
提出物	15 点									
<p>[参考文献]</p> <p>加藤幸雄他『相談援助実習ソーシャルワークを学ぶのための学習テキスト』中央法規 『福祉・保育実習の手引き』 『福祉実習の学習ガイド』</p>										